

# トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (2)

## —出土遺物の追加報告—

Tokoro Chashi Site Okhotsk Locality

Volume 2

Additional Report of Excavated Artifacts

東京大学常呂実習施設研究報告 第15集



2020

東京大学大学院人文社会系研究科  
附属北海文化研究常呂実習施設

# トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (2)

## —出土遺物の追加報告—

Tokoro Chashi Site Okhotsk Locality

Volume 2

Additional Report of Excavated Artifacts

東京大学常呂実習施設研究報告 第15集



2020

東京大学大学院人文社会系研究科  
附属北海文化研究常呂実習施設

執 筆 者

熊木 俊朗      高橋   健      夏木 大吾

## 例言

- 1) 東京大学大学院人文社会系研究科および同文学部の考古学研究室と附属北海文化研究常呂実習施設は、1998年度～2005年度にかけて、北見市（旧・常呂町）教育委員会の全面的な協力のもと、北海道常呂川下流域のトコロチャシ跡遺跡オホーツク地点において発掘調査をおこなった。本書は、この調査で出土した遺物のうちの、未報告であった資料を報告するものである。
- 2) 上記の発掘調査では、オホーツク文化の7号・8号・9号・10号の竪穴住居跡が調査されたが、この調査についてはすでに以下の報告書が刊行されている。

東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設編 2012 『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点』東京大学大学院人文社会系研究科

7号～10号の各竪穴に伴う床面出土遺物については、一部の石器等を除き上記の報告書にて報告済みである。本書では、上記の報告書に掲載していなかった竪穴埋土等の出土遺物を中心に報告する。発掘調査の詳細については、上記の報告書を参照されたい。

- 3) トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点の発掘調査、ならびに本報告書にて報告する遺物の研究にあたっては、以下の助成を受けた。

平成11年度～平成14年度 科学研究補助金基盤研究(B)「居住形態と集落構造からみたオホーツク文化の考古学的研究」(課題番号11410106 研究代表者：宇田川洋)

平成19年度～平成22年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」(課題番号19320124 研究代表者：熊木俊朗)

平成28年度～令和2年度(予定) 科学研究費補助金基盤研究(B)「アイヌ文化形成史上の画期における文化接触－擦文文化とオホーツク文化－」(課題番号16H03505 研究代表者：熊木俊朗)

- 4) 遺構・遺物の図化・写真は以下の者が担当した。

土器・土製品実測図：山根美紀・熊木俊朗・國木田大

石器実測図：夏木大吾・山根美紀

骨角器実測図：高橋 健・山根美紀

土器写真：熊木俊朗

骨角器写真：高橋 健

- 5) 本書各章の執筆は、報文末尾に氏名を記した者がおこなった。内容の責任はそれぞれの執筆者が負う。
- 6) 本書の編集は熊木俊朗がおこなった。
- 7) 本研究の推進にあたり、北見市、及び北見市教育委員会から全面的なご協力をいただいた。記して謝意を表す。



# トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (2)

## ―出土遺物の追加報告―

### 目次

例言

第一章	遺跡・遺構の概要と本書掲載資料について	1
1	遺跡・遺構の概要	1
2	本書掲載資料について	2
第二章	土器	4
1	7号竪穴埋土	4
2	8号竪穴埋土	16
3	9号竪穴埋土	24
4	10号竪穴埋土	36
5	オホーツク地点の出土土器について	43
6	出土土器属性表	47
第三章	石器	63
1	7号竪穴	63
2	8号竪穴	69
3	9号竪穴	69
4	10号竪穴	72
5	出土石器属性表	73
第四章	骨角器	76
1	資料の概要	76
2	7号竪穴	76
3	8号竪穴	84
4	9号竪穴	88
5	10号竪穴	92
6	分類	92

7 出土骨角器属性表 ..... 96

英文目次 (Contents) ..... 105

写真図版 (PLATES)

報告書抄録

## 挿図目次

- Fig. 1 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1  
Fig. 2 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 2  
Fig. 3 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 3  
Fig. 4 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 4  
Fig. 5 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 5  
Fig. 6 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 6  
Fig. 7 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 7  
Fig. 8 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 8  
Fig. 9 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 9・土製品  
Fig. 10 7号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1  
Fig. 11 7号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 2  
Fig. 12 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1  
Fig. 13 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器 2  
Fig. 14 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器 3  
Fig. 15 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器 4  
Fig. 16 8号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1  
Fig. 17 8号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 2  
Fig. 18 8号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 3  
Fig. 19 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1  
Fig. 20 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 2  
Fig. 21 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 3  
Fig. 22 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 4  
Fig. 23 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 5  
Fig. 24 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 6・土製品  
Fig. 25 9号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1  
Fig. 26 9号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 2  
Fig. 27 9号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 3  
Fig. 28 9号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 4  
Fig. 29 10号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1  
Fig. 30 10号竪穴埋土出土のオホーツク土器 2  
Fig. 31 10号竪穴埋土出土のオホーツク土器 3  
Fig. 32 10号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1  
Fig. 33 10号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 2  
Fig. 34 10号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 3  
Fig. 35 7a号竪穴骨塚 a 出土の石器  
Fig. 36 7号竪穴骨塚 a・骨塚 b 出土の石器  
Fig. 37 7号竪穴床面出土の石器 1  
Fig. 38 7号竪穴床面出土の石器 2  
Fig. 39 8号竪穴骨塚・床面出土の石器  
Fig. 40 8号竪穴床面・9号竪穴埋土および床面出土の石器  
Fig. 41 9号竪穴床面・10号竪穴床面出土の石器  
Fig. 42 7号竪穴出土の骨角器 1  
Fig. 43 7号竪穴出土の骨角器 2  
Fig. 44 7号竪穴出土の骨角器 3  
Fig. 45 7号竪穴出土の骨角器 4  
Fig. 46 7号竪穴出土の骨角器 5  
Fig. 47 7号竪穴出土の骨角器 6



Fig. 48 7号竖穴出土の骨角器 7

Fig. 49 8号竖穴出土の骨角器 1

Fig. 50 8号竖穴出土の骨角器 2

Fig. 51 8号竖穴出土の骨角器 3

Fig. 52 9号竖穴出土の骨角器 1

Fig. 53 9号竖穴出土の骨角器 2

Fig. 54 9号竖穴出土の骨角器 3

Fig. 55 10号竖穴出土の骨角器

Fig. 56 8号竖穴出土の骨角器 (2012年報告分)

## 図版目次

PL. 1 7号竖穴埋土出土土器

PL. 2 7号竖穴埋土出土土器・土製品

PL. 3 8号竖穴埋土出土土器

PL. 4 9号竖穴埋土・10号竖穴埋土出土土器・  
土製品

PL. 5 7号竖穴出土骨角器

PL. 6 7号竖穴出土骨角器

PL. 7 7号竖穴出土骨角器

PL. 8 7号竖穴・10号竖穴出土骨角器

PL. 9 8号竖穴出土骨角器

PL. 10 8号竖穴・9号竖穴出土骨角器

PL. 11 9号竖穴出土骨角器

# 第一章 遺跡・遺構の概要と本書掲載資料について

## 1 遺跡・遺構の概要

トコロチャシ跡遺跡群（史跡常呂遺跡）は、常呂川の河口付近の右岸段丘上に位置する遺跡である。遺跡群が広がる段丘上には、段丘の北縁・南縁付近を中心に遺構の密度が高い地点が三箇所あり、北からそれぞれ「トコロチャシ跡遺跡」、「トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点」、「トコロチャシ南尾根遺跡」と呼称されてきた。「トコロチャシ跡遺跡群」は、これら三地点を含む遺跡群全体を指す通称であり、2002年に遺跡群全体が史跡常呂遺跡に追加指定されたことから、現在の正式名称は「史跡常呂遺跡」となっている。アイヌのチャシ跡や、オホーツク文化の竪穴住居跡などが窪みで残る竪穴群を有する特徴的な遺跡であり、学史的にも、内容の上でも、常呂川下流域の遺跡群を代表する遺跡の一つに数えられる。

トコロチャシ跡遺跡群では、1960年に東京大学文学部によって発掘調査が開始されて以来、数多くの調査が人文社会系研究科考古学研究室・附属常呂実習施設や旧・常呂町（現・北見市）によって実施されてきた。それらの調査の歴史や、発掘された遺構の詳細などの調査成果については、これまでに刊行された発掘調査報告書（駒井編 1964、東大考古学研究室編 1972、藤本編 1976、武田編 1986、東大考古学研究室・常呂実習施設編 2001、同 2012、同 2015）や概説書（熊木 2016、熊木・中村 2019）等に譲ることとして、ここでは省略する。

本書で報告するのは、トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点において 1998 年度～2005 年度にかけて実施された、4軒のオホーツク文化の竪穴住居跡の発掘調査で出土した遺物のうちの、これまで未報告であった分である。この発掘調査は、北見市（旧・常呂町）教育委員会の全面的な協力のもと、人文社会系研究科考古学研究室・附属常呂実習施設によっておこなわれたもので、すでに正式な発掘報告書が刊行されている（東大考古学研究室・常呂実習施設編 2012。以下、2012 年報告と略）。ただし、この 2012 年報告に掲載された出土遺物は竪穴床面出土の資料にほぼ限られており<sup>1)</sup>、それ以外の遺物は省略されていたため、本書では 2012 年報告の追加報告として、未報告であった資料を報告することとした。

遺物が出土した 4 軒の竪穴の概要を記しておこう。この 4 軒、すなわち 7 号・8 号・9 号・10 号の竪穴住居跡は、いずれもオホーツク文化貼付末期（熊木 2018）に属する。8 号を除く 7 号・9 号・10 号の各住居跡では住居を入れ子状に縮小してゆく建て替えが認められるため、大きさを一言で示すのは難しいが、4 軒とも最大時の大きさは長軸 11m を超える、大型の竪穴住居跡と言える。基本的にどの住居跡も六角形ないし五角形の平面形を呈し、「凹」の字形の貼床、住居中央の炉、奥壁部の骨塚を有しているが、これらの要素はいずれもオホーツク文化の竪穴住居跡を特徴づけるものである。すなわちこの 4

軒は、この文化の住居跡の典型的な例と言ってよいだろう。建て替えや廃絶の際に住居を焼いている点も特徴で、8号竪穴の古段階を除く全ての住居跡で、建て替え・廃絶時に火を受けている様子が確認されている。

## 2 本書掲載資料について

本書では、2012年報告に掲載されなかった出土遺物について、以下のような選別をおこなって掲載した。なお、掲載する遺物の選別は先に2012年報告の段階でもおこなっているが、その基準については同書の20-21頁を参照されたい。

### (1) 土器

竪穴床面と骨塚の出土土器については、すでに2012年報告に掲載したので本書では扱っていない。本書に掲載したのは、竪穴床面と骨塚以外、すなわち竪穴の埋土や表土、竪穴外の調査区表土から出土した土器である。故に、本書掲載の土器は竪穴に伴う資料ではない。

掲載にあたり、土器の出土位置や層位については、竪穴の内外・表土・竪穴埋土等を区別せずに一括して扱い、図版のキャプション等では便宜的に全てを「竪穴埋土」と表記した。一括した理由は、①調査区は竪穴の窪み部分が主体であり、竪穴外の調査区は面積も狭く、竪穴外の掘り下げも表土の一部のみで出土遺物も少ないこと、②特に9号竪穴・10号竪穴の調査区内では、発掘前に竪穴の窪みが確認できないほど、表土の削平や二次堆積土の混入が認められたこと、③竪穴埋土中や竪穴外で検出された遺構には、確実に伴う土器が確認できなかったこと、④竪穴埋土中の土器については、火山灰に基づく分層も確実な形では行えなかったこと、などの状況から、層位や竪穴の内外で資料を分けて掲載しても編年等の分析に資することは少なく、かえって煩雑になると判断したからである。

以上の「竪穴埋土」の出土土器について、本書では以下のような選別を行って掲載している。まず、完形土器は全て掲載した。ただし、2012年報告ですでに報告した埋土出土の完形土器については省略している。破片資料については以下のとおりである。オホーツク土器の口縁部破片は、細片を除いた大半の資料を掲載したが、文様が不明な例など、省略したものもある。オホーツク土器の胴部破片と底部破片については、器形復元が可能なものは全て掲載したが、その他の資料は残りの良いもののみを掲載し、ほとんどを省略している。オホーツク土器以外の擦文・続縄文・縄文土器については、器形復元が可能なものは全て掲載したが、それ以外の、特に胴部破片と底部破片はそのほとんどを省略した。口縁部破片は、擦文土器についてはなるべく多くの資料を掲載する一方で、続縄文及び縄文土器については、出土した型式に遺漏が生じない形で選別を行い、同一の型式の口縁部破片についてはその多くを省略した。特に、後北C<sub>2</sub>・D式の破片については多数の資料を省略している。

### (2) 石器

2012年報告で報告された石器は、基本的に竪穴床面と骨塚で出土位置を計測された資料（点取り遺物）のみであった。本書では、点取り遺物以外の竪穴床面・骨塚の出土石器のうち、剥片・細片・破片等を

除いた完形の道具類（ツール）について、全点を掲載した。すなわち、各竪穴住居跡に伴う完形の道具類は、基本的に全て報告されたことになる。なお、竪穴床面と骨塚以外の、竪穴埋土等から出土した石器は、ごく一部を除いて掲載していない。

### (3) 骨角器

2012年報告では竪穴床面と骨塚の出土資料を掲載したが、一部、省略したものがあつた。本書では、2012年報告で未報告であつた竪穴床面と骨塚の出土資料と、同じく未報告であつた竪穴埋土等の出土資料を掲載している。なお、9号竪穴発掘区の出土資料として報告する骨角器のなかには、竪穴埋土から竪穴外にかけて検出された動物遺体の集中遺構<sup>2)</sup>に伴う資料が含まれている。

### (4) 木製品・金属器

木製品と金属器については、2012年報告において竪穴床面・骨塚・埋土等の層位に関わらず全ての出土資料を掲載したので、本書では扱っていない。 (熊木俊朗)

## 註

- 1) ただし、全ての竪穴床面出土遺物が2012年報告に掲載されたわけではない。本文で後述するように、石器については2012年報告で床面や骨塚出土の資料の一部が省略されていたため、本書ではそれらに掲載している。逆に、2012年報告には床面以外の出土遺物の一部も掲載されている。その詳細については以後の本文を参照いただきたい。
- 2) 9号竪穴の埋土中に検出された「動物遺体の集中」については、2012年報告の139頁を参照されたい。

## 引用文献

- 熊木俊朗 2016 『ところ文庫 32 トコロチャシ跡遺跡群の発掘』常呂町郷土研究同好会
- 熊木俊朗 2018 『オホーツク海南岸地域古代土器の研究』北海道出版企画センター
- 熊木俊朗・中村雄紀 2019 「第一編 先史時代とその文化」『北見市史 上巻』北見市：7-249
- 駒井和愛編 1964 『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡 下巻』東京大学文学部
- 武田 修編 1986 『トコロチャシ南尾根遺跡 -1985年度-』常呂町教育委員会
- 東京大学文学部考古学研究室編 1972 『常呂』東京大学文学部
- 東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設編 2001 『トコロチャシ跡遺跡』東京大学大学院人文社会系研究科
- 東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設編 2012 『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点』東京大学大学院人文社会系研究科
- 東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設編 2015 『トコロチャシ跡遺跡群（史跡常呂遺跡）整備に伴う発掘調査報告書』東京大学大学院人文社会系研究科・北見市教育委員会
- 藤本 強編 1976 『トコロチャシ南尾根遺跡』常呂町

## 第二章 土器

### 1 7号竪穴埋土

#### (1) オホーツク土器・土製品 (Fig. 1~Fig. 9, PL. 1~PL. 2)

1~254 はオホーツク土器、255 はオホーツク文化のものとみられる土製品である。

1~198 は口縁部<sup>1)</sup>に貼付文系文様を有する土器である。このうち、1~13・17 は4本以上が1単位となる貼付文<sup>2)</sup>を含むものである。施文のない貼付文 (P) のみで構成される例が多いが、3 には刺突の施された貼付文 (C) が、9 にはひねりのある貼付文 (H) が併存している。

14~16・18~47 は3本1単位となる貼付文を含む土器である。これも施文のない貼付文 (P) のみで構成される例が多いが、14 にはひねりのある貼付文 (H)、24・44 には刻みのある貼付文 (K)、43 には刺突の施された貼付文 (C)、47 には K と C の両者が、それぞれ併存する。46 は、口縁部肥厚帯の下縁に刻文が併存する。28 と 29 は接合しないが同一個体の可能性が高い。

48~107 は2本1単位となる貼付文を含む土器である。48~92 は施文のない貼付文 (P) のみで構成されるもの、93~107 は施文のある貼付文 (H・K・C) を含むものとなる。後者でもほとんどの例は P を併存しているが、104 と 107 は P を含まず、104 は H と K の貼付文のみ、107 は K の貼付文のみで構成されている。

108~198 は1本単独の貼付文で文様が構成される土器である。108~142 は施文のない貼付文 (P) を含むもの、143~198 は P を含まないものである。前者 (施文なし (P) を含む) では、108~127 は施文なしの貼付文 (P) のみからなり、128~142 は P と施文ありの貼付文 (H・K) が併存している。一方、後者 (施文なし (P) を含まない) では、143~168 はひねりのある貼付文 (H) のみ、178~191・193~197 は刻みのある貼付文 (K) のみ、192 は刺突の施された貼付文 (C) のみで構成されており、169~177 では H と K の貼付文が併存している。また、198 では K の貼付文に加えて、口縁部肥厚帯の下縁に刻文が併存する。なお、185 と 193 では、部分的に施文なしの貼付文 (P) が付加されている。148 と 149 は接合しないが同一個体の可能性が高い。

199~206 は口縁部や頸部に沈線文系文様や刻文系文様を有し、貼付文系文様を併存しない土器である。199 と 202 は口唇部外縁に刻文を有し、199 はその下部に沈線文、202 は摩擦式浮文を有する。この 199 と 202 の土器は、器形と文様の構成から見て、道北部の沈線文系土器そのもの、もしくはその影響を強く受けた土器とみなすことができる。200・201 は沈線文、203 は刺突文、204 は刻文、205 は摩擦式浮文と刻文、206 は2本の刻線による「ハ」の字状の刻文を有する。

207~215 は口縁部が無文の土器である。肥厚帯を持たない例が目立つ。207 は口唇上と胴部に貼付

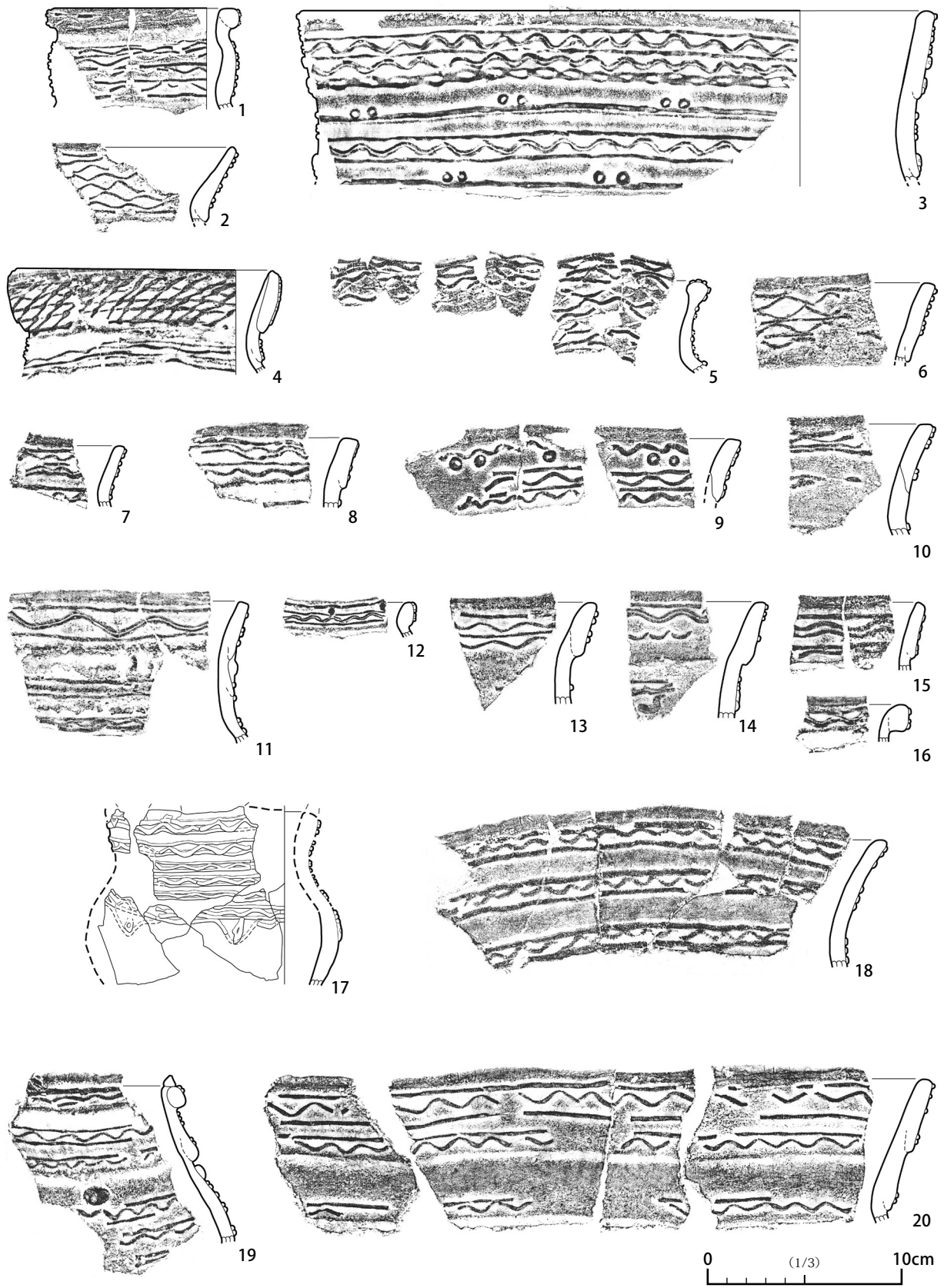


Fig. 1 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1

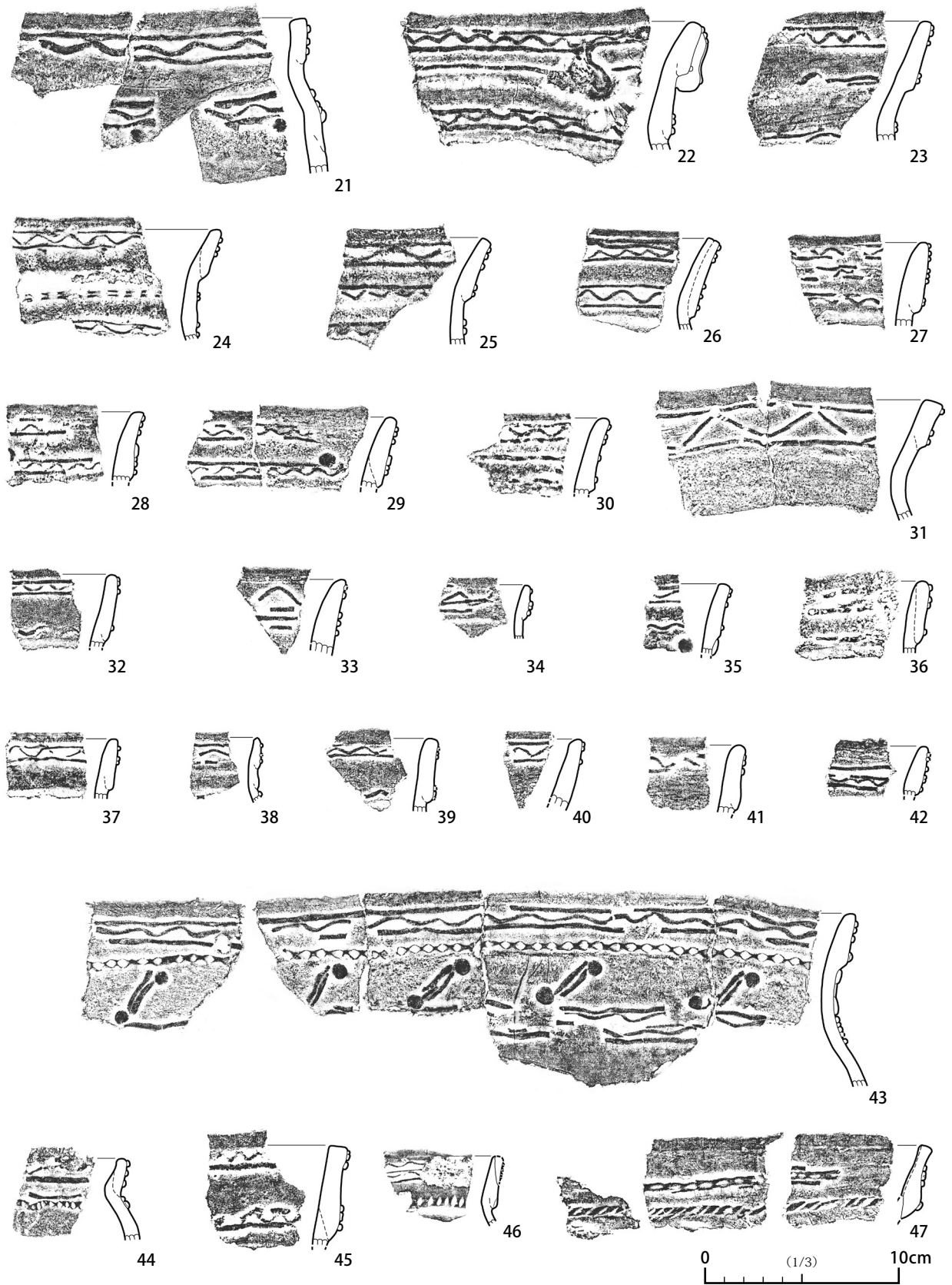


Fig. 2 7号竖穴埋土出土のオホーツク土器 2

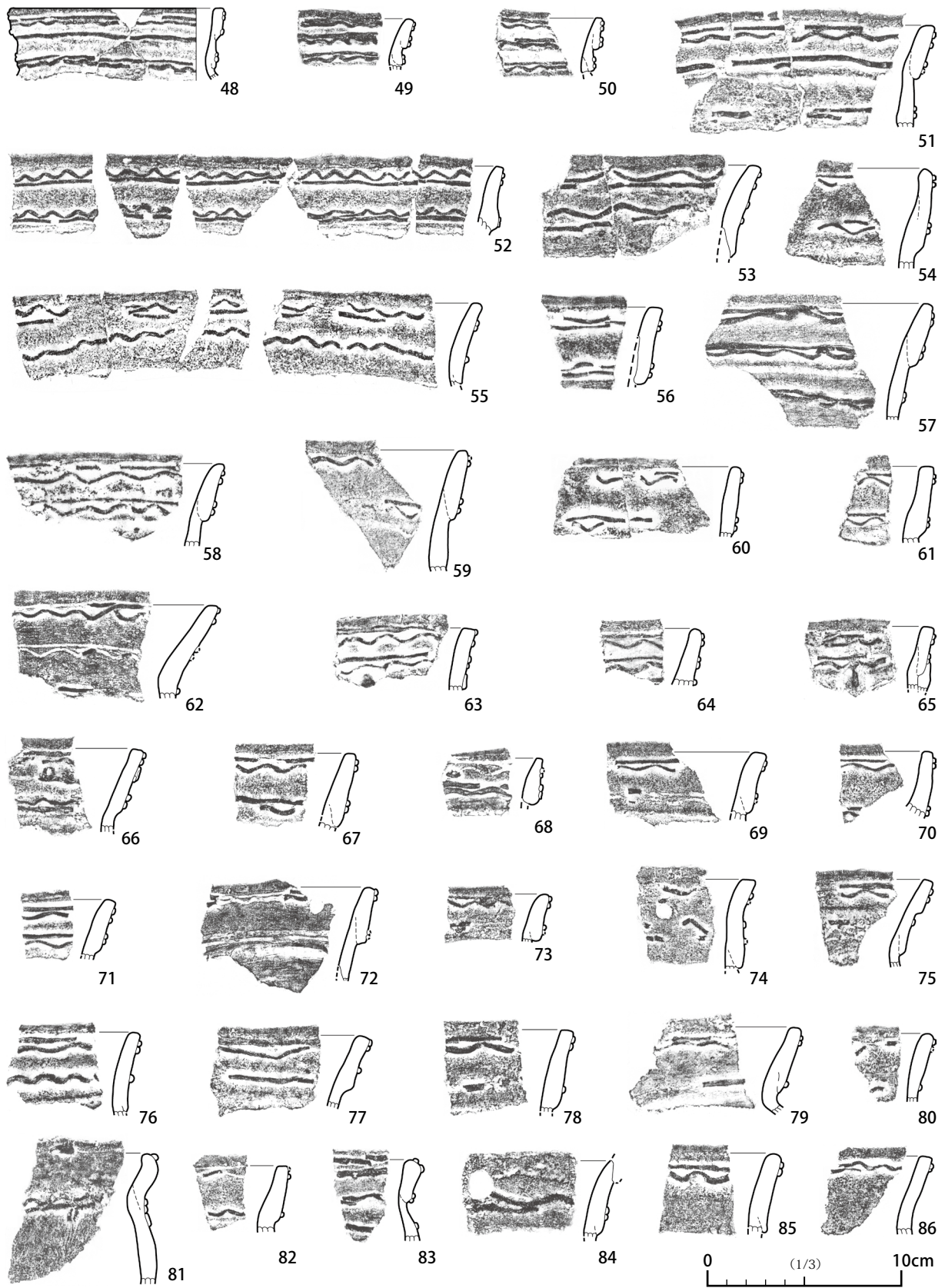


Fig. 3 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器3



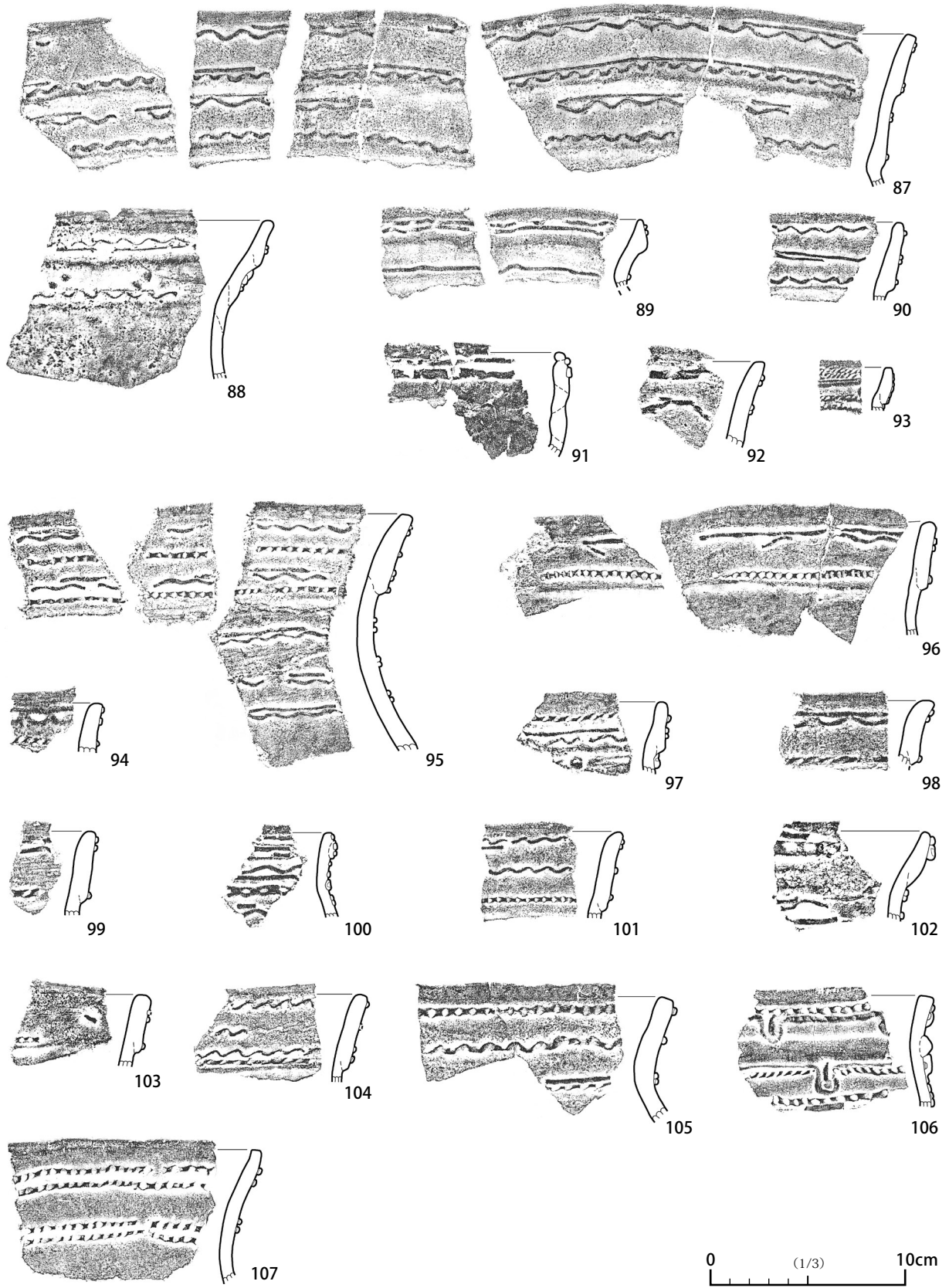


Fig. 4 7号竖穴埋土出土のオホーツク土器 4

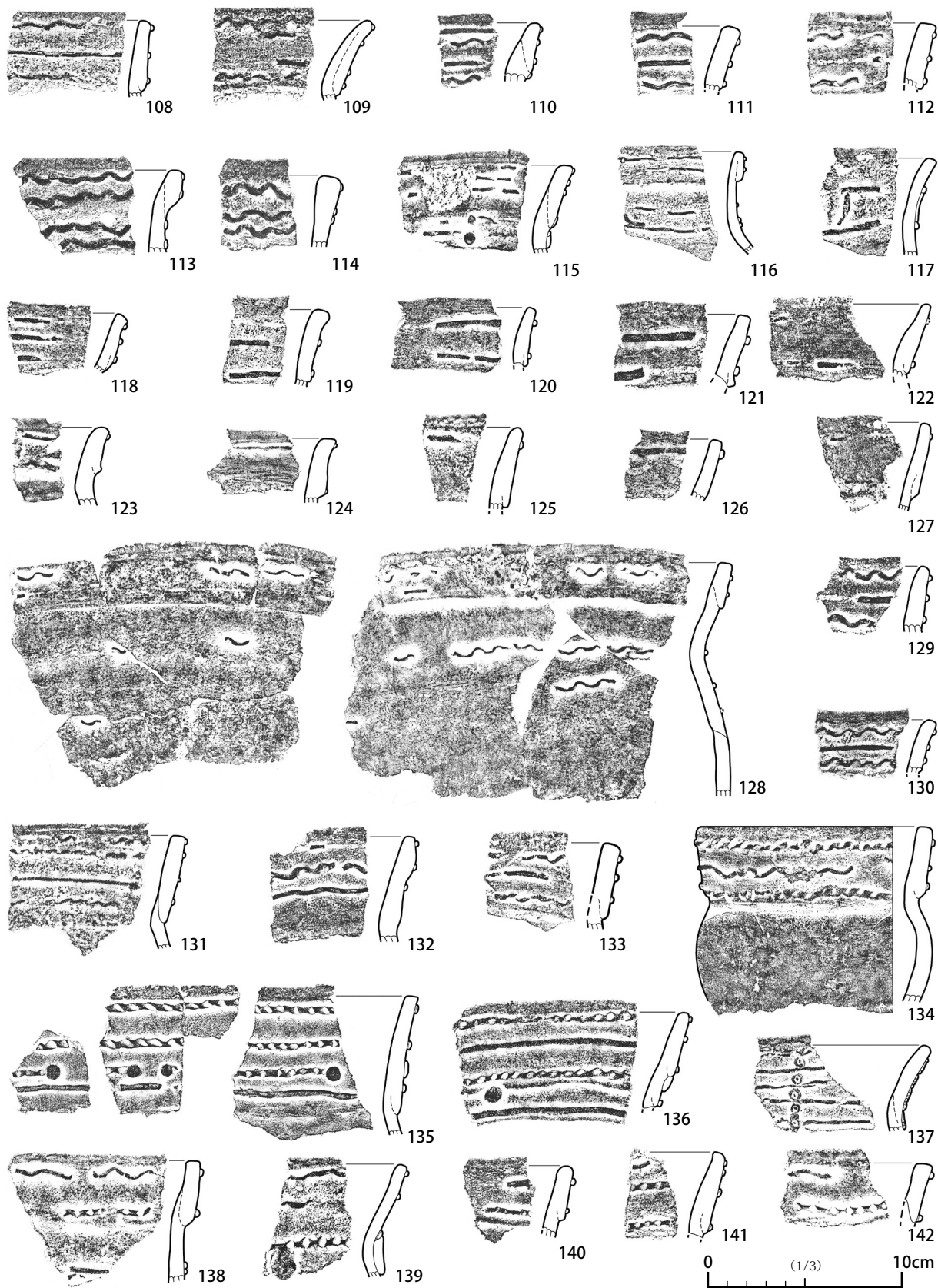


Fig. 5 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 5



Fig. 6 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器6

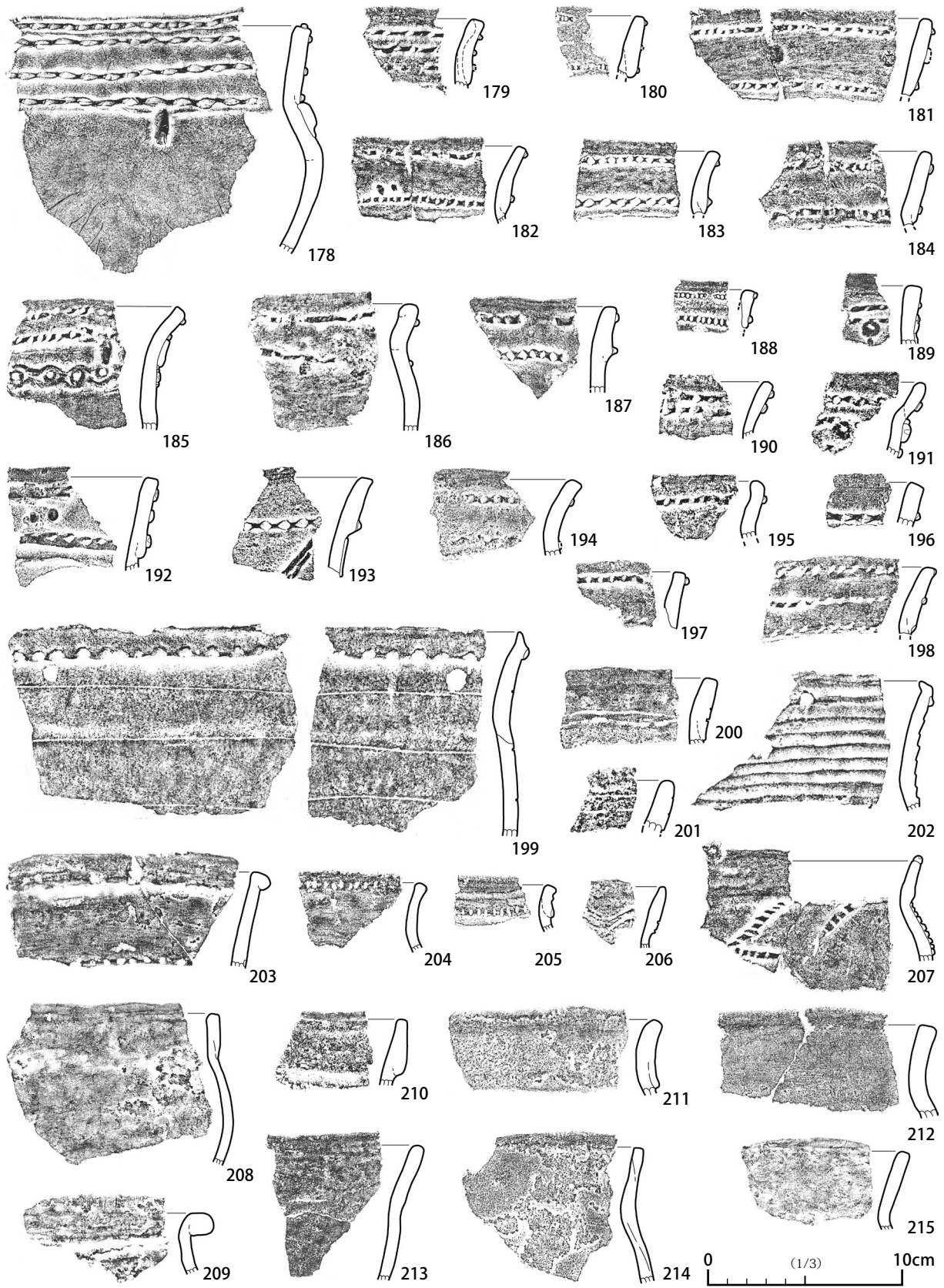


Fig. 7 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 7

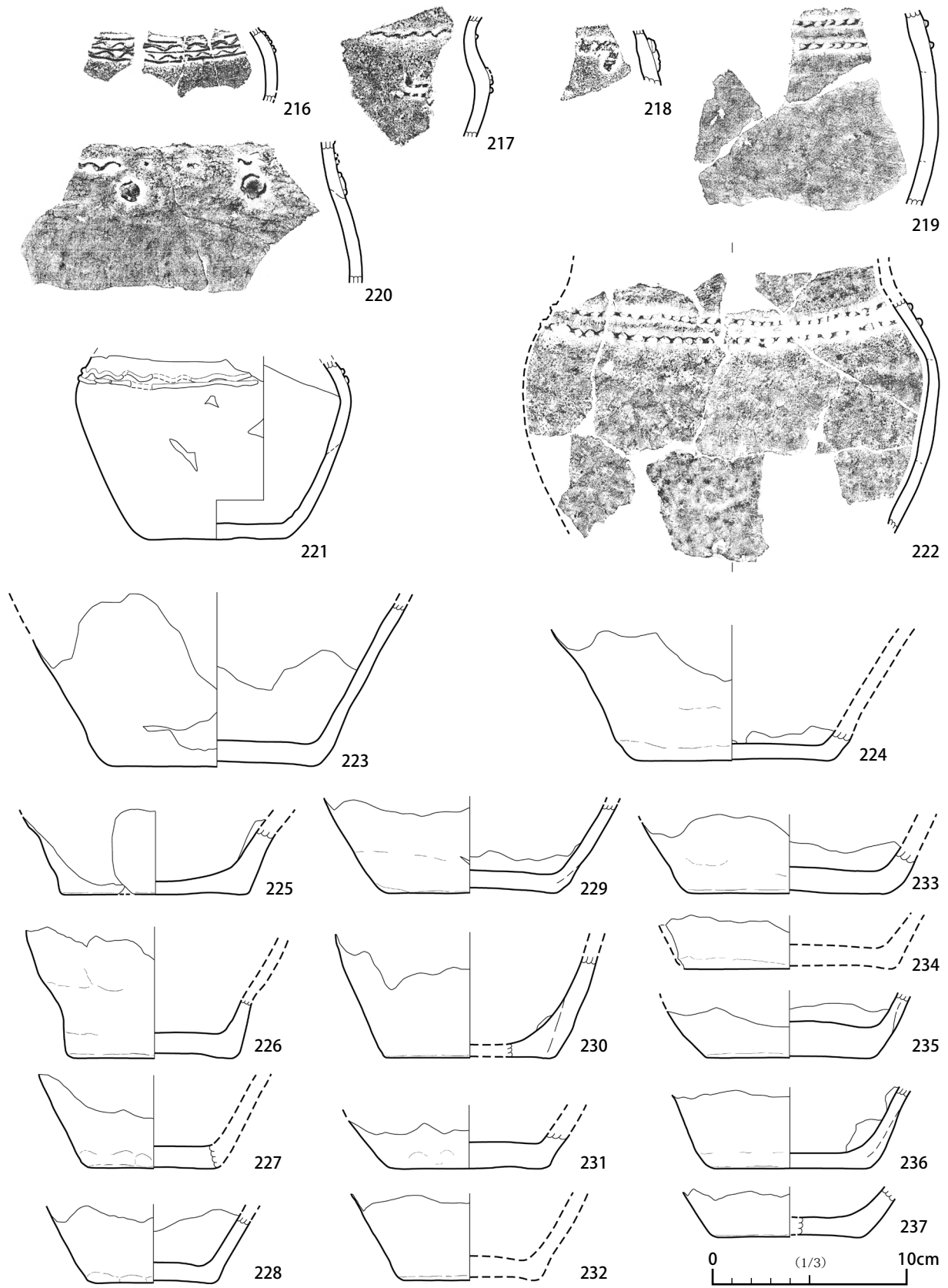


Fig. 8 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器 8

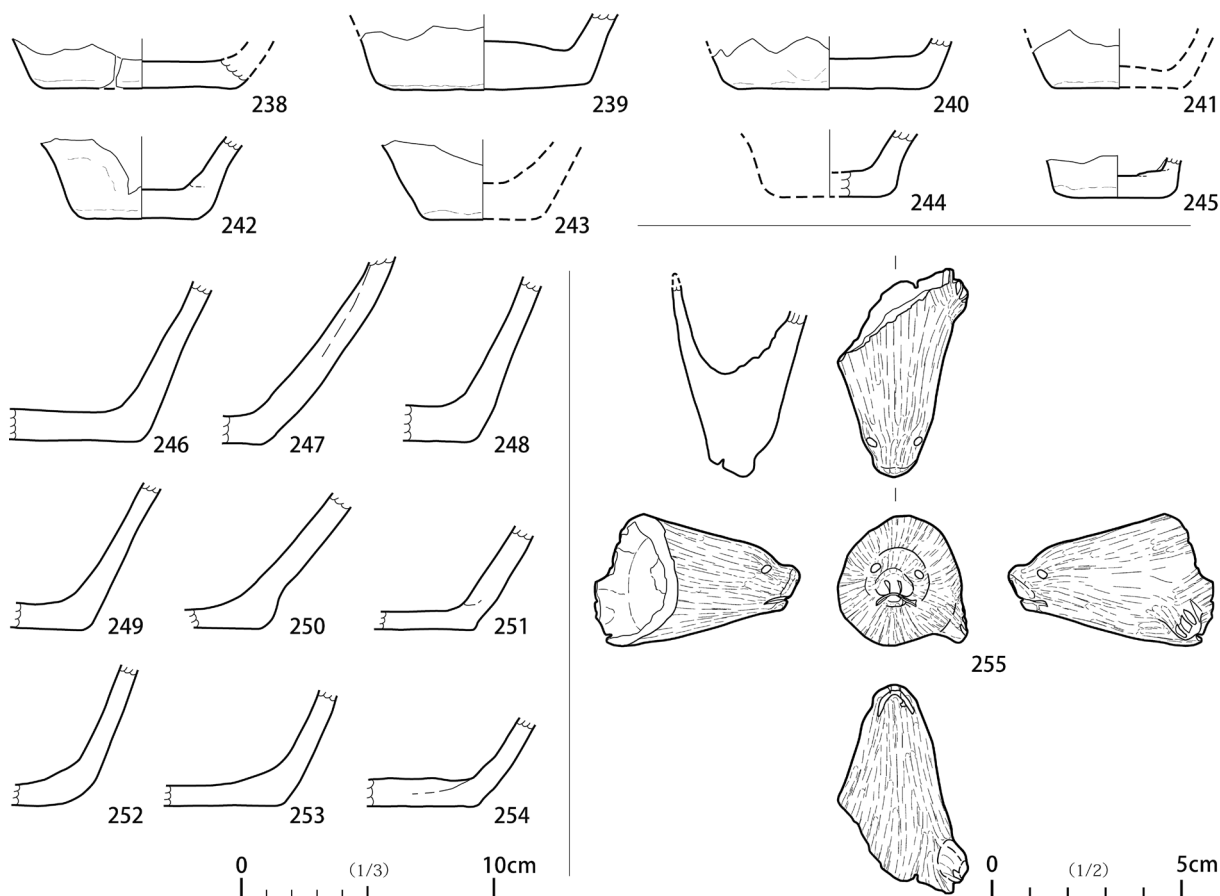


Fig. 9 7号竪穴埋土出土のオホーツク土器9・土製品

文を有する。

216～222は胴部の器形復元資料と破片である。いずれも胴部に貼付文系文様を有する。223～245は底部の器形復元資料、246～254は底部破片である。

255はアザラシとみられる海獣が表現された土製品である。7号竪穴の北東隅からやや内側（南西側）に入った地点（2012年報告 Fig. 20の微細図に示された範囲内）の、埋土IV層中から出土した。アザラシの頭部から前脚（鰭）部分までが表現されているとみられ、胴部側の内部は坏状に凹んでいる。左の前脚（鰭）が確認できるが、右の前脚の周辺部分は欠損している。胎土はきわめて緻密で、外面は丁寧にヘラ磨きされている。精緻で写実的な意匠であることから、オホーツク文化の土製品と判断した。

## (2) 擦文土器 (Fig. 10-1～18、PL. 2)

1～18は擦文土器。1は胴部破片で、文様の意匠は宇田川編年晩期（宇田川1980）のそれに近い。しかし、やや厚手で堅緻な胎土や、胴部がわずかにくびれて下半で屈曲する器形などは宇田川編年前期の土器を思わせるものであり、編年上の位置づけが難しい。2は口縁部の器形と頸部にみられる縦方向の沈線の特徴からすると、宇田川編年中期から後期に位置づけられよう。3～5は宇田川編年中期の土器である。6・7は口縁部の沈線文の意匠、8・9は胴部の文様の意匠からそれぞれ判断すると、いずれも宇田川編年前期の土器とみられる。10～16はきわめて薄手で堅緻な土器で、横走沈線が密に施文され

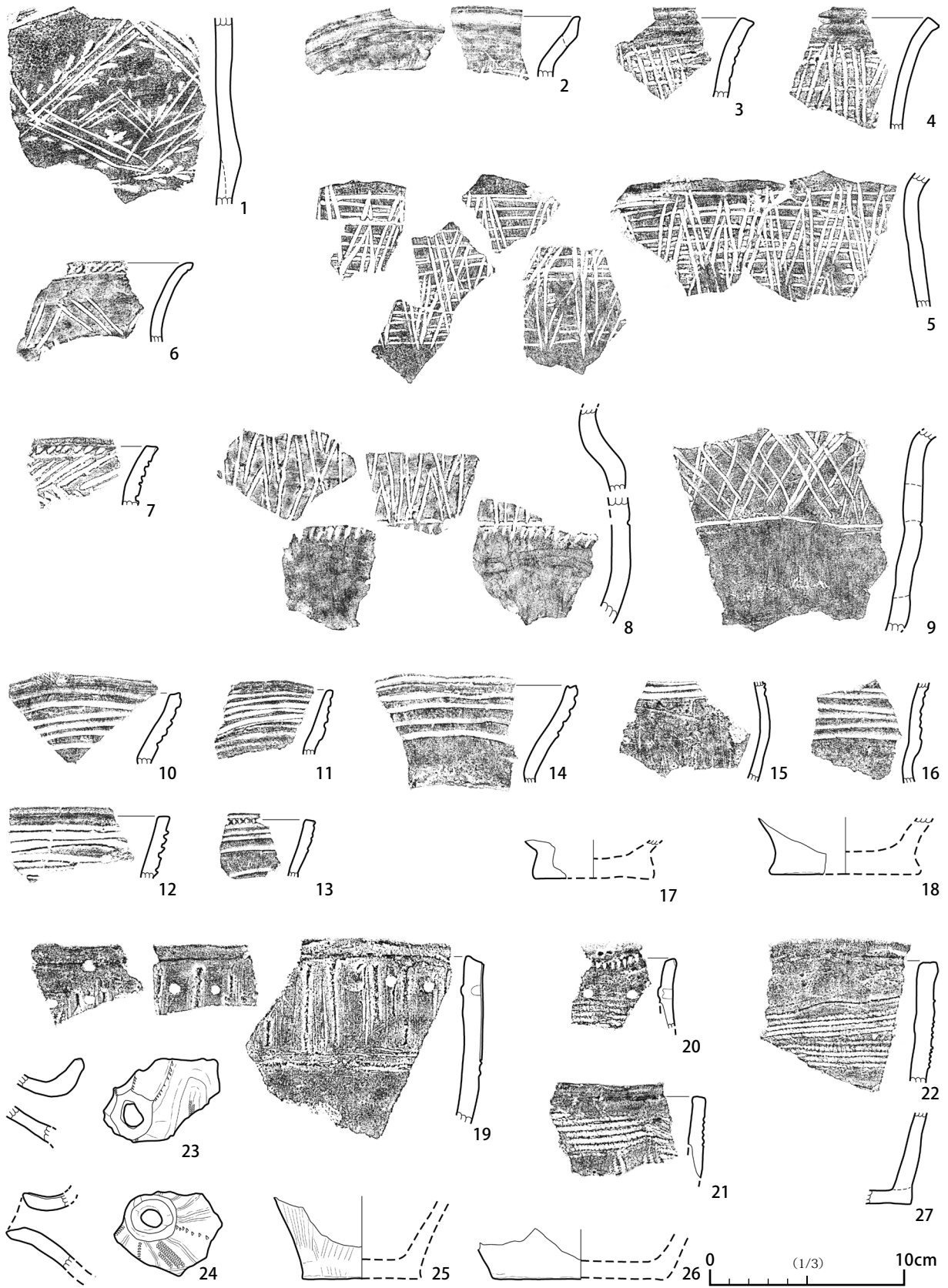


Fig. 10 7号竖穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1

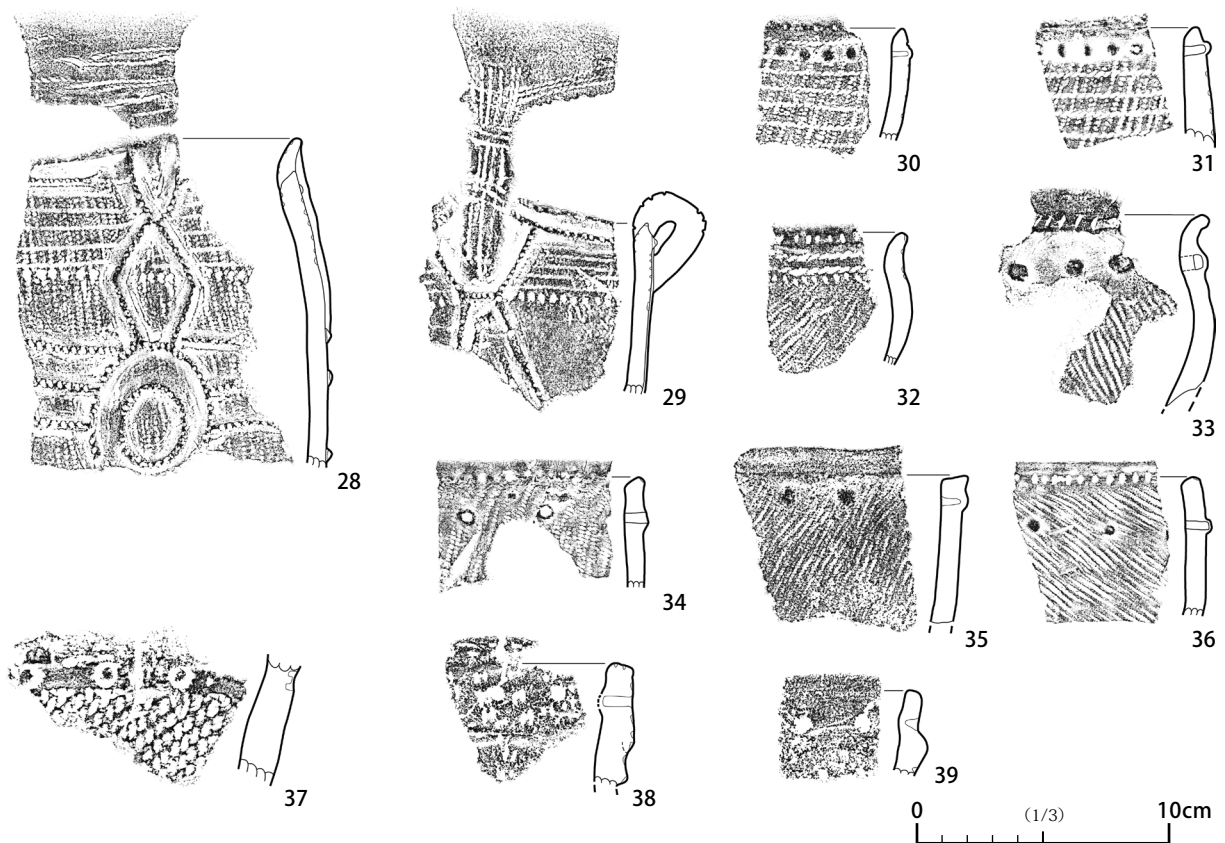


Fig. 11 7号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器2

ており、宇田川編年では前期、塚本編年（塚本 2002）では 3 期～4 期に相当する。特に、沈線の間は無文部が認められる 10・13・14 は塚本編年 3 期に相当する古手の土器であろう。この 10～16 の擦文土器は、いずれも搬入品の可能性がある（塚本 2012）。17・18 は擦文土器の底部破片である。

### (3) 続縄文土器 (Fig. 10-19～27・Fig. 11-28～35、PL. 2)

19 は北大 I 式土器である。口縁部に円形刺突文がめぐるが、それが途切れている部分もある。20～27 は後北 C<sub>2</sub>・D 式土器である。20～22 は口縁部破片で、20 の口縁部には円形刺突文がみられる。23・24 は後北 C<sub>2</sub>・D 式の注口土器の、注口部の破片である。25～27 は底部破片で、器形や胎土からみて後北 C<sub>2</sub>・D 式と判断される。

28・29 は宇津内 II b 式土器で、口唇直下には貼付文がめぐっている。30・31 は IO の突瘤文と縄線文を有する宇津内 II a 式土器である。32・33 は「元町 2 式」(熊木 1997) 土器である。2 点とも頸部がややくびれており、33 は IO の突瘤文を有する。器形等の特徴がやや異なるが、34・35 も元町 2 式に含めてよいとみられる。

### (4) 縄文土器 (Fig. 11-36～39)

36 は 34・35 と型式学的特徴に近いが、地文の特徴（斜縄文）や、突瘤文の間隔が離れている点などから、縄文晩期前葉の突瘤文土器と判断した。37 は北筒式土器の口縁部付近の破片で、複節の縄文と、円形文が確認できる。胎土には繊維がわずかに含まれる。細岡式土器（豊原 1996）であろう。38・39



は縄文前期後半の「岐阜ⅡA群」(藤本 1982a) に類する土器で、どちらも OI の円形刺突文と横にめぐる隆帯を有する。38 には櫛歯状工具による刺突文、39 にも刺突文が施されている。

## 2 8号竪穴埋土

### (1) オホーツク土器 (Fig. 12~Fig. 15、PL. 3)

1~129 はオホーツク土器である。

1~98 は口縁部に貼付文系文様を有する土器である。このうち、1~14 は4本以上が1単位となる貼付文を含むものである。1~13 は施文のない貼付文 (P) のみで構成されており、14 は施文なしの貼付文 (P) と刺突の施された貼付文 (C) が併存している。

15~37 は3本1単位となる貼付文を含む土器である。これも施文のない貼付文 (P) のみで構成される例が多いが、28・29 にはひねりのある貼付文 (H) が、16・35・36 には刻みのある貼付文 (K) が、それぞれ併存する。37 は、口縁部肥厚帯の下縁に刻文が併存する例となる。

38~71 は2本1単位となる貼付文を含む土器である。38~64・66・67 は施文のない貼付文 (P) のみで構成されるもの、65・68~71 は施文なし (P) と施文あり (H・K) の貼付文が併存するものとなる。

72~98 は1本単独の貼付文で文様が構成される土器である。ただし、77 と 86 の胴部文様には3本もしくは2本1単位の貼付文が併存している。72~86 は施文のない貼付文 (P) を含むもの、87~98 は P の貼付文を含まないものである。前者 (施文なし (P) を含む) では、72~82 は施文なし (P) の貼付文のみからなり、83~86 では P と施文あり (H・K) の貼付文が併存している。一方、後者 (施文なし (P) を含まない) では、88~95 はひねりのある貼付文 (H) のみ、96~97 は刻みのある貼付文 (K) のみで構成されているほか、87 では H と K の貼付文が併存しており、98 では K の貼付文と、口縁部肥厚帯に施された刺突文が併存している。79 と 80 は接合しないが同一個体の可能性が高い。

99 は沈線文を有する土器とみられるが、これは貼付文が剥落した結果、沈線文のように見えている可能性もある。100 は口唇外縁に刻文を有する土器である。

101~111 は口縁部が無文の土器である。肥厚帯を持たない例が目立つ。このうち、101~103 と 105 は頸部もしくは胴部に貼付文系文様を有する。

112~116 は胴部破片である。いずれも貼付文系文様を有する。117~129 は底部の器形復元資料である。129 は底面 (外面) に木目痕を有する。

### (2) 擦文土器 (Fig. 16-1~11、PL 3)

1~11 は擦文土器。1 は複段文様を有する宇田川編年後期の土器である。2~4 は斜格子目文などが施された破片で、文様等から宇田川編年後期~晩期頃の土器と判断される。5・6 は無文の口縁部破片である。宇田川編年中期~後期頃に属するものであろうか。7 は宇田川編年中期の土器である。8 は口縁部に沈線文を有する土器で、宇田川編年前期頃に位置づけられる。9 は口縁部に多数の横走沈線が施された土器で、宇田川編年前期に属する。10 は胴部破片で、胴部文様帯の下端に相当する位置に2条の

沈線が施されている。宇田川編年では前期、塚本編年では3期に相当する古手の土器とみられる。11は底部破片。

### (3) 続縄文土器 (Fig. 16-12~26・Fig. 17-27~49、PL 3)

12~30は後北C<sub>2</sub>・D式土器。12~26は口縁部破片で、12・13は円形刺突文を有する。19の口縁部には、帯縄文ではなく、斜縄文が水平にめぐっている。27・28は注口土器の注口部の破片。29・30は底部破片で、29の底面(外面)には帯縄文による文様が施されている。

31~37は宇津内Ⅱb式土器の口縁部破片で、どの例も口唇直下に貼付文がめぐっている。38~42は宇津内Ⅱa式土器の口縁部破片で、39はIO突瘤文を有しているが、他は突瘤文を持たない例となる。43~49は元町2式土器。43~47はIO突瘤文を有する。49もIOの刺突を有するが、外面に突瘤は形成されていない。45の地文は撚糸文である。47は波状口縁の土器で、口縁部の突起の頂部には刻みがある。

### (4) 縄文土器 (Fig. 17-50~55・Fig. 18、PL 3)

50は手づくねのミニチュア土器で、底部は丸みを帯び、体部には縄文が施されている。口縁部の一箇所には径2mmほどの穴が2ヶ穿たれている。丸底の器形からすると、幣舞式土器である可能性が高い。51は外面に刺突文、内面には突瘤を形成しないIOの刺突文が施されている。52は浅鉢とみられる口縁部破片で、外面には縄文、内面には縄端による刺突文が施されている。51・52とも縄文晩期の土器であろう。53はやや厚手の土器で、口縁部には円形刺突文、口唇外縁には鋭い刻文が施されている。帰属時期ないし型式としては、縄文晩期~続縄文初頭の土器のほか、北大式などの可能性も考えられるが、典型的な資料とは異なる点も多く、評価が難しい。ここでは型式不明としておく。54と55は縄文後期中葉の土器である。54は口縁部に沈線に挟まれた刻み列とOIの突瘤文などを有する。55は口縁部に刻み列と沈線を有する。

56~59は北筒式土器。56は羅臼式土器とみられる口縁部破片で、胎土にはわずかに繊維が含まれ、複節の縄文が施されている。57と58は接合しないが同一個体とみられる底部破片である。胎土には繊維が含まれ、体部には羽状縄文、底部付近には縦方向の沈線文が施されている。トコロ5類土器であろう。59は断面三角形の肥厚帯を有する口縁部破片で、トコロ6類土器である。胎土には繊維が含まれ、肥厚帯の表面と肥厚帯の直下には円形文が施されている。肥厚帯上の突起の頂部には刺突が施されている。

60は縄文前期後半の岐阜ⅡA群土器に類するもので、口縁部にOIの円形刺突文と横にめぐる隆帯を有する。隆帯上には刻線が施されており、器面にはくさび形の刺突文が施されている。61・62の胴部破片も60に関連する土器とみられる。61では短刻線が縦方向に、62では短刻線が矢羽状に施されている。

63~66は網走式土器である。63の口縁部には横にめぐる突帯が、64の口縁部には貼付文が付されており、63の突帯上には窪み状の加工が施されているが、他に施文はない。65と66は無文である。63・64・66の胎土にはごくわずかに繊維が含まれている。

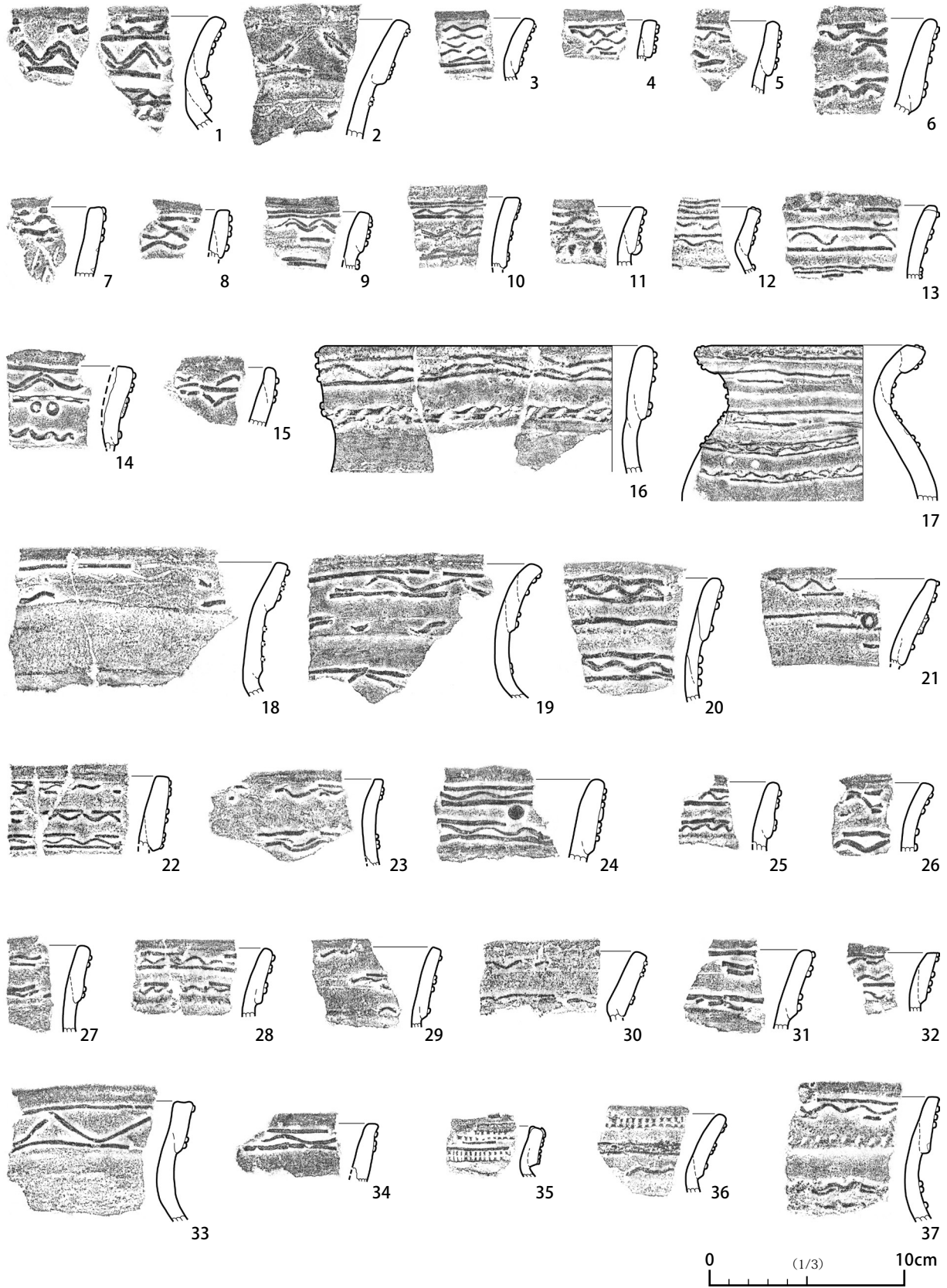


Fig. 12 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1

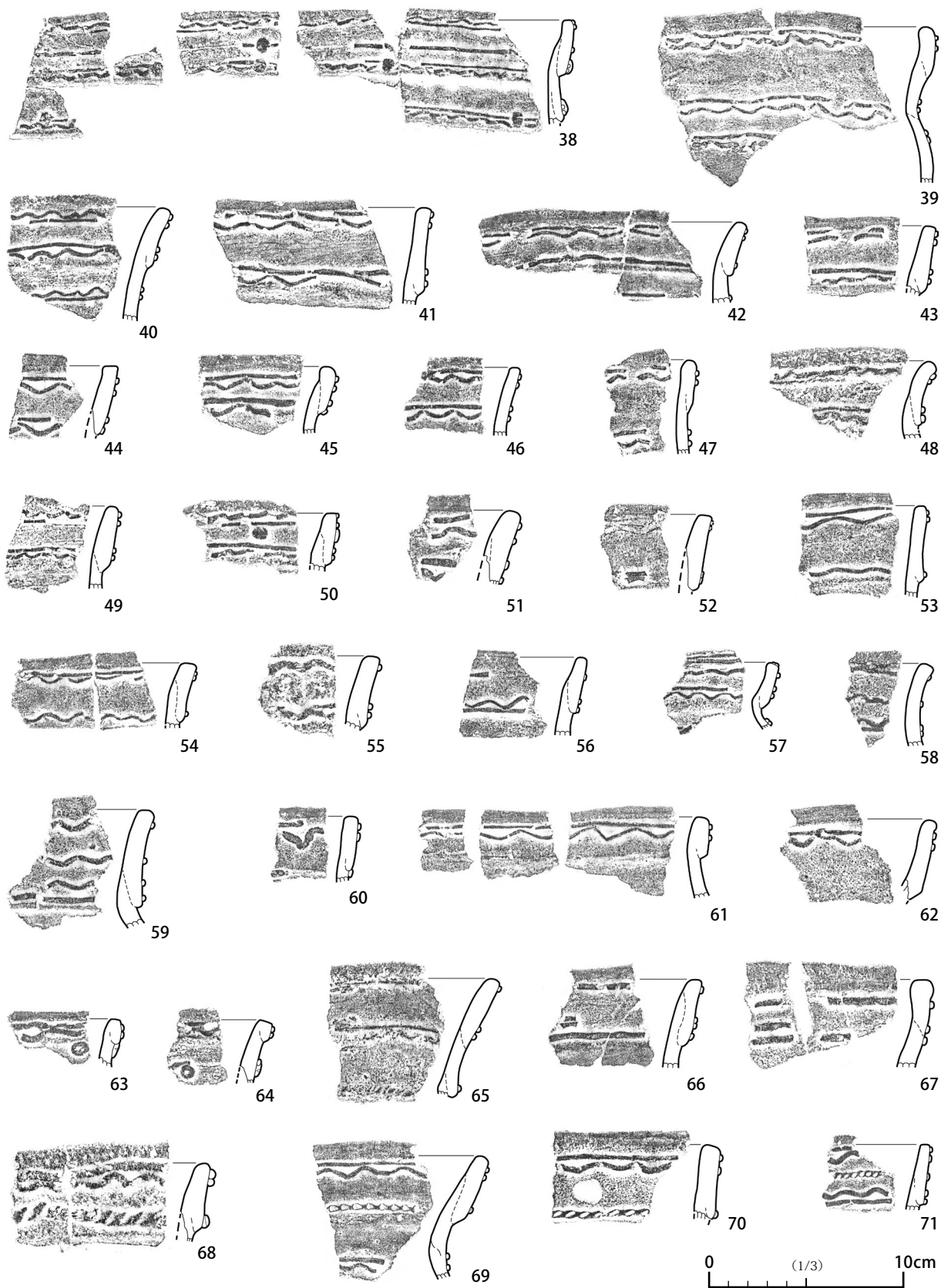


Fig. 13 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器2

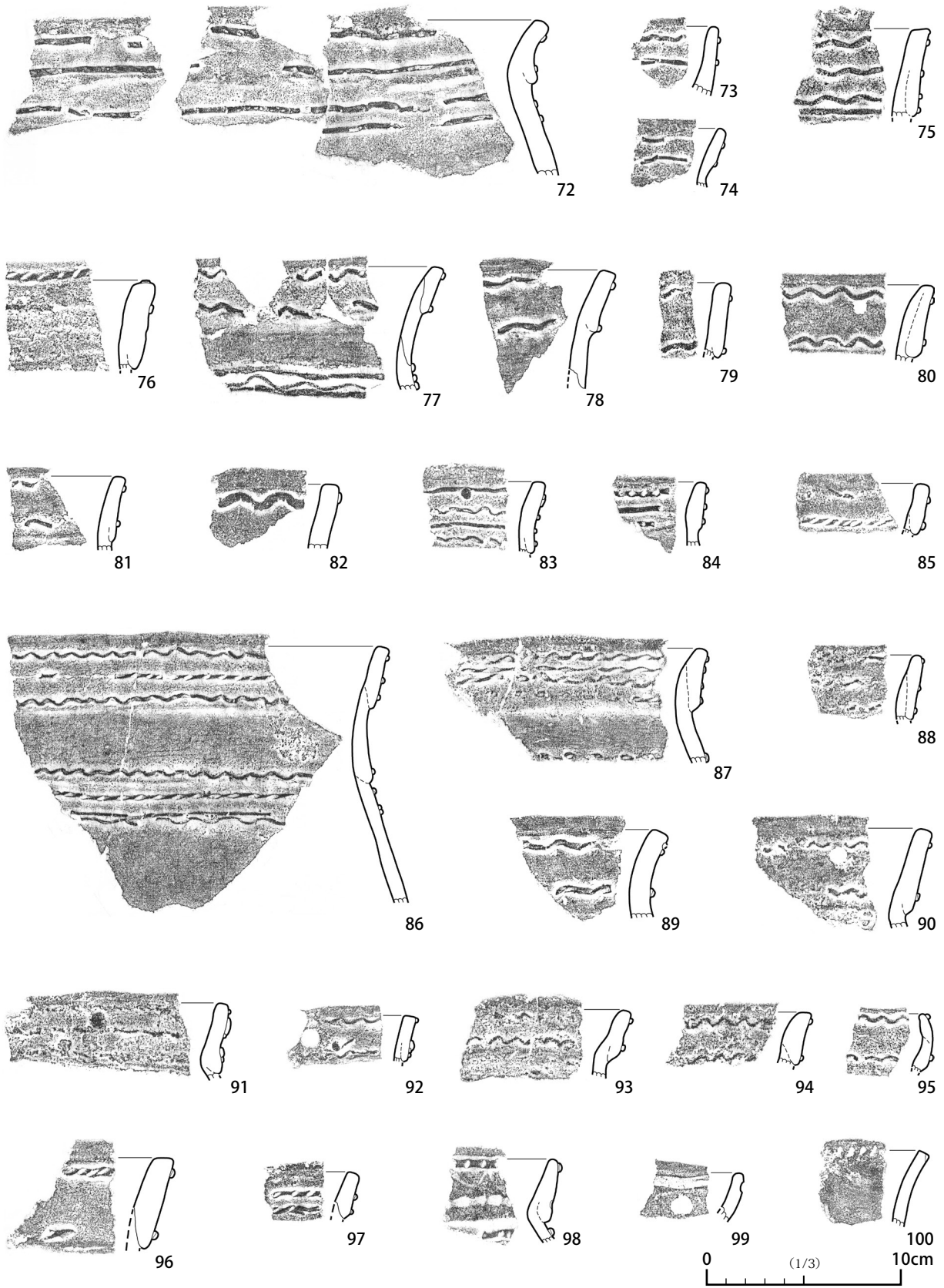


Fig. 14 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器3

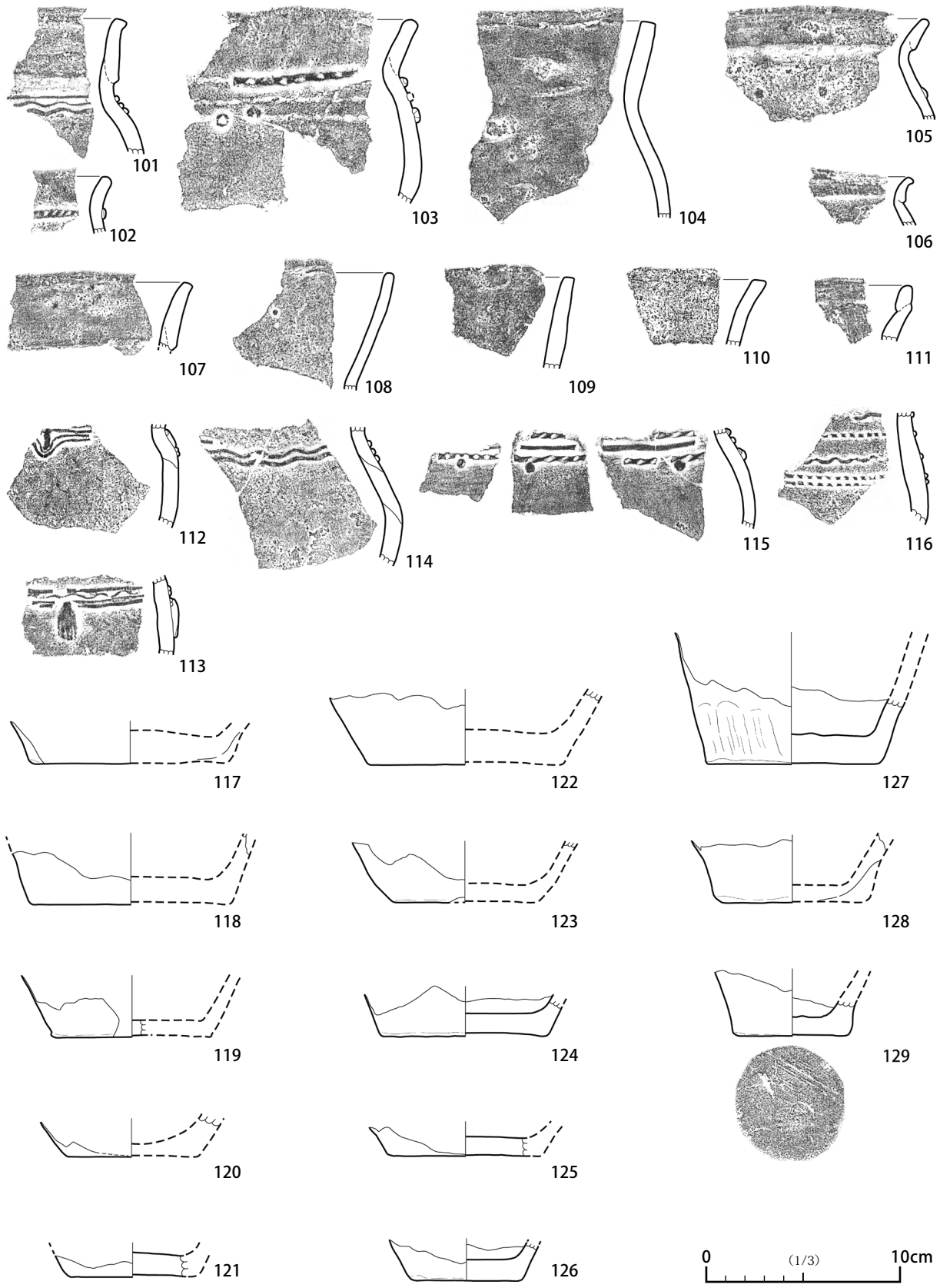


Fig. 15 8号竪穴埋土出土のオホーツク土器 4

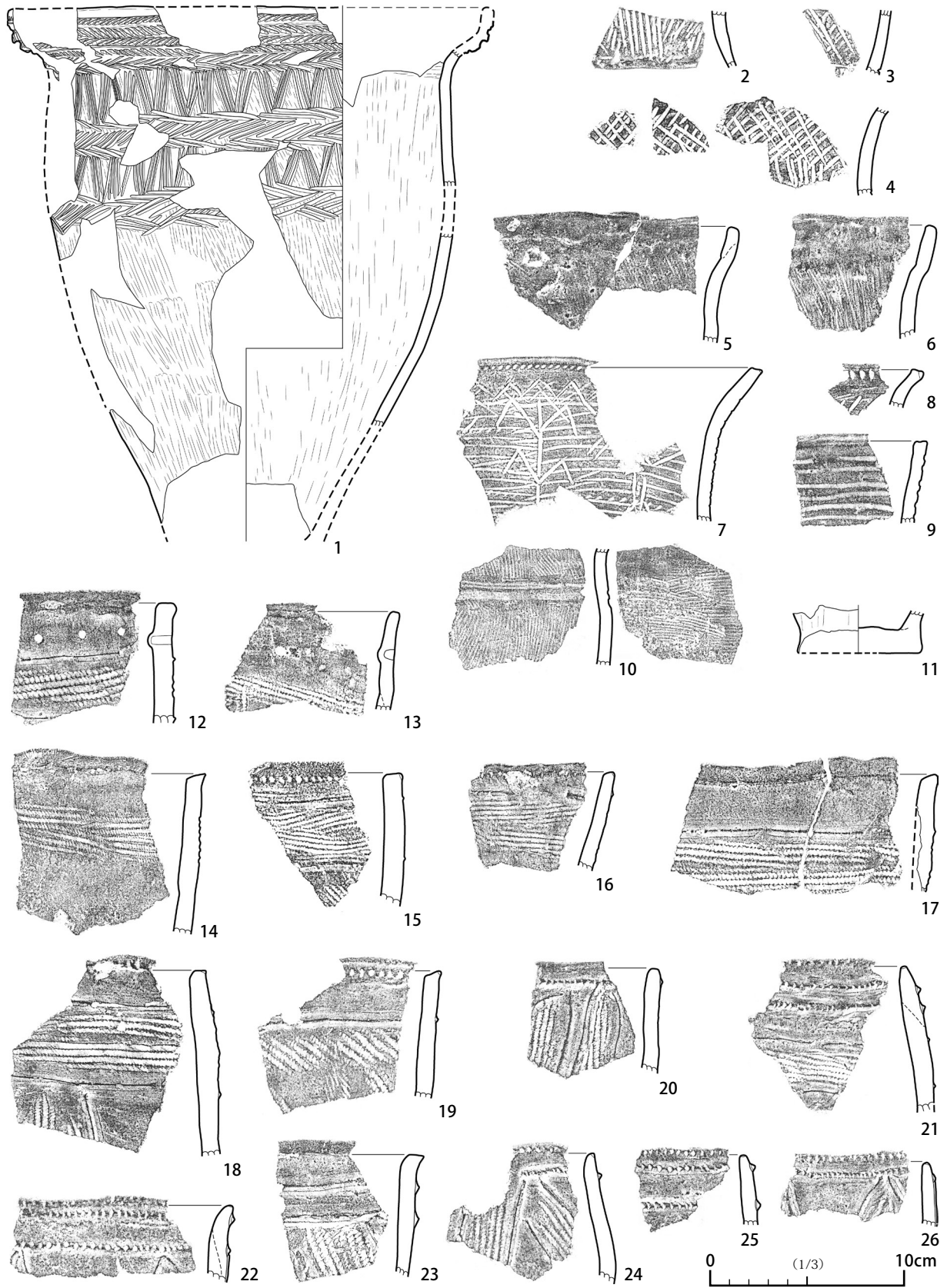


Fig. 16 8号竖穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1

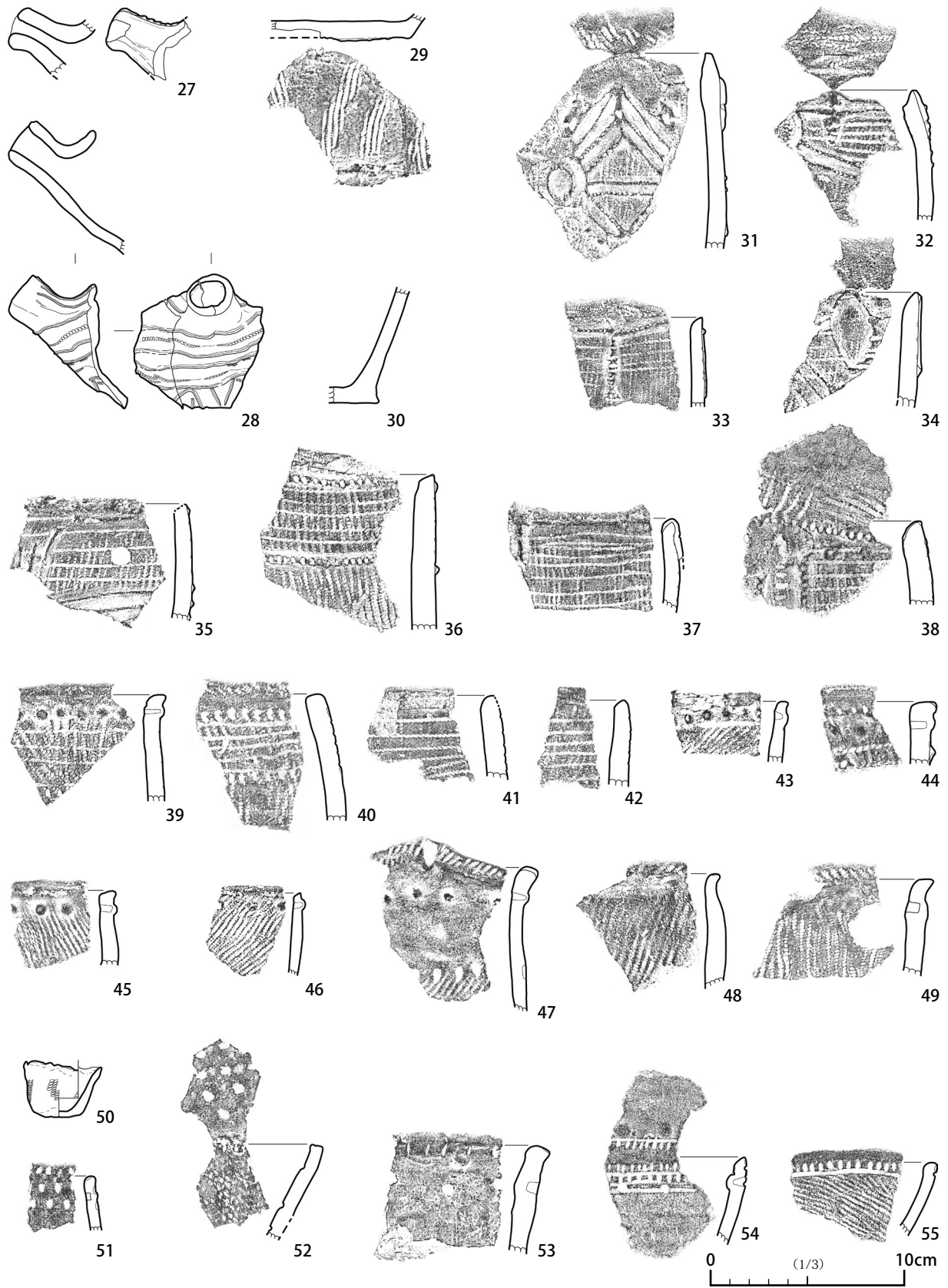


Fig. 17 8号竖穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器2



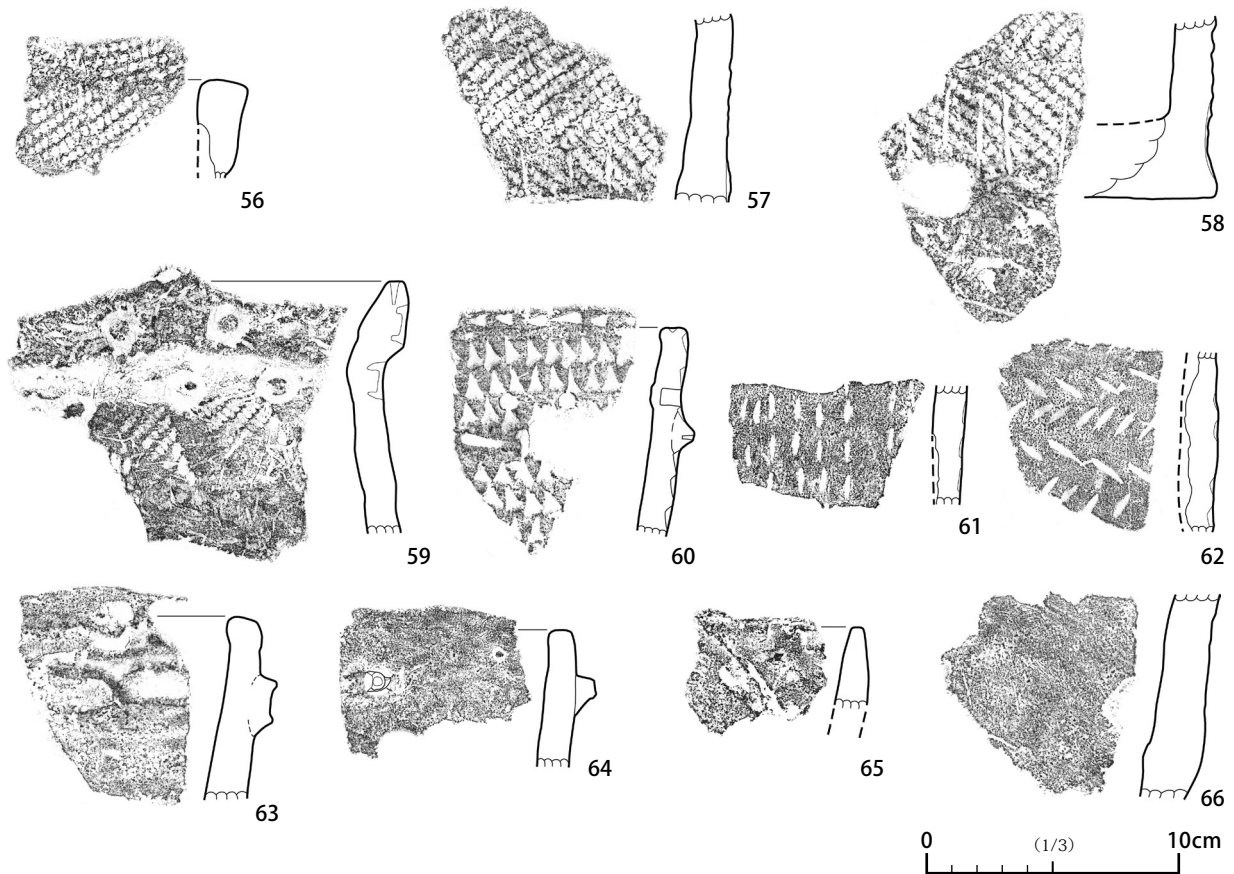


Fig. 18 8号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器3

### 3 9号竪穴埋土

#### (1) オホーツク土器・土製品 (Fig. 19~Fig. 24、PL 4)

1~197はオホーツク土器、198・199はオホーツク文化のものとみられる土製品である。

1~145・149・150は口縁部に貼付文系文様を有する土器である。このうち、1~19は4本以上が1単位となる貼付文を含むものである。1~7・11~19は施文のない貼付文(P)のみで構成されており、8~10では施文なし(P)と施文ありの貼付文(H・K)が併存している。なお、6~8と、9・10は、接合しないがそれぞれが同一の個体とみられる。

20~50は3本1単位となる貼付文を含む土器である。ただし、46は6本1単位の貼付文を含む可能性がある。20~42は施文のない貼付文(P)のみで構成されているが、43~50では施文なし(P)と施文ありの貼付文(H・K)が併存している。43は上面から見た口縁部の形が円ではなく、波打っている。

51~86は2本1単位となる貼付文を含む土器である。51~75・78は施文のない貼付文(P)のみで構成されるもの、76・77・79~84・86は施文なし(P)と施文あり(H・K)の貼付文が併存するもの、85は刻みのある貼付文(K)のみで構成されるものとなる。63と64、74と75は、どちらも接合しないがそれぞれが同一の個体とみられる。

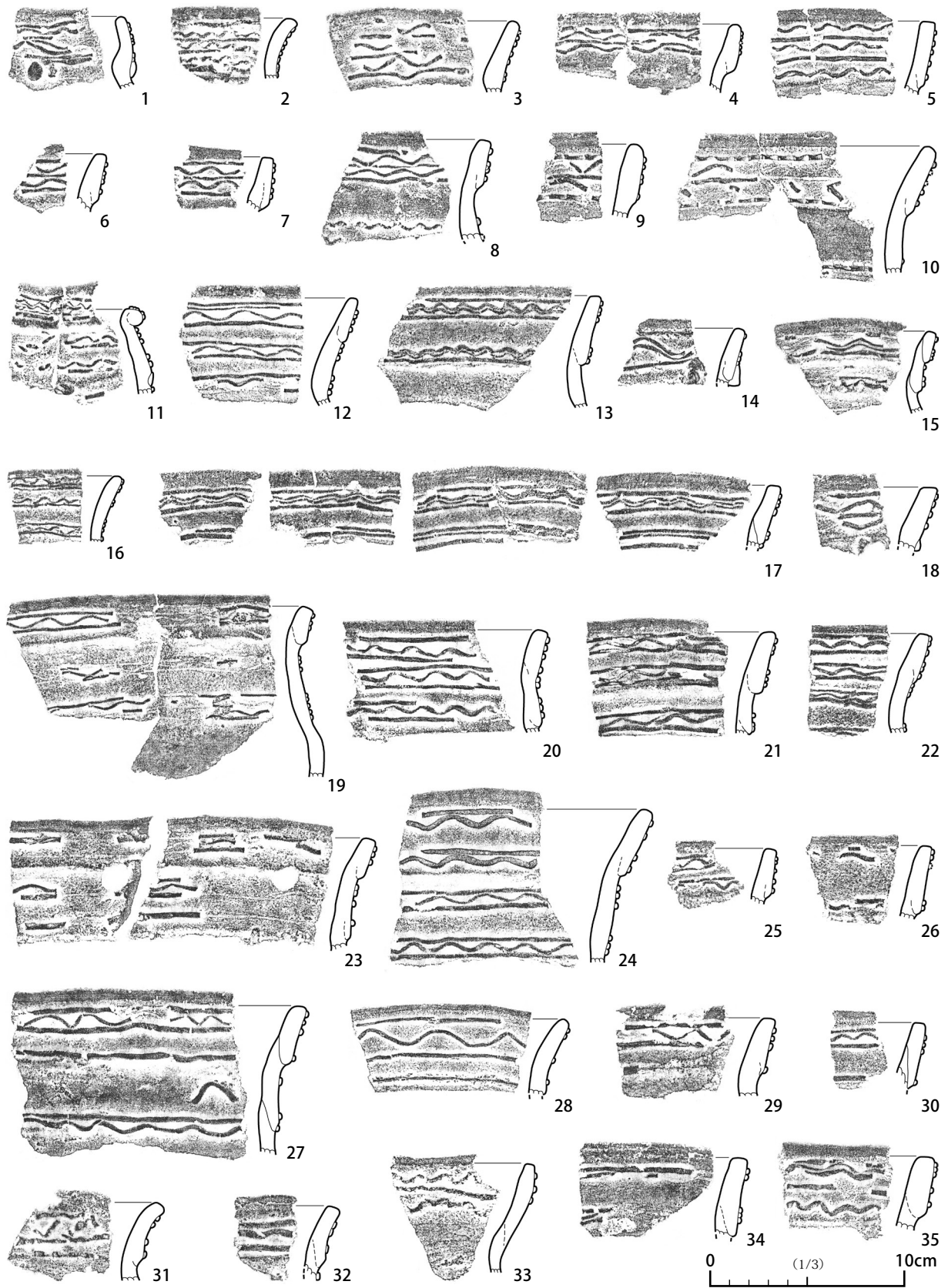


Fig. 19 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1

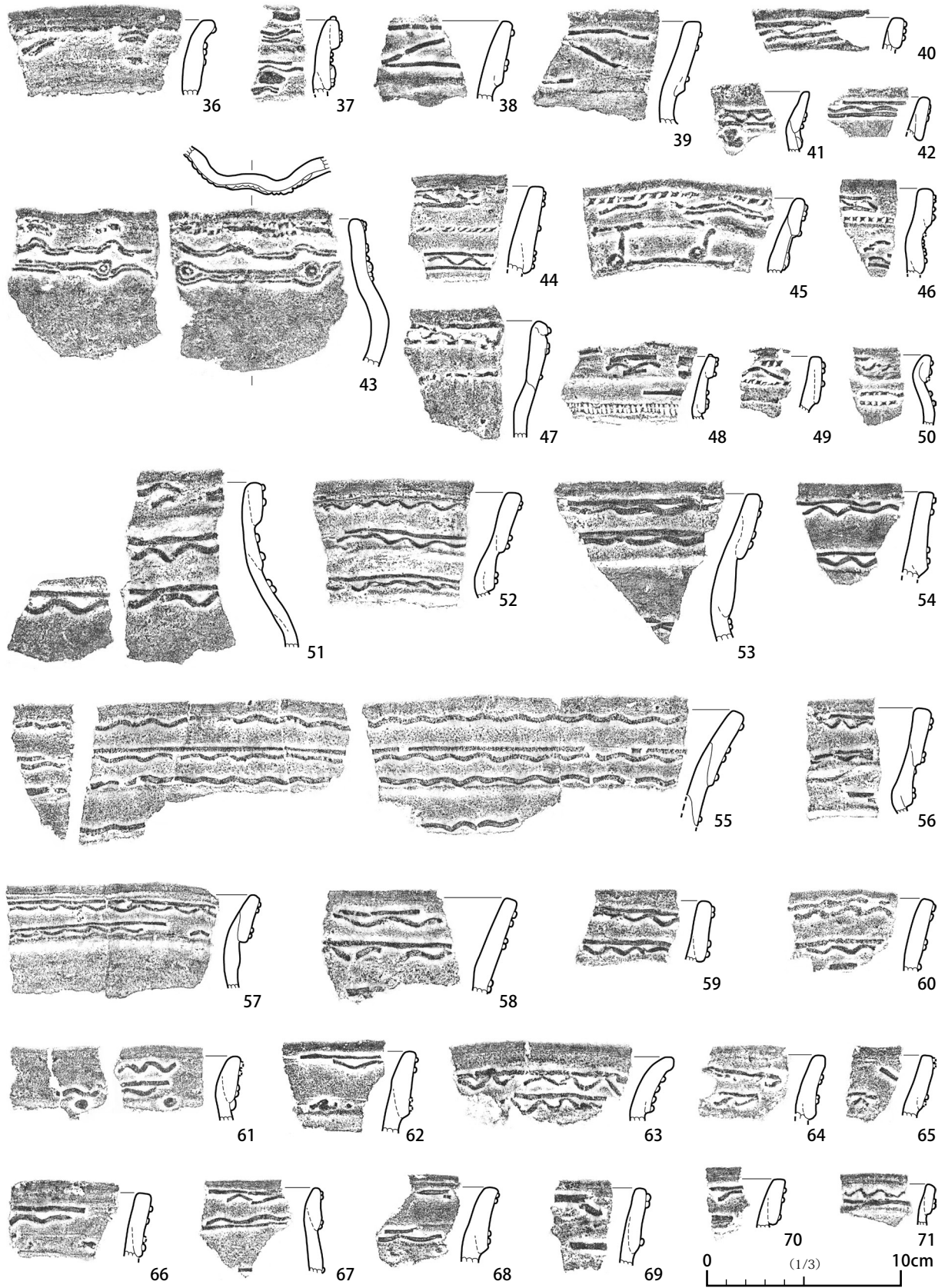


Fig. 20 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器2

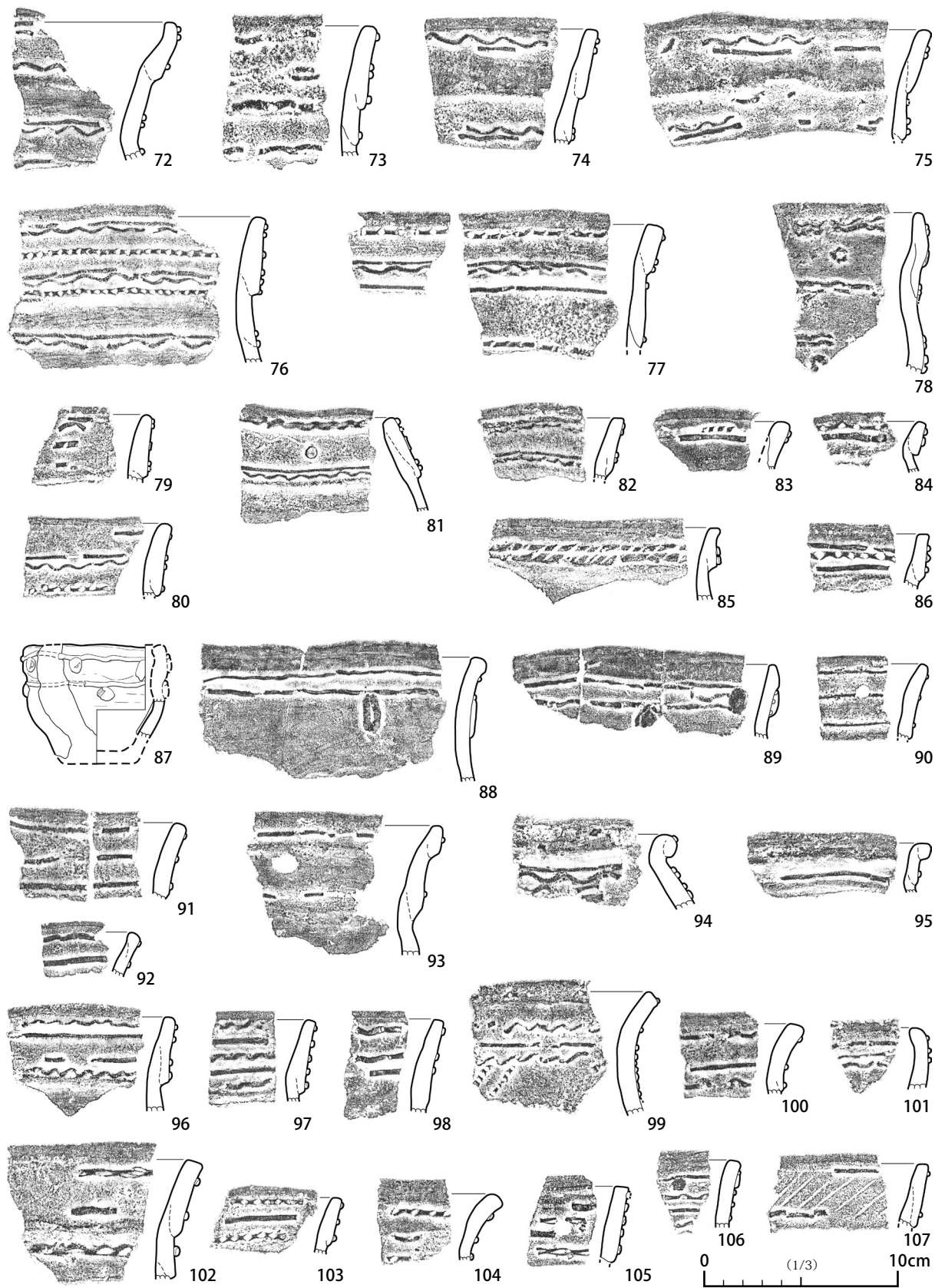


Fig. 21 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 3

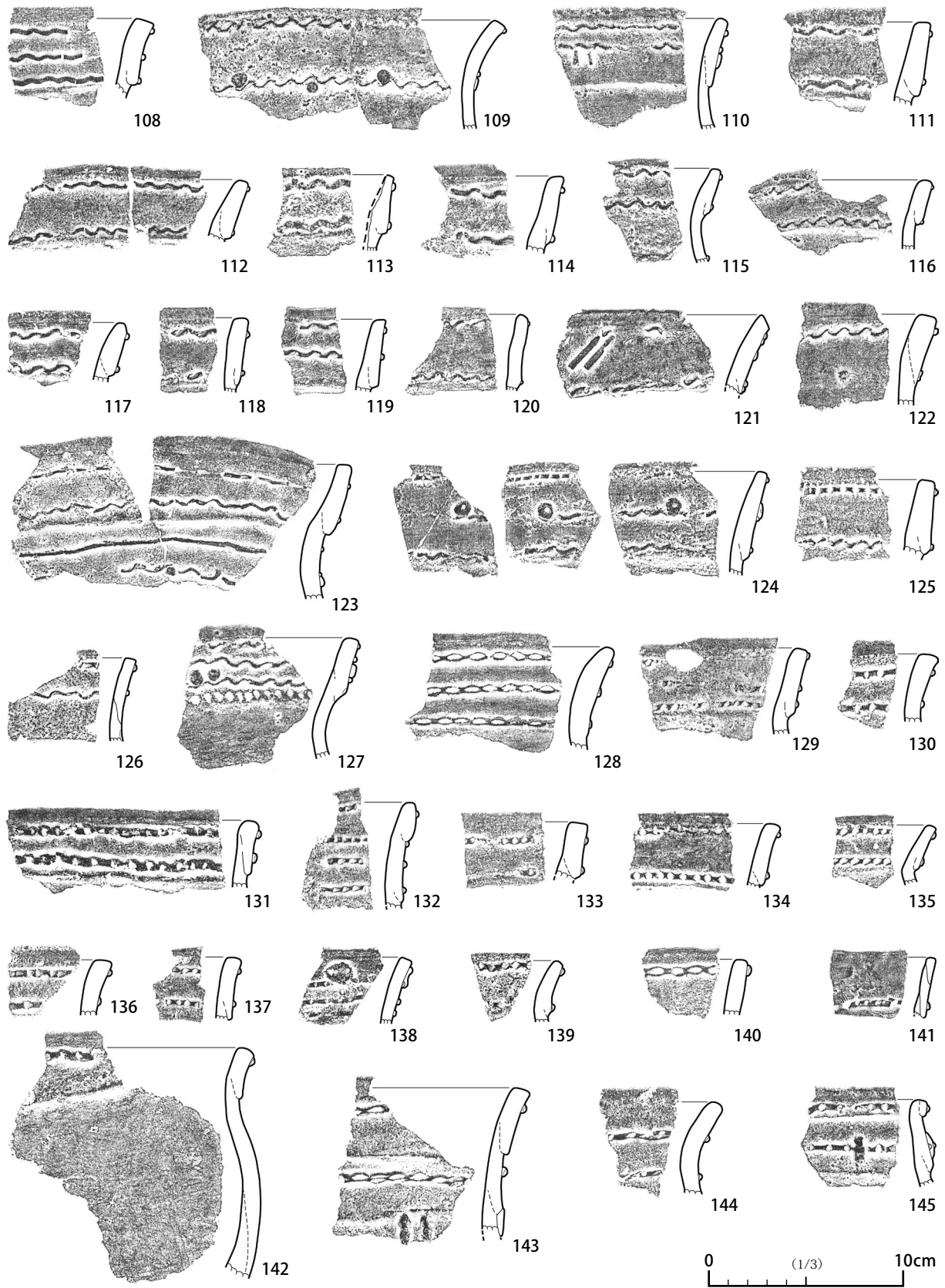


Fig. 22 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 4

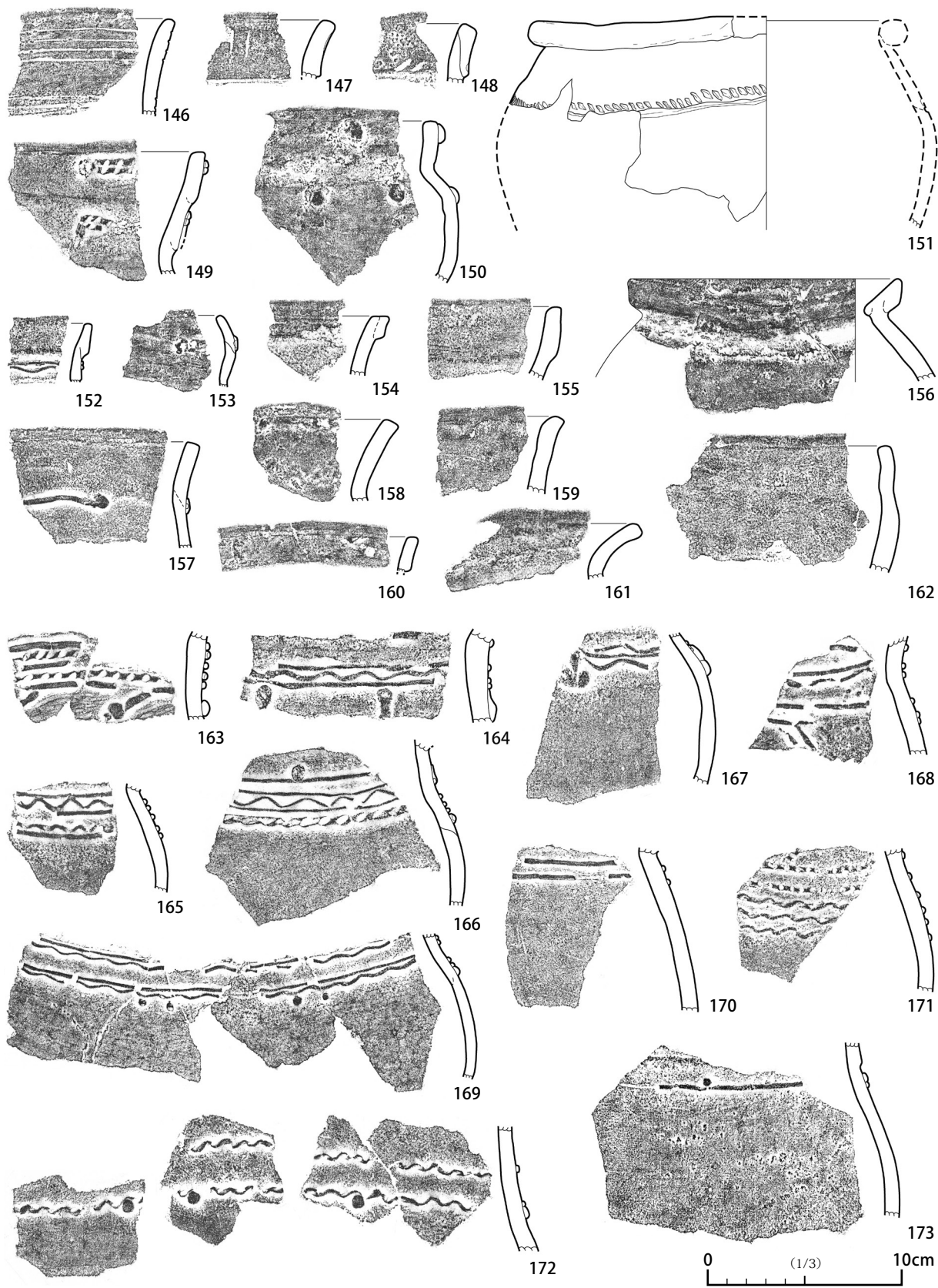


Fig. 23 9号竪穴埋土出土のオホーツク土器 5

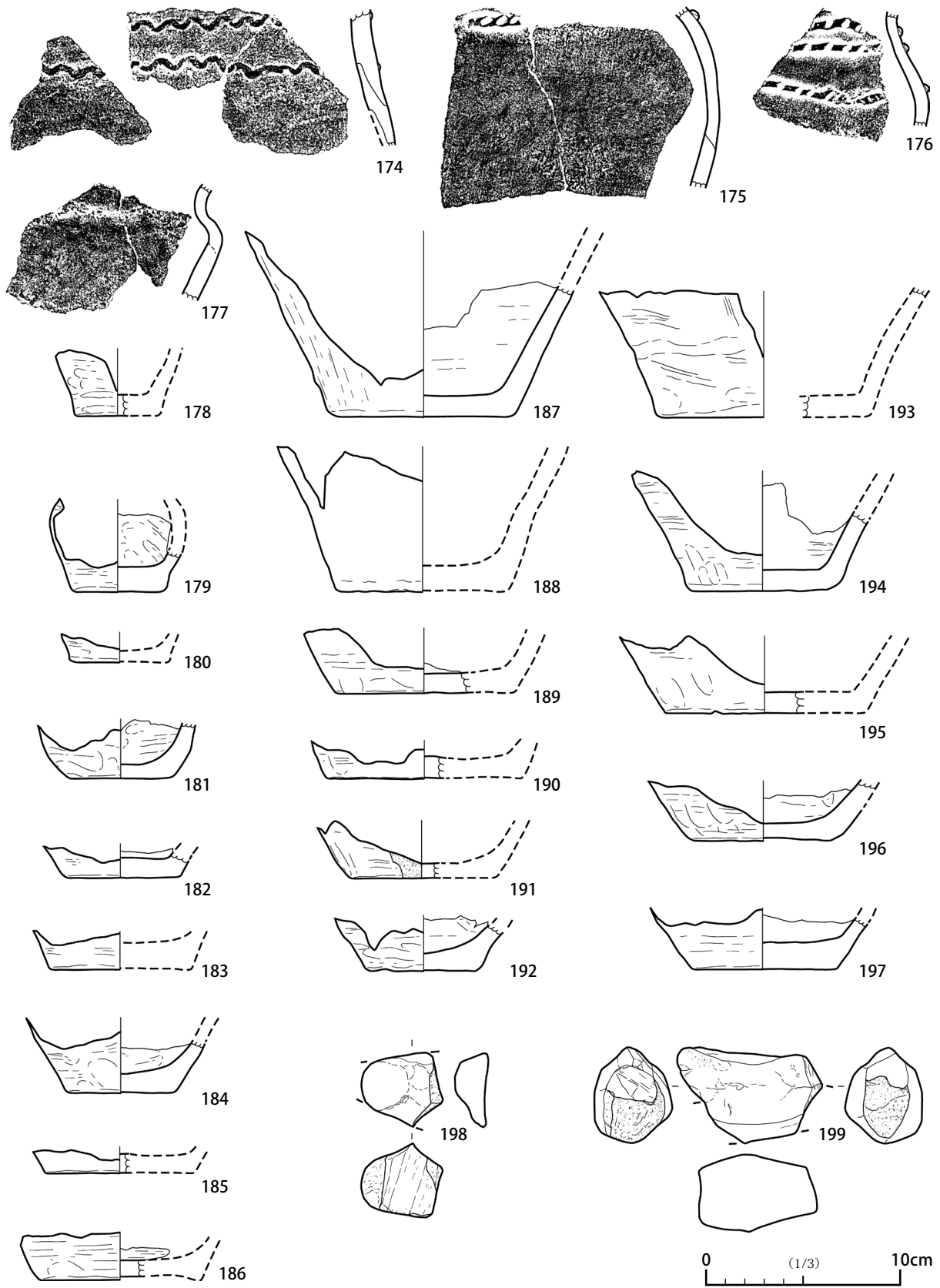


Fig. 24 9号竖穴埋土出土のオホーツク土器6・土製品

87～145は1本単独の貼付文で文様が構成される土器である。ただし、94の頸部文様には4本1単位とみられる貼付文が併存している。87～107は施文のない貼付文(P)を含むもの、108～145はPを含まないもの(ただし、121の口縁部の付加文様と123の頸部文様にはPが含まれる)である。前者、すなわち施文なしの貼付文(P)を含む例である87～107の内訳は以下のようになる。87～95は施文なし(P)の貼付文のみで構成されている。96～106では施文なし(P)と施文あり(H・K・C)の貼付文が併存している。107ではPの貼付文と沈線文が併存している。一方、後者、すなわち施文なし(P)を含まない例である108～145の内訳は以下のとおりである。108～122はひねりのある貼付文(H)のみで構成されている。123～126ではHの貼付文と刻みのある貼付文(K)が併存しており、そのうち126では沈線+刻みの文様も施されている。127ではHの貼付文と、口縁部肥厚帯の下縁に施された刺突文が併存している。128と143は刺突のある貼付文(C)のみ、129～142・144・145は刻みのある貼付文(K)のみで構成されている。

146は沈線文を有する土器で、水平方向の沈線文が口唇の下部に4条、無文部を挟んでその下部にさらに3条確認できる。147は縦方向の短い沈線が2条施されているように見えるが、この沈線は文様ではなく、偶然に付けられたものである可能性もある。

148は刻文を有する土器で、口縁部肥厚帯の下縁に刻文が施されている。

149・150は、水平にめぐる紐状の貼付文以外の貼付文系文様が施されている例である。149は刻みのある短い貼付文とボタン状貼付文、150は粒状の貼付文が施されている。

151～162は口縁部が無文の土器である。このうち、151は胴部に沈線と刻文、152・153・157は頸部に貼付文系文様を有する。

163～177は胴部破片である。177以外は全て貼付文系文様を有する。177は無文である。178～197は底部の器形復元資料である。

198は土製品の破片とみられるものである。断面が半円形を呈しており、円筒状の土製品である可能性がある。文様はない。199は短い棒状の土製品で、両端の下部が欠損している。これも文様はない。以上の2点についてはオホーツク文化の土製品と判断したが、胎土に砂の混入が少ないなどオホーツク土器とはやや異なる点もみられるため、帰属時期については確言できない。また、ここでは「土製品」として扱っているが、製品としての形を意識して製作されたものではなく、偶然の産物などである可能性も考えられる。いずれにしても用途や機能は不明である。

## (2) 擦文土器 (Fig. 25-1～3)

1～3は擦文土器。1は甕の口縁部破片とみられるが、そうであるならば1の文様は口縁部のそれとしては特殊な意匠と言える。この意匠は宇田川編年晩期のそれを思わせるが、時期の認定は難しい。2・3も口縁部破片で、2には2本の沈線による「ハ」の字状の文様が、3には3条の横走沈線が施されている。どちらも宇田川編年前期の土器である。

## (3) 続縄文土器 (Fig. 25-4～67・Fig. 26、PL 4)

4～35は後北C<sub>2</sub>・D式土器。4～25は口縁部破片で、そのうちの20～25は、器形や文様の意匠からすると鉢ないし注口土器の破片とみられる。4は口縁部に円形刺突文を有する。9は帯縄文ではなく、



斜縄文で文様意匠が描かれている。26 は手づくねのミニチュア土器。口縁部に OI の円孔文が 1ヶ施文されている。胎土の特徴などから後北 C<sub>2</sub>・D 式と判断した。27～31 は注口土器の注口部の破片である。33～35 は底部の破片および器形復元資料。

36～41 は宇津内 II b 式土器。どの資料も口唇直下に貼付文がめぐっている。41 の内面と外面には顔料によるものとみられる赤彩が認められる。42～51 は宇津内 II a 式土器。42・44～48 には口縁部に IO 突瘤文が施されているが、43・49～51 には突瘤文が認められない。

52～57 は元町 2 式土器。52 は IO の突瘤文が口縁部に 2 列施されている。53 は口縁部に IO 突瘤文を有し、口縁部から胴部にかけて断面が浅く丸い沈線で幾何学的な文様が描かれている。縄文は施されていない。54・55 は口縁部に IO 突瘤文を有する土器で、54 は突瘤文の下部に 2 条の沈線が認められる。56・57 は突瘤文のない土器である。

58 と 59 は接合しないが同一の個体である可能性が高い。2 条一組となる沈線で、水平及び斜めの直線が描かれている。文様の意匠からみて、続縄文初頭の「栄浦第二・第一遺跡の土器群」(熊木 1997) の段階に位置づけられるものであろう。

60～67 は続縄文前半期の土器(続縄文初頭から宇津内 II b 式まで)の、底部の破片もしくは器形復元資料である。いずれも底面が上底になっており、60～64 の底面(外面)には、縄文、縄線文、縄端の刺突などの文様が施されている。

#### (4) 縄文土器 (Fig. 27・Fig. 28、PL 4)

68・69 は縄文晩期の土器で、68 には 2 条の縄線文、69 には 4 条の沈線文が施されている。70 は縄文後期中葉の土器で、口唇直下には刻み列と沈線が、その下部には IO の突瘤文が施されている。

71～81・84・85 は北筒式土器。71～73 は羅臼式土器で、いずれも複節の縄文が施されている。72 と 73 の胎土にはわずかに繊維が含まれるが、71 には繊維が含まれていない。73 の口縁部には水平の凹帯が作り出されている。74 は細岡式とみられる土器である。胎土に繊維は含まれていない。口縁部に肥厚帯を有し、肥厚帯上には縦長の貼付文が施されており、その貼付文上には縄の圧痕が施されている。地文は複節の縄文である。75・76 はトコロ 5 類土器。胎土には繊維がわずかに含まれる。口縁部に肥厚帯を有し、肥厚帯上には半裁竹管によるものとみられる 2 条一組の沈線が縦に施されている。肥厚帯下には円形文が施される。77～81 はトコロ 6 類土器。いずれも口唇部の断面形が三角形を呈し、口縁部には円形文が施される。78～81 は胎土に繊維が含まれるが、77 には含まれないようである。84 と 85 は北筒式土器とみられる底部破片である。このうち 84 はトコロ 5 類土器とみられるもので、半裁竹管によるものとみられる 2 条一組の沈線が縦に施されている。

82 は北筒式に関連する土器とみられるが、型式認定が難しい土器である。口縁部に突起を有し、突起下から貼付文が垂下している。貼付文の上と、口唇面に凹みを作り出されている。胎土に繊維は含まれていない。83 はモコト式土器である。胎土に繊維を多く含み、口縁部に突帯がみられる。口唇部と口唇直下には押引文、内面には刺突文がみられ、突帯の下部には円形文が施されている。

86～96 は網走式土器。いずれも胎土に繊維は含まれておらず、地文の縄文などはみられない。86～

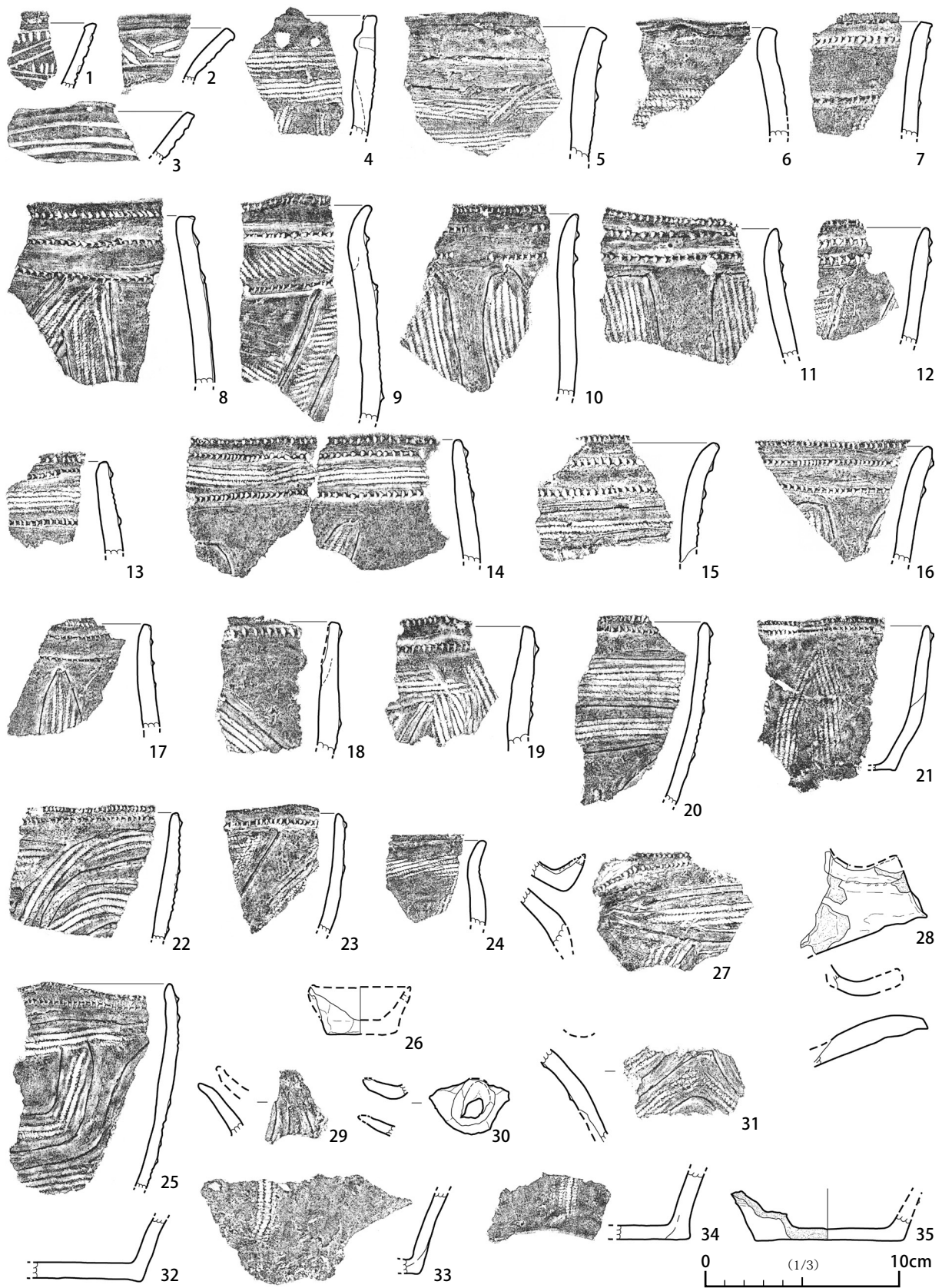


Fig. 25 9号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1

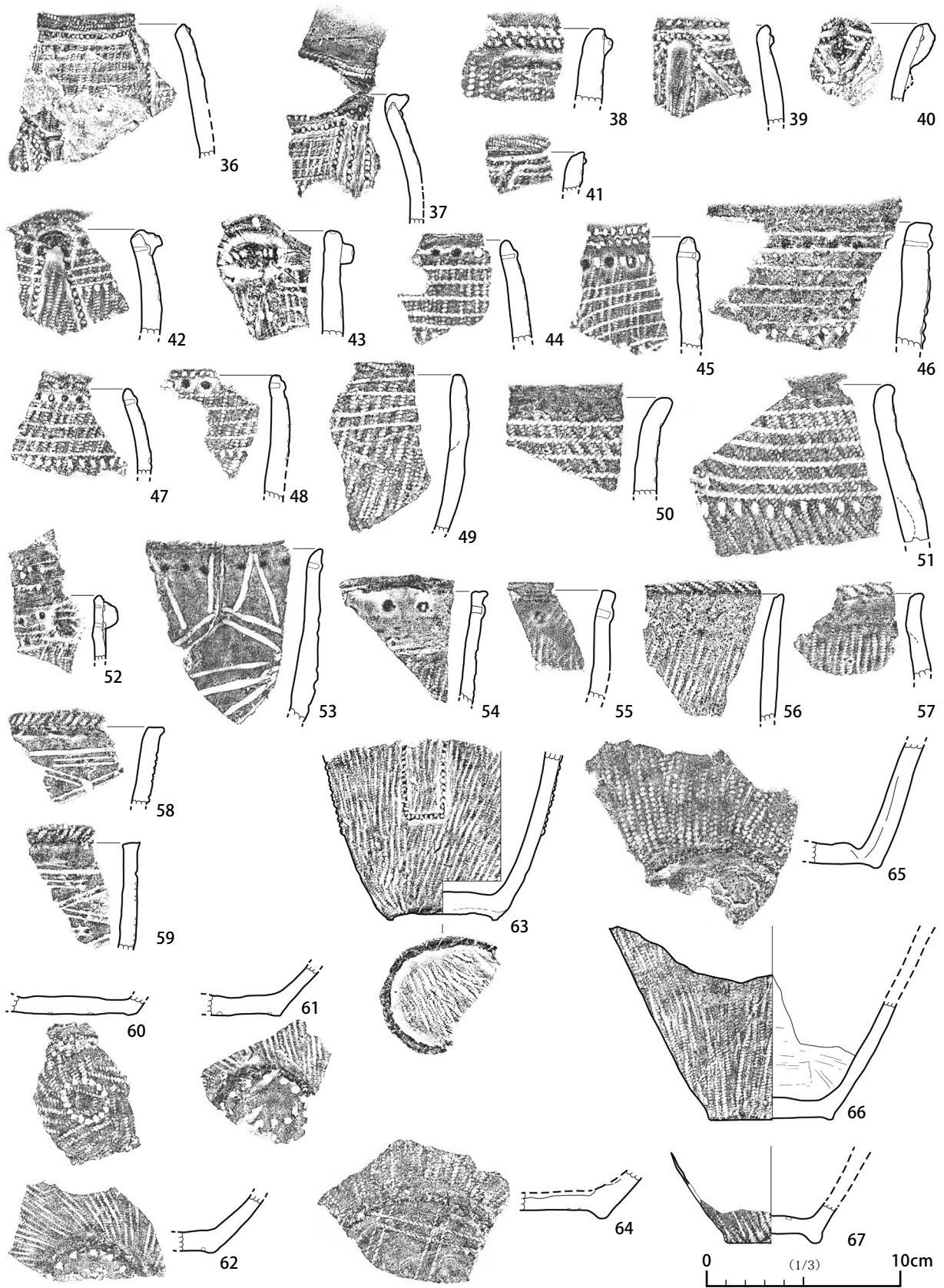


Fig. 26 9号竖穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器2

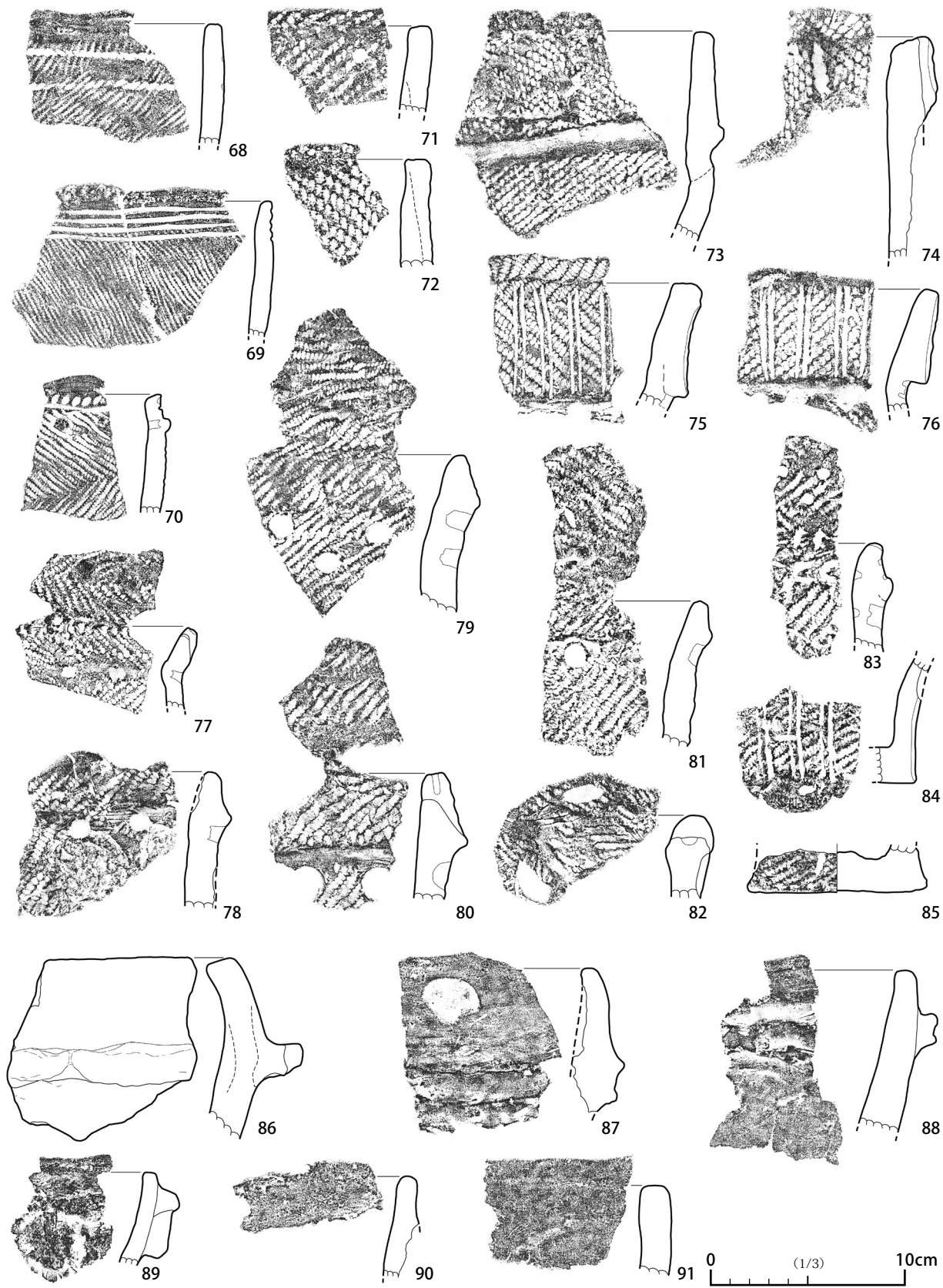


Fig. 27 9号竖穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 3

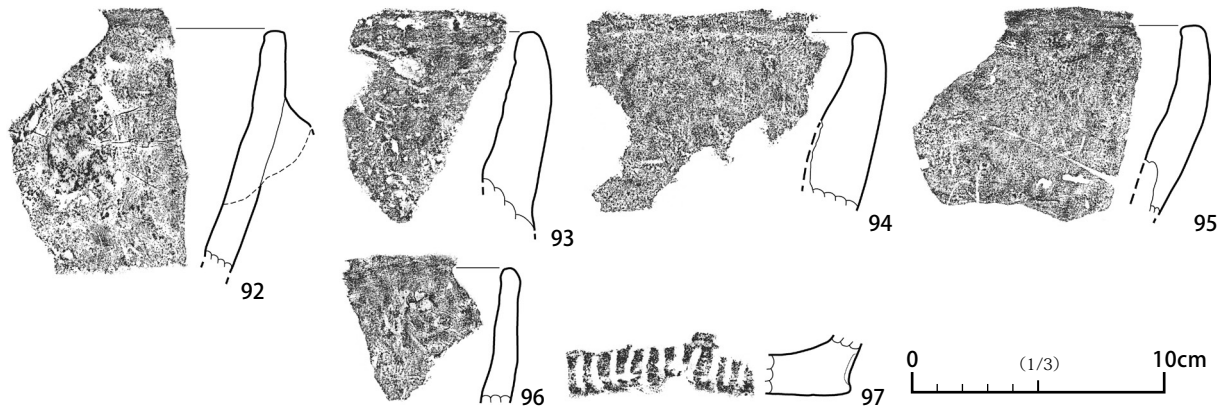


Fig. 28 9号竪穴埋土出土の捺文・続縄文・縄文土器4

90は口縁部に突帯が横に巡っており、そのうちの89には突帯の下部に垂下する貼付文が付されている。90の突帯は剥落している。92の口縁部には貼瘤文がみられるが、貼瘤の下部は剥落している。86の外表面、95の内面と外表面には顔料によるものとみられる赤彩が施されている。

97は東釧路式系土器の底部破片で、底面近くの外面には短縄紋が施されている。

#### 4 10号竪穴埋土

##### (1) オホーツク土器 (Fig. 29~Fig. 31、PL 4)

1~115はオホーツク土器である。

1~77・79は口縁部に貼付文系文様を有する土器である。このうち、1~9は4本以上が1単位となる貼付文を含むものである。6以外は施文のない貼付文(P)のみで構成されており、6では施文なし(P)と施文ありの貼付文(K)が併存している。

10~25は3本1単位となる貼付文を含む土器である。11~17は施文のない貼付文(P)のみで構成されているが、10・18~25では施文なし(P)と施文ありの貼付文(H・K・C)が併存している。

26~49は2本1単位となる貼付文を含む土器である。26~36・38~40・42~45は施文のない貼付文(P)のみで構成されるもの、37・41・46~49は施文なし(P)と施文あり(H・K・C)の貼付文が併存するものとなる。

50~77は1本単独の貼付文で文様が構成される土器である。50~57は施文のない貼付文(P)を含むもの、58~77はPを含まないものとなる。前者(施文なし(P)を含む)では、50~55は施文なし(P)の貼付文のみからなり、56・57ではPとひねりのある貼付文(H)が併存している。一方、後者(施文なし(P)を含まない)では、59~69はひねりのある貼付文(H)のみ、71~73・75~77は刻みのある貼付文(K)のみ、74は刺突のある貼付文(C)のみで構成されており、58・70ではHとKの貼付文が併存している。

78は刻文を有する土器で、口唇外縁と肥厚帯の下縁に刻文が施されている。

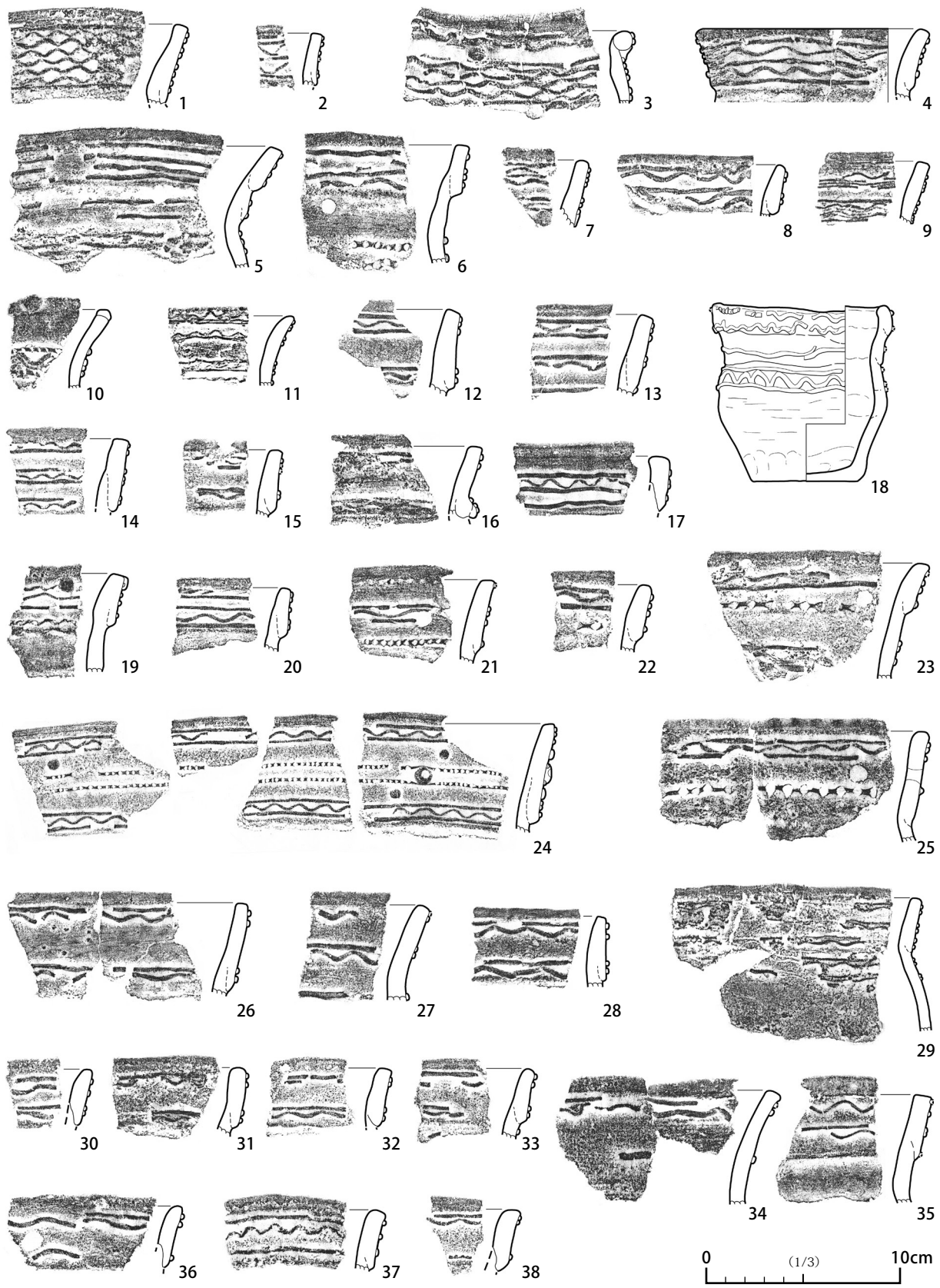


Fig. 29 10号竪穴埋土出土のオホーツク土器 1

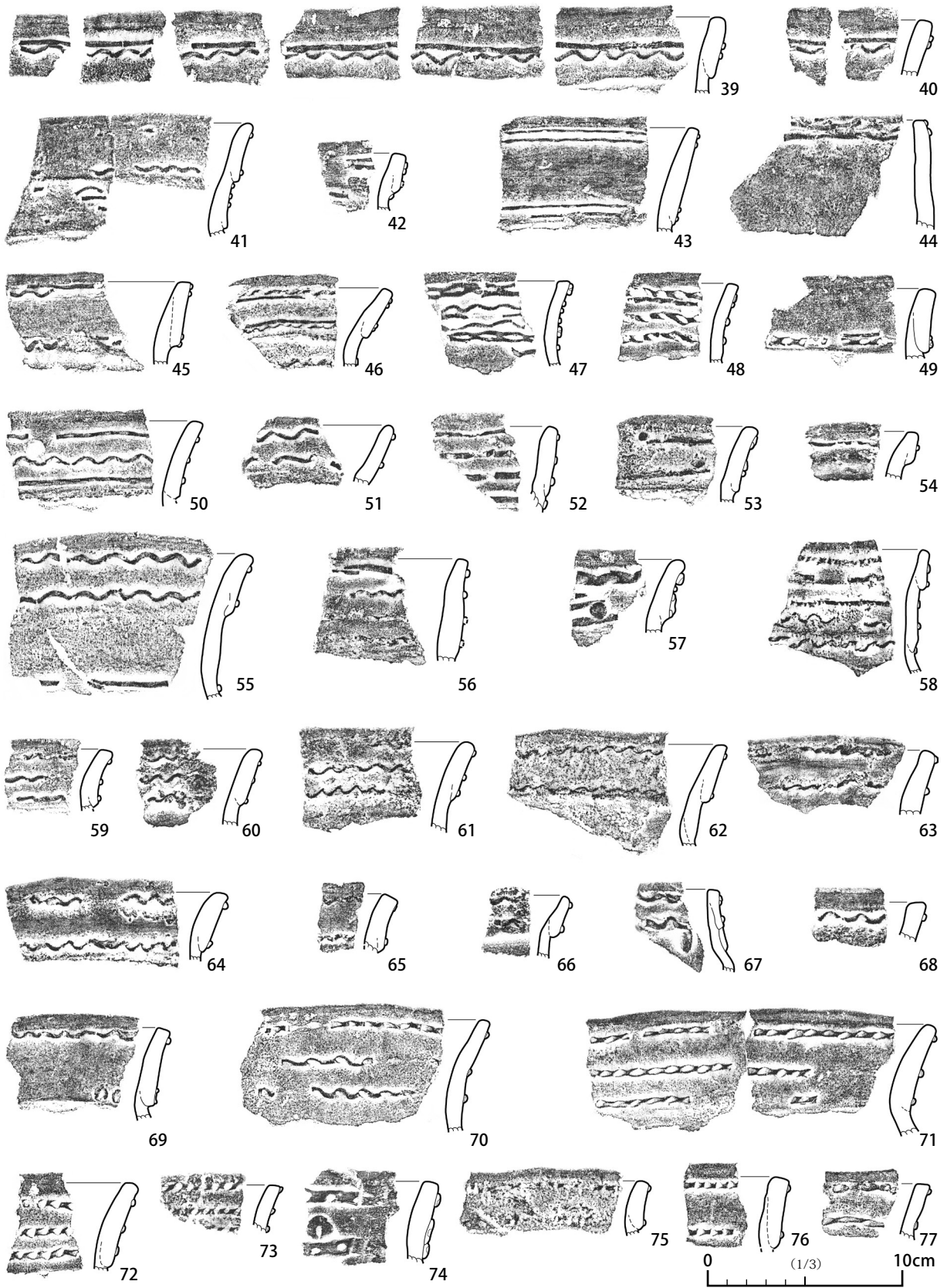


Fig. 30 10号竖穴埋土出土のオホーツク土器 2

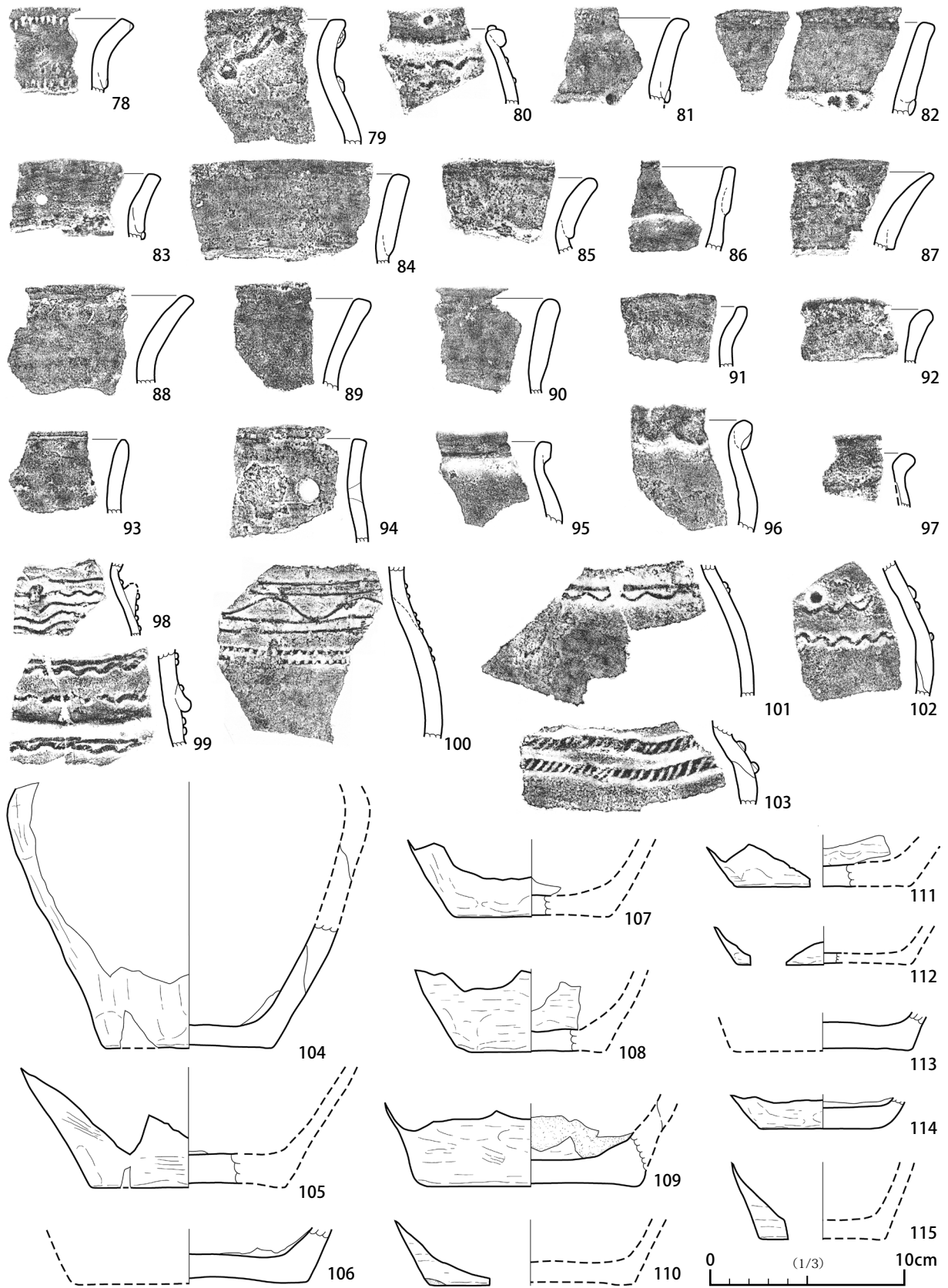


Fig. 31 10号竪穴埋土出土のオホーツク土器3



79 は、水平にめぐる紐状の貼付文以外の貼付文系文様が施されている例である。2ケのボタン状貼付文の間を2本の紐状の貼付文がつなぐ形の文様が施されている。

80～97 は口縁部が無文の土器である。このうち、80～83 は頸部に貼付文系文様を有する。96 は突帯の下縁に凹みが見られるが、これは文様の可能性もある。81 と 82 は接合しないが同一個体の可能性がある。

98～103 は胴部破片である。全て貼付文系文様を有する。99 には口縁部肥厚帯とみられる部位の一部が遺存している。104～115 は底部の器形復元資料もしくは破片である。

#### (2) 擦文土器 (Fig. 32-1・2)

1・2 は擦文土器。1・2 ともに口縁部に多数の横走沈線が施される土器で、横走沈線の下部には無文部がある。宇田川編年では前期、塚本編年では3期に位置づけられる古手の土器である。

#### (3) 続縄文土器 (Fig.32-3～31)

3～16 は後北 C<sub>2</sub>・D 式土器。3～13 は口縁部破片で、このうち 12 は器形や文様からみて鉢ないし注口土器の口縁部とみられる。13 は口縁部の突起部分の破片である。14・16 は底部破片で、14 は器形や文様からみて鉢ないし注口土器の口縁部とみられる。15 は注口土器の注口部の破片である。

17～23 は宇津内Ⅱb 式土器。どの資料も口唇直下に貼付文がめぐっている。24・25 は宇津内Ⅱa 式土器。24 は口縁部に IO 突瘤文を有する。25 には突瘤文がなく、把手状の突起が付されている。26～28 は続縄文初頭の「栄浦第二・第一遺跡の土器群」の段階に含まれる土器で、26 には複数の縄線文による縦や斜めの意匠がみられる。

29～31 は続縄文前半期の土器（続縄文初頭から宇津内Ⅱb 式まで）の底部破片で、29 と 30 の底面は上底になっている。31 の底面（外面）には縄文が施されている。

#### (4) 縄文土器 (Fig. 33・Fig. 34、PL 4)

32～39 は北筒式土器である。32 は羅臼式土器。胎土に繊維は含まれていない。33 は細岡式土器で、口縁部には棒状の貼付文が縦に施されている。その下には円形文が施されており、円形文の下部には施文具が下に引きずられた痕跡が残る。胎土には繊維がわずかに含まれる。34 はトコロ 5 類土器で、口縁部には縦の沈線、口縁部の肥厚帯下には円形文が施されている。胎土には繊維が含まれる。36 はトコロ 6 類土器。口唇上と口縁部に円形文が施されている。胎土には繊維が含まれる。35・37～39 は底部破片。いずれも胎土には繊維が含まれており、37 の縄文には結節、39 の縄文には結束が認められる。39 の底面には、内面・外面ともに縄文が施されている。これらの底部破片はいずれもトコロ 6 類土器の可能性が高いと思われる。

40～45 は網走式土器。40～42・44 の胎土には繊維がわずかに含まれる。40～43・45 には横方向の突帯が付されており、45 ではそれが剥落している。縄文などは付されておらず、突帯以外は無文である。

46～50 は縄文前期前半に属するとみられるもので、おそらく、朱円式もしくはそれに併行する型式の土器と考えられる。いずれも胎土には繊維が多く含まれていて密度は低く、地文の縄文などは施文されていない。46～48 の口縁部はいずれも波状を呈している。46 は、口縁部突起の直下が外側につまみ出されて突起状を呈する。47 は口縁部突起の直下に楕円形の貼付文が付されている。48 は口縁部突起

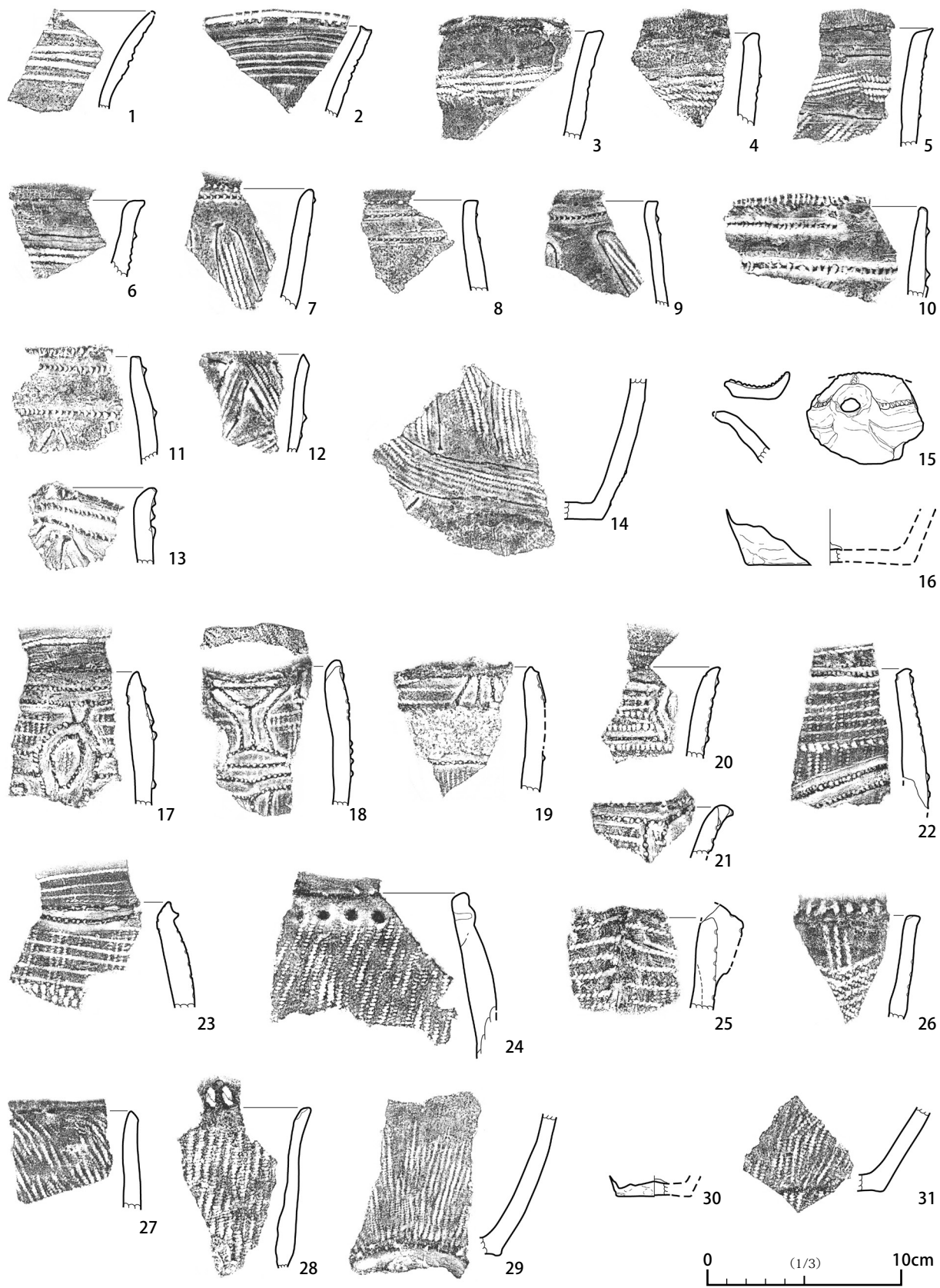


Fig. 32 10号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 1

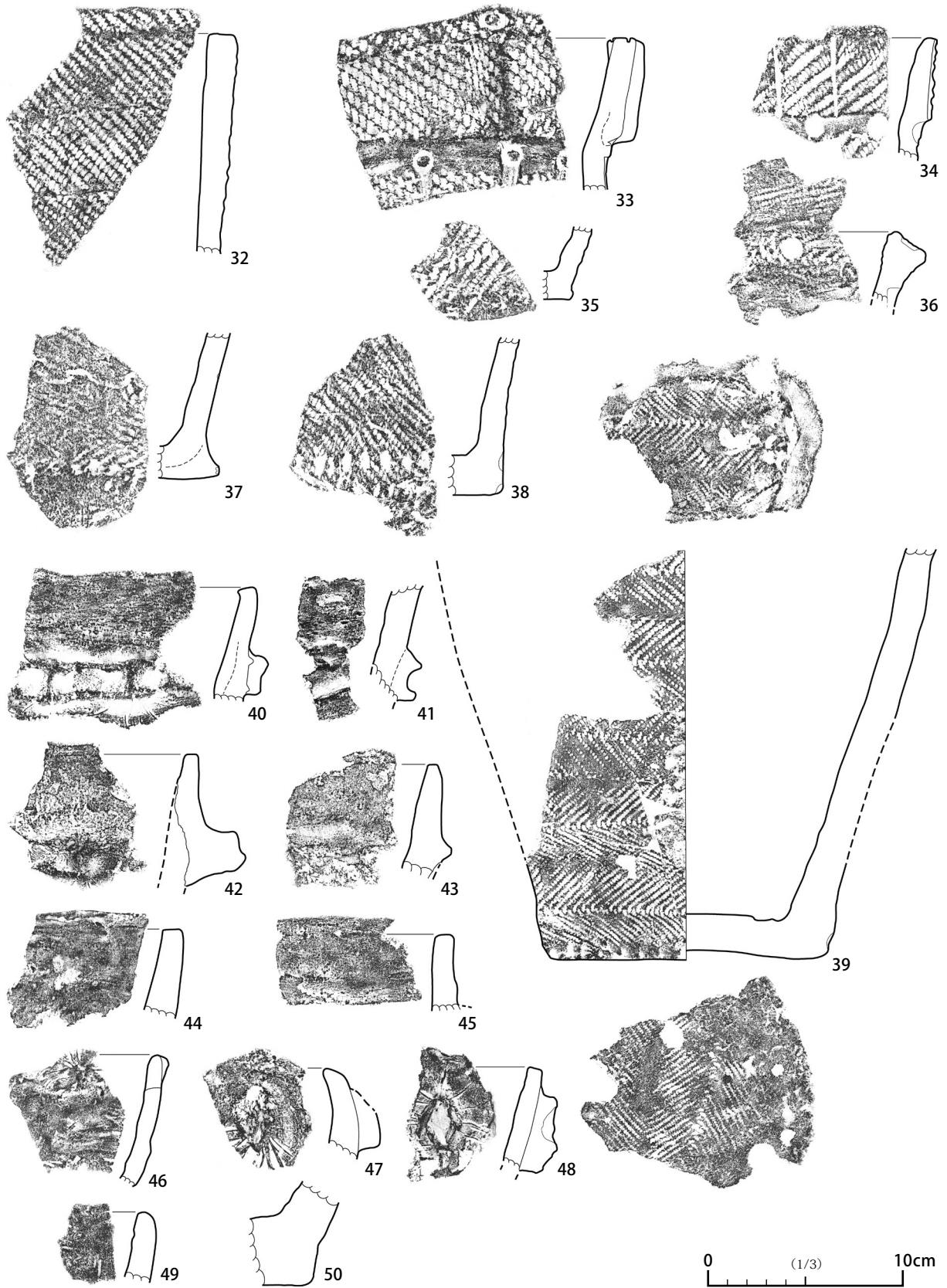


Fig. 33 10号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 2

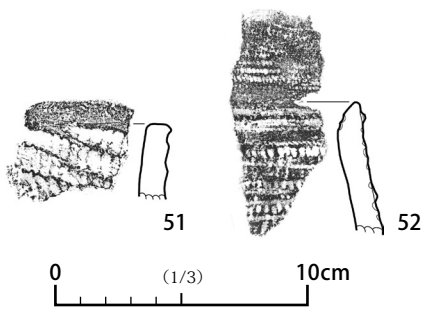


Fig. 34 10号竪穴埋土出土の擦文・続縄文・縄文土器 3

の頂部が凹んでいる。突起の下部には貼付文が付されており、貼付文の中央は凹んでいる。49は無文の口縁部破片。50は底部破片で、平底であるが、丸底に近い形状のように見える。

51は綱文式土器である。胎土には繊維がわずかに含まれる。52は東釧路式系土器である。口唇内面には縄線文もしくは縄文が付されているとみられるが、詳細は不明である。口唇直下と口縁部には刻み目のある微隆起線が水平に施され、水平方向の縄線文と短縄文が交互に重ねられている。

## 5 オホーツク地点の出土土器について

### (1) 本書掲載資料の概要

まずは、本書に掲載した7号から10号までの埋土出土土器全体の内容を概観してみよう。最も多く出土しているのは、竪穴住居跡が利用された時期、およびそれに近い時期のものとみられる、オホーツク貼付文系土器である。それら貼付文系土器を含めたオホーツク土器全体の内容については後述する。オホーツク土器以外では、後北C<sub>2</sub>・D式土器がもっとも出土数が多く、それに次ぐのが続縄文時代前半期の土器（宇津内Ⅱb式・Ⅱa式、元町2式等）となる。これら以外では、擦文土器、北筒式土器、綱走式土器がやや目立ち、他にも少数であるが、北大式や、縄文晩期・後期・中期・前期・早期の各型式の土器が出土している。これらの各型式は、ほぼ全てがこの遺跡群でこれまで出土が確認されていたものであり、各型式の出土割合も、隣接するトコロチャシ跡遺跡での出土傾向（東大考古学研究室・常呂実習施設編2001）と概ね一致する。その意味では、ここで報告した出土土器の内容は、これまでのデータを追認するものとなろう。

オホーツク土器以外の各型式の内容で注目される点を挙げておこう。擦文土器では、宇田川編年前期の土器が目立ち、逆に後期～晩期の土器は少ない点が注目される。搬入土器とみられる塚本編年3期の土器を含めたこれらの宇田川編年前期の土器は、貼付文期のオホーツク集団の活動との関連でとらえるべきものであろう（塚本2012）。逆に、この地域一帯に擦文文化の集落が進出してくる宇田川編年中期以降の時期において、この地点における擦文文化集団の活動が低調であったとみられることは、あらためて注目されよう<sup>3)</sup>。おそらく、前代の竪穴の窪みを避けるという擦文文化の規制（藤本1982b）が大きく関与しているのであろう。

後北C<sub>2</sub>・D式土器の出土が多いことはすでに述べたが、この時期の本遺跡群での活動の痕跡を見ると、墓が隣接するトコロチャシ跡遺跡で検出されている一方で、墓以外の遺構（住居跡等）については明確には確認されていない。続縄文前半期の遺物を含めた続縄文期の資料がこの遺跡群に残された背景については、この時期の大規模な集落や墓域が存在する近隣の常呂川河口遺跡との関係を念頭に置きながら、検討を重ねる必要があるだろう。

縄文土器では、網走式土器がややまとまったかたちで出土している点が注目される。近い時期とみられる岐阜ⅡA群土器も出土しているが、量は少ない。本遺跡の出土状況をもって網走式が単独で一時期を形成するとみなすのは尚早であるが、この状況は、網走式の編年上の位置づけや系統を考える上で注目されよう。

### (2) 竪穴毎の出土量について

次に、本書掲載土器について、竪穴毎の出土量の違いを確認しておこう。オホーツク土器では (Table 2)、7号埋土と9号埋土からの出土量が多く、8号埋土と10号埋土では少ない。いずれの竪穴埋土でも、埋土中に意図的・集中的に遺物が廃棄されたような状況は確認できていないので、このような出土量の違いをオホーツク集団の廃棄行動の差として解釈するのは難しい。他の原因としては、特に8号竪穴においては、建て替えに関する違いが影響している可能性が考えられる。すなわち、8号竪穴では他の3軒とは異なり竪穴を入れ子状に縮小する建て替えはおこなわれていないが、これは、入れ子状の建て替えの際におこなわれる外側の古い壁を意図的に埋める行為 (熊木 2014 : 37 頁) が、この竪穴ではなされていなかったことを意味する。8号竪穴埋土における出土量の少なさについては、このような違いが関与している可能性を指摘しておこう。一方、10号竪穴の出土量の少なさについては、耕作による表土の削平が他の竪穴より激しかったことを考慮すべきかもしれない。

オホーツク土器以外では、全体として7号埋土からの出土量が少なく、9号埋土からの量がやや多い傾向が認められるものの、出土量や各型式の構成に関して、竪穴間で特筆するような差は認められなかった。

### (3) 文様の属性分析からみたオホーツク土器の内容

ここでは、7号から10号までの竪穴から出土したオホーツク土器について、2012年報告の出土土器を含めてその内容を検討する。Table 1~3は、口縁部を含む出土土器を文様の属性に基づいて分類した表である<sup>4)</sup>。各表における貼付文の分類項目については、本章の次節を参照いただきたい。これらの表の分類を、筆者のオホーツク土器編年 (熊木 2018a・2018b) と対比すると以下ようになる。

貼付文の単位が4本以上・3本・2本を含むもの、および1本単独のうちのPのみとPとHKCが併存するもの : 「IV群b類」(貼付文期前半~後半)

貼付文の単位が1本単独であるうちのPを含まないもの : 「IV群a類」(貼付文期前半)

「その他貼付文」と無文 : 「III群b類」もしくは「III群c類」(沈線文期)

沈線文 : 「II群a類」もしくは「II群b類」(沈線文期)

刻文 : 「I群b2類」もしくは「I群c類」(刻文期後半~沈線文期前半)

最初に、本書と2012年報告を合算した、本地点出土のオホーツク土器全体の内容について確認しよう (Table 3)。最も古い時期のものとしては、刻文を有する土器が認められるものの、確実に刻文期後半に位置づけられるような資料は出土していない。次の沈線文期については、すでに2012年報告などでも述べたように、本遺跡群では確実に沈線文期前半に位置づけられる資料が出土しており、本書にもそれを追認する資料が含まれている (Fig.7-199・同202など)。ただし、出土土器の主体となるのは竪穴床面・

Table 1 2012年報告のオホーツク土器 各竪穴における文様別の出土数

	貼付文													その他 貼付文	無文	沈線文	刻文	計	
	4本以上			3本			2本			1本			貼付文 計						
	Pのみ	H・K・ C含む	4本計	Pのみ	H・K・ C含む	3本計	Pのみ	H・K・ C含む	2本計	Pのみ	PとH・ K・C併存	Pを含まない ※							1本計
7a号床面	1	0	1	1	2	3	2	0	2	3	0	1	4	10	0	1	1	0	12
7a号骨塚 a	2	0	2	1	1	2	0	0	0	2	2	5	9	13	0	0	1	0	14
7b号床面	1	1	2	3	0	3	11	2	13	2	0	1	3	21	0	1	0	1	23
7b号骨塚 b	0	0	0	1	0	1	2	0	2	0	0	1	1	4	0	0	0	0	4
7号床面	1	0	1	3	0	3	1	1	2	3	0	1	4	10	0	0	0	0	10
7号埋土	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
7号前報告分	5	1	6	9	3	12	16	3	19	10	2	10	22	59	0	2	2	1	64
	83.3%	16.7%	10.2%	75.0%	25.0%	20.3%	84.2%	15.8%	32.2%	45.5%	9.1%	45.5% (16.9%)	37.3%	92.2%	0.0%	3.1%	3.1%	1.6%	
8号床面	6	0	6	7	1	8	11	0	11	8	1	6	15	40	1	3	0	1	45
8号骨塚	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
8号古段階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0	0	0	0	2
8号竪穴外	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
8号前報告分	6	0	6	9	1	10	12	0	12	9	2	6	17	45	1	3	0	1	50
	100.0%	0.0%	13.3%	90.0%	10.0%	22.2%	100.0%	0.0%	26.7%	52.9%	11.8%	35.3% (13.3%)	37.8%	90.0%	2.0%	6.0%	0.0%	2.0%	
9a号床面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4	4	0	0	0	1	5
9a or 9b号床面	0	0	0	2	0	2	0	2	2	0	1	0	1	5	0	0	0	1	6
9b号床面	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	3	3	5	0	3	0	0	8
9c号床面	1	2	3	0	1	1	7	1	8	3	2	2	7	19	0	4	0	0	23
9c号骨塚 c	0	0	0	4	0	4	2	1	3	0	0	3	3	10	0	1	0	0	11
9号床面	1	0	1	3	0	3	2	2	4	0	2	1	3	11	0	2	0	0	13
9号竪穴外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1
9号前報告分	2	2	4	10	1	11	11	7	18	4	6	12	22	55	0	10	0	2	67
	50.0%	50.0%	7.3%	90.9%	9.1%	20.0%	61.1%	38.9%	32.7%	18.2%	27.3%	54.5% (21.8%)	40.0%	82.1%	0.0%	14.9%	0.0%	3.0%	
10a号床面	0	0	0	2	0	2	0	1	1	1	0	0	1	4	0	0	0	1	5
10a号骨塚 a	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
10b号床面	2	0	2	1	1	2	7	4	11	1	0	0	1	16	0	1	0	0	17
10c号床面	1	0	1	2	0	2	11	1	12	1	1	3	5	20	0	0	0	0	20
10c号骨塚 c	0	0	0	1	1	2	8	3	11	4	0	1	5	18	0	1	0	0	19
10号前報告分	3	0	3	6	3	9	26	9	35	7	1	4	12	59	0	2	0	1	62
	100.0%	0.0%	5.1%	66.7%	33.3%	15.3%	74.3%	25.7%	59.3%	58.3%	8.3%	33.3% (6.8%)	20.3%	95.2%	0.0%	3.2%	0.0%	1.6%	
計	16	3	19	34	8	42	65	19	84	30	11	32	73	218	1	17	2	5	243
	84.2%	15.8%	8.7%	81.0%	19.0%	19.3%	77.4%	22.6%	38.5%	41.1%	15.1%	43.8% (14.7%)	33.5%	89.7%	0.4%	7.0%	0.8%	2.1%	

※ ( ) 内の%は、貼付文の合計に対するこの項 (IV群 a類) の割合。

貼付文の「4本以上」・「3本」・「2本」は、それぞれの本数を1単位とする貼付文で、「1本」は貼付文の単位が1本単独のものである。1個体内に複数種の単位が併存する場合は、最も本数の多い単位の項に含めている。

以上の分類は、Table 2・3にも適用されている。

Table 2 本書掲載のオホーツク土器 各竪穴埋土における文様別の出土数

	貼付文													その他 貼付文	無文	沈線文	刻文	計	
	4本以上			3本			2本			1本			貼付文 計						
	Pのみ	H・K・ C含む	4本計	Pのみ	H・K・ C含む	3本計	Pのみ	H・K・ C含む	2本計	Pのみ	PとH・ K・C併存	Pを含まない ※							1本計
7号埋土	12	2	14	28	5	33	45	15	60	20	15	56	91	198	0	10	5	2	215
	85.7%	14.3%	7.1%	84.8%	15.2%	16.7%	75.0%	25.0%	30.3%	22.0%	16.5%	61.5% (28.3%)	46.0%	92.1%	0.0%	4.7%	2.3%	0.9%	
8号埋土	13	1	14	18	5	23	29	5	34	11	4	12	27	98	0	11	1	1	111
	92.9%	7.1%	14.3%	78.3%	21.7%	23.5%	85.3%	14.7%	34.7%	40.7%	14.8%	44.4% (12.2%)	27.6%	88.3%	0.0%	9.9%	0.9%	0.9%	
9号埋土	16	3	19	23	8	31	26	10	36	10	11	38	59	145	2	12	2	1	162
	84.2%	15.8%	13.1%	74.2%	25.8%	21.4%	72.2%	27.8%	24.8%	16.9%	18.6%	64.4% (26.2%)	40.7%	89.5%	1.2%	7.4%	1.2%	0.6%	
10号埋土	8	1	9	7	9	16	18	6	24	6	2	20	28	77	1	18	0	1	97
	88.9%	11.1%	11.7%	43.8%	56.3%	20.8%	75.0%	25.0%	31.2%	21.4%	7.1%	71.4% (26.0%)	36.4%	79.4%	1.0%	18.6%	0.0%	1.0%	
計	49	7	56	76	27	103	118	36	154	47	32	126	205	518	3	51	8	5	585
	87.5%	12.5%	10.8%	73.8%	26.2%	19.9%	76.6%	23.4%	29.7%	22.9%	15.6%	61.5% (24.3%)	39.6%	88.5%	0.5%	8.7%	1.4%	0.9%	

Table 3 オホーツク土器の文様別出土数 (2012年報告と本書掲載分の合計)

	貼付文													その他 貼付文	無文	沈線文	刻文	計	
	4本以上			3本			2本			1本			貼付文 計						
	Pのみ	H・K・ C含む	4本計	Pのみ	H・K・ C含む	3本計	Pのみ	H・K・ C含む	2本計	Pのみ	PとH・ K・C併存	Pを含まない ※							1本計
埋土の合計 (本書)	49	7	56	76	27	103	118	36	154	47	32	126	205	518	3	51	8	5	585
	87.5%	12.5%	10.8%	73.8%	26.2%	19.9%	76.6%	23.4%	29.7%	22.9%	15.6%	61.5% (24.3%)	39.6%	88.5%	0.5%	8.7%	1.4%	0.9%	
床面等の合計 (前報告書)	16	3	19	34	8	42	65	19	84	30	11	32	73	218	1	17	2	2	243
	84.2%	15.8%	8.7%	81.0%	19.0%	19.3%	77.4%	22.6%	38.5%	41.1%	15.1%	43.8% (14.7%)	33.5%	89.7%	0.4%	7.0%	0.8%	2.1%	
総計	65	10	75	110	35	145	183	55	238	77	43	158	278	736	4	68	10	10	828
	86.7%	13.3%	10.2%	75.9%	24.1%	19.7%	76.9%	23.1%	32.3%	27.7%	15.5%	56.8% (21.5%)	37.8%	88.9%	0.5%	8.2%	1.2%	1.2%	

埋土ともに貼付文期のIV群 b 類土器であり、これがオホーツク土器全体の約 7 割を占める。次いで多いのがIV群 a 類土器であり、これがオホーツク土器全体の約 2 割となる。すなわち、本地点におけるオホーツク集団の活動時期は、貼付文期でも相対的に新しい時期が中心になっていたと考えることができる。

IV群 b 類土器に関しては、「3 本重畳パターン」という文様意匠の出現に基づいて時期区分ができる可能性を指摘したことがある（熊木 2018a）。本地点の出土資料をみると、2012 年報告掲載分には「3 本重畳パターン」は認められない。本書掲載分では、その可能性があるものが 3 点出土しているが（Fig. 1-18・19-20・19-21）、いずれも口縁部のみの資料であり、確実ではない。よって、本地点におけるオホーツク集団の活動時期については、貼付文期の終末段階まで下る可能性は否定できないものの、「3 本重畳パターン」の出現期には活動がほぼ途絶えていたと考えてよいだろう。

次に、土器の型式編年に関わる問題として、IV群 a 類と b 類の貼付文の構成について確認してみよう（Table 3）。各単位の貼付文について、施文なし（P）と施文あり（H・K・C）の割合についてみてみると、貼付文の単位が 1 本単独の土器では、P のみとなる個体は 3 割以下で、H・K・C を含む個体が 7 割以上を占めている。一方、2 本および 3 本が 1 単位となる貼付文を含む土器では、P のみからなる個体が 7 割を超えており、施文のある貼付文をもつ例は著しく減少する。さらに 4 本以上が 1 単位となる貼付文を含む土器では、P のみからなる個体が 8 割以上となり、施文のある貼付文を持つ個体の割合はさらに減る。以上の分析から、貼付文の単位数と施文のある貼付文の割合は反比例する傾向にあることが読み取れる。この傾向は以前にも指摘しているが（東大考古学研究室・常呂実習施設編 2001：86 頁）、今回の分析ではそれを定量的な形で示すことができた。

#### (4) 文様の属性分析からみた各竪穴の時期差

続いて、本地点出土のオホーツク土器について、各竪穴の内容の差を検討してみよう。2012 年報告では、7a 号竪穴骨塚 a でまとまって出土した完形土器がいずれもIV群 a 類に相当することから、本地点の竪穴では 7a 号竪穴の時期が最も古いことを指摘した。しかし、それ以外の各竪穴については型式編年上の明確な差異が読み取れなかったため、各竪穴の時期差については所見を述べていなかった。

今回の分析結果を見ると、竪穴毎の差について以下のことが指摘できるかもしれない。まず、床面や骨塚を中心とした 2012 年報告掲載分（Table 1）では、10 号竪穴におけるIV群 a 類土器の出土割合が少ない（6.8%）ことが注目される。すなわち、10 号竪穴は他よりも相対的に新しく位置づけられる可能性が考えられるのだが、実は 10 号で最も新しい段階となる 10c 号竪穴床面と骨塚 c から IV群 a 類が出土しているため、この数値（6.8%）は編年に際してあまり大きな意味をもたない。一方、本書掲載の埋土出土土器を見ると（Table 2）、8 号竪穴埋土でIV群 a 類土器の出土割合がやや低い（12.2%）ことが注目される。これも、8 号竪穴の廃絶時期が相対的に新しいことを示す可能性があるが、IV群 a 類は 8 号竪穴の床面からも一定数出土しているため、やはり確実とは言えない。このように、いくつかの手がかりは得られたものの、現状では、文様の属性分析の結果から 7a 号以外の各竪穴の時期差を読み取るのは困難と言わざるを得ないようである。

## 6 出土土器属性表

Table 4 は、本書で報告したオホーツク土器のうち、口縁部および胴部破片の属性を記した表である。Table 4 の註 1)～3) の内容は以下のとおりであるが、ここで述べる肥厚帯や文様の分類は、基本的に 2012 年報告に準じている。

1) 「**発掘区**」には、各資料が出土した発掘区について、「○号埋土」のように表記した。本文第一章 2 で述べたように、本書に掲載した土器の出土位置や層位については、竪穴の内外・表土・竪穴埋土等を区別せずに一括して扱ったため、このような表記とした。

2) **口縁部肥厚帯の分類**は、以下の 4 種を基本とする。

1段：肥厚帯を 1 段有する例。断面形は長方形のほか、ほとんど肥厚せず口縁部の下縁に痕跡的な段（接合痕に近い痕跡）を有する例などがあり、厚さや幅に多少の変異がある。幅が狭く厚手となるものは下記の「**突帯**」の方に分類する。

2段：肥厚帯を 2 段有する例。

突帯：肥厚帯の幅が狭く、やや厚手となる例。断面形は丸くなるものと方形に近いものがある。

無：肥厚帯がない例

以上の 4 種が基本となるが、今回報告する資料の中には「**突帯+1 段**」という「一段の肥厚帯の上に突帯が重ねて付加されている」例も存在する。

3) **貼付文の文様要素**については以下のように分類して記載している。

### ①紐状の貼付文

紐状の貼付文については以下の二つの属性を組み合わせて分類をおこなっている。

単位：何本の貼付文が意匠として 1 つのまとまりと判断できるか、という分類である。本書掲載の土器では、1 本単独～8 本 1 単位まで確認された。1 本単独には直線状や大小の波線などがある。2 本 1 単位では直線+波線の組み合わせが代表的であり、3 本 1 単位ではその下部にさらに直線を加えて直線+波線+直線となるものが代表的である。4 本 1 単位以上の例は少ないが、意匠には様々なバリエーションがある。

施文：貼付文上の施文に関する分類である。4 種があり、C、K、H、P の略号で示す。C は貼付文上に刺突を施して鎖状 (Chain) にする施文である。K は刻み (Kizami) を施す施文で、いわゆる「擬縄貼付文」である。H は貼付文に指でひねり (Hineri) を加える施文で、小さな波状を呈し、器面に爪の跡が残る場合がある。P は施文を行わない (Plain) 例である。

これら二つの属性の組み合わせを、「**単位+施文**」の記号で表記する。例えば「**貼付文 (2P)**」は、「2 本 1 単位で (2 本とも) 施文なし」の貼付文である。異なる施文どうしで 1 単位をなしている場合は、「**貼付文 (1P+1H)**」のように+の記号を用いて記載する（この場合は、施文なしの貼付文とひねりを加えられた貼付文が各 1 本ずつで 2 本 1 単位となっている）。

### ②粒状の貼付文

径 1cm 前後の円形の貼付文を指す。



### ③ボタン状の貼付文

粒状の貼付文の上面に刺突が施されたもの、または紐状の貼付文を小さな円に加工したものを指す。

### ④その他の貼付文

動物意匠、縦長の瘤状の貼付文などについては個々に記載している。

(熊木俊朗)

## 註

- 1) 本章のオホーツク土器の記述では、口縁部の文様に基づいて土器を分類している。ただし、「口縁部」といっても、特にオホーツク貼付文系土器では口縁部から頸部ないし胴部にかけて文様帯が一体化しているものも多く、そのような例ではどこまでを「口縁部」とみなすのか、判断が難しい。本文、および本章5の「出土土器属性表」では、文様帯が一体化している例については基本的に全ての文様を「口縁部」として扱い、口縁部と頸部以下の文様帯の間に無文帯を挟む例については、無文帯の上部を「口縁部」として扱っている。もっとも、文様帯が一体化しているか否かの判断は主観による部分が大きく、厳密なものではないことをお断りしておく。
- 2) オホーツク土器の貼付文の単位、施文等の分類については、本章の5「出土土器属性表」の項で後述するので参照されたい。
- 3) 擦文文化の活動が低調であった状況下において注目されるのは、8号竪穴の埋土中に残されていた、宇田川編年後期のほぼ完形の土器 (Fig. 16-1) である。墓の副葬品や、儀礼の痕跡を示すものである可能性も考えられるが、埋土中にそのような遺構は検出されていない。この土器が埋土中に残された背景は不明とせざるを得ない。
- 4) Table 1~3 で集計した資料の多くは口縁部のみの個体であり、頸部~胴部文様の属性については確認できていないものが多い。文様構成を対象としたこのような分析では、本来、口縁部から胴部までの文様が判明した個体を対象とするべきだが、そのような個体の数が少ないため、ここでは口縁部のみの個体を含めて集計した。この点において Table 1~3 の資料の分類には問題があることを認めておきたい。なお、Table 2・3 に集計した資料の数であるが、本書掲載の土器のうち、本文や Table 4 の属性表で「同一個体か」とした資料については、これらの表では全て別個体とみなして集計している。

## 引用文献

宇田川洋 1980 「7 擦文文化」『北海道考古学講座』みやま書房：151-182

熊木俊朗 1997 「宇津内式土器の編年」東京大学考古学研究室研究紀要 15：1-38

熊木俊朗 2014 「モヨロ貝塚の住居について」『モヨロ貝塚発見 100 年シンポジウム “もっと知りたい！モヨロのくらし” 開催概要報告書』網走市立郷土博物館：35-42

熊木俊朗 2018a 「第3章第1節 チャシコツ岬上遺跡出土オホーツク土器・トビニタイ土器の編年試案」『チャシコツ岬上遺跡 総括報告書』斜里町教育委員会：101-106

- 熊木俊朗 2018b 『オホーツク海南岸地域古代土器の研究』 北海道出版企画センター
- 豊原熙司 1996 「北筒式土器の型式認識について」 北海道考古学 32：35-47
- 塚本浩司 2002 「擦文土器の編年と地域差について」 東京大学考古学研究室研究紀要 17：145-184
- 塚本浩司 2012 「トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 7号竪穴出土の擦文土器（土師器）について」 『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点』 東京大学大学院人文社会系研究科：253-276
- 東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設編 2001 『トコロチャシ跡遺跡』 東京大学大学院人文社会系研究科
- 東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設編 2012 『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点』 東京大学大学院人文社会系研究科
- 藤本 強 1982a 「遺跡・遺物に関する若干の考察」 『岐阜第二遺跡 —1981年度—』 常呂町：135-142
- 藤本 強 1982b 『擦文文化』 教育社歴史新書

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（1）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
1-1	7号埋土	突帯+1段	貼付文（3P）	貼付文（9P）	
1-2	7号埋土	1段	貼付文（8P）		
1-3	7号埋土	2段	貼付文（6P+1C・1P（ボタン状を付加）・4P・1P（ボタン状を付加））		
1-4	7号埋土	2段	貼付文（6P（斜めの貼付文を付加）・5P）		
1-5	7号埋土	突帯	貼付文（13P）		口縁部貼付文の13Pは口唇上のものを含む
1-6	7号埋土	1段	貼付文（7P）		
1-7	7号埋土	無	貼付文（5P・3P）		
1-8	7号埋土	1段	貼付文（5P）	貼付文（1P）	
1-9	7号埋土	1段	貼付文（1H（ボタン状を付加）・4P）		
1-10	7号埋土	無	貼付文（4P・2P・1P?）		
1-11	7号埋土	2段	貼付文（4P）	貼付文（1P（粒状を付加）・1P・3P）	
1-12	7号埋土	突帯	貼付文（1P（粒状を付加）・4P）		
1-13	7号埋土	1段	貼付文（4P）	貼付文（1P）	
1-14	7号埋土	1段	貼付文（3P・1H）	貼付文（3P（水鳥形の貼付文を付加））	
1-15	7号埋土	1段	貼付文（3P・2P）		
1-16	7号埋土	突帯	貼付文（3P）		
1-17	7号埋土	無	貼付文（3P・3P・3P・3P・3P）	貼付文（4P（縦長を付加））	口唇上に貼付文?
1-18	7号埋土	無	貼付文（3P・3P・3P）		
1-19	7号埋土	突帯+1段	貼付文（3P・3P・2P）	貼付文（3P（粒状を付加）・2P・2P）	口唇上に貼付文
1-20	7号埋土	2段	貼付文（3P・2P・2P）		
2-21	7号埋土	1段	貼付文（3P）	貼付文（3P（粒状を付加））	
2-22	7号埋土	2段	貼付文（3P・1P（瘤状を付加）・3P）		
2-23	7号埋土	1段	貼付文（3P・2P）	貼付文（2P）	
2-24	7号埋土	1段	貼付文（3P）	貼付文（2K・2P）	
2-25	7号埋土	1段	貼付文（3P・2P）	貼付文（2P）	
2-26	7号埋土	1段	貼付文（3P・3P）		
2-27	7号埋土	1段	貼付文（3P・3P・2P）		
2-28	7号埋土	1段	貼付文（3P・3P（粒状を付加））		2-28～29は同一個体か
2-29	7号埋土	1段	貼付文（3P・3P（粒状を付加））		2-28～29は同一個体か
2-30	7号埋土	1段	貼付文（3P・1P・1P?）		
2-31	7号埋土	1段	貼付文（3P）		
2-32	7号埋土	1段	貼付文（3P・1P）		
2-33	7号埋土	—	貼付文（3P・2P）		
2-34	7号埋土	1段	貼付文（3P・1P）		
2-35	7号埋土	1段	貼付文（3P・1P）	貼付文（粒状）	
2-36	7号埋土	1段	貼付文（3P・1P）		
2-37	7号埋土	1段	貼付文（3P）		
2-38	7号埋土	2段	貼付文（3P）		
2-39	7号埋土	1段	貼付文（3P・3P）		
2-40	7号埋土	—	貼付文（3P）		
2-41	7号埋土	1段	貼付文（3P）		
2-42	7号埋土	1段	貼付文（2P・1P・3P）		
2-43	7号埋土	1段	貼付文（3P・1C）	貼付文（2ヶの粒状を2Pでつなぐ貼付文・5P）	
2-44	7号埋土	無	貼付文（3P）	貼付文（1P+1K）	
2-45	7号埋土	1段	貼付文（1P+1H+1P・1P+1H+1P）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（2）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
2-46	7号埋土	1段	貼付文（1P・3P）・刻文		
2-47	7号埋土	1段	貼付文（1P+1C+1P・1K）		
3-48	7号埋土	2段	貼付文（2P・1P・2P）		
3-49	7号埋土	2段	貼付文（2P・2P・2P）		
3-50	7号埋土	2段	貼付文（2P・2P・2P）		
3-51	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（2P（粒状を付加））	
3-52	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-53	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-54	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-55	7号埋土	無	貼付文（2P・1P）		
3-56	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-57	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（2P）	
3-58	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-59	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-60	7号埋土	無	貼付文（2P・2P）		
3-61	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-62	7号埋土	無	貼付文（2P・2P・1P）		
3-63	7号埋土	—	貼付文（2P・2P・粒状）		
3-64	7号埋土	—	貼付文（2P・2P・1P?）		
3-65	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（瘤状）	
3-66	7号埋土	1段	貼付文（2P・ボタン状・1P・2P）		
3-67	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-68	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-69	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-70	7号埋土	—	貼付文（2P・2P）		
3-71	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-72	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P?）		
3-73	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
3-74	7号埋土	1段	貼付文（2P・2P?）		
3-75	7号埋土	2段	貼付文（2P・1P?）		
3-76	7号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
3-77	7号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
3-78	7号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
3-79	7号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
3-80	7号埋土	無	貼付文（2P・1P）		
3-81	7号埋土	無	貼付文（1P・2P（2ヶ一組の貼付文を付加））		
3-82	7号埋土	1段	貼付文（2P?・1P）		
3-83	7号埋土	1段	貼付文（1P・2P）	貼付文（1P）	口唇上に貼付文（1P）
3-84	7号埋土	1段?	貼付文（2P）		上部に肥厚帯がもう1段ある?
3-85	7号埋土	1段	貼付文（2P）		
3-86	7号埋土	無	貼付文（2P）		
4-87	7号埋土	2段	貼付文（2P・2P・2P・1P）		
4-88	7号埋土	2段	貼付文（2P・2ヶ一組の粒状・2P）		
4-89	7号埋土	突帯	貼付文（2P）	貼付文（1P）	
4-90	7号埋土	1段	貼付文（1P・2P・1P）		
4-91	7号埋土	1段	貼付文（2P）		口唇部が折り返されている
4-92	7号埋土	無	貼付文（2P・2P）		
4-93	7号埋土	1段	貼付文（2K・2P・粒状・1P）	刻文	
4-94	7号埋土	—	貼付文（2P・1K）		
4-95	7号埋土	1段	貼付文（2P?・1K・2P・1K）	貼付文（2P・2P・2P）	

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（3）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
4-96	7号埋土	1段	貼付文（2P・1K）		
4-97	7号埋土	1段	貼付文（1K・2P）	貼付文（ボタン状）	
4-98	7号埋土	1段	貼付文（2P・1K）		
4-99	7号埋土	1段	貼付文（2P?・1K）		
4-100	7号埋土	1段	貼付文（1P・2P）	貼付文（2P・1C・2P）	肥厚帯は突帯に近い形状
4-101	7号埋土	1段	貼付文（1H+1P・1H・1K）		
4-102	7号埋土	1段	貼付文（1H+1C）	貼付文（2P・1P）	
4-103	7号埋土	1段	貼付文（2P・1K）		
4-104	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1H+1K）		
4-105	7号埋土	無	貼付文（1K・1H・1P+1K）		
4-106	7号埋土	無	貼付文（1K+1P（縦長の貼付文を付加）・粘土帯・1P+1K（縦長の貼付文を付加）・1K+1P）		
4-107	7号埋土	無	貼付文（2K・2K）		
5-108	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P）		
5-109	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P・1P）		
5-110	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P・1P）		
5-111	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P）		
5-112	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P）		
5-113	7号埋土	2段	貼付文（1P・1P・1P・1P）		
5-114	7号埋土	無	貼付文（1P・1P・1P）		
5-115	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P・1P（粒状を付加））	貼付文（1P（粒状を付加））	
5-116	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P）	貼付文（1P・1P（紐状を付加））	
5-117	7号埋土	無	貼付文（1P?・1P+縦の貼付文+1P）		
5-118	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P）		
5-119	7号埋土	1段	貼付文（1P?・1P・1P）		
5-120	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P）		
5-121	7号埋土	1段	貼付文（1P・1P）		
5-122	7号埋土	1段	貼付文（1P?・1P）		
5-123	7号埋土	1段	貼付文（1P）		
5-124	7号埋土	1段	貼付文（1P）		
5-125	7号埋土	1段	貼付文（1P）		
5-126	7号埋土	—	貼付文（1P）		
5-127	7号埋土	1段	貼付文（1P）		
5-128	7号埋土	1段	貼付文（1H・1P）	貼付文（1H・1H・1H）	
5-129	7号埋土	—	貼付文（1H・1P・1H）		
5-130	7号埋土	1段	貼付文（1H・1P・1H）		
5-131	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1P・1H）		
5-132	7号埋土	2段	貼付文（1P・1H・1P）		
5-133	7号埋土	1段	貼付文（1H・1P・1H）		
5-134	7号埋土	1段	貼付文（1K・1P・1K）		
5-135	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K・1K（粒状を付加）・1P）		
5-136	7号埋土	2段	貼付文（1K・1P・1K・粒状・1P）		
5-137	7号埋土	無	貼付文（1H?・ボタン状・1H?・ボタン状・1H?・ボタン状・1H?・ボタン状・1P?（ボタン状を付加））		
5-138	7号埋土	1段	貼付文（1P・1K）	貼付文（2P）	
5-139	7号埋土	無	貼付文（1P・1P・1K（粒状を付加））		
5-140	7号埋土	1段	貼付文（1P・1K）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（4）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
5-141	7号埋土	1段	貼付文（1P・1K・1K）		
5-142	7号埋土	—	貼付文（1P・1K）		
6-143	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1H）		
6-144	7号埋土	無	貼付文（1H?・1H・1H）		
6-145	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1H）		
6-146	7号埋土	無	貼付文（1H・1H・1H?）		
6-147	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）	貼付文（1H）	
6-148	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		6-148～149は同一個体か
6-149	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		6-148～149は同一個体か
6-150	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-151	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-152	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-153	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）	貼付文（1H）	
6-154	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-155	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-156	7号埋土	無	貼付文（1H・1H）		
6-157	7号埋土	1段	貼付文（1H・粒状・1H）		
6-158	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H?）		
6-159	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-160	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-161	7号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
6-162	7号埋土	無	貼付文（1H・1H）		
6-163	7号埋土	無	貼付文（1H・1H）		
6-164	7号埋土	無	貼付文（1H・1H）		
6-165	7号埋土	1段	貼付文（1H）	貼付文（1H）	
6-166	7号埋土	1段	貼付文（1H）	貼付文（1H）	
6-167	7号埋土	1段	貼付文（1H）		
6-168	7号埋土	1段	貼付文（1H・粒状）		
6-169	7号埋土	1段	貼付文（1H・1K・1H）		
6-170	7号埋土	1段	貼付文（1H・1K・1H）		
6-171	7号埋土	1段	貼付文（1H・1K・1H）		
6-172	7号埋土	無	貼付文（1H・1K・1H）		
6-173	7号埋土	1段	貼付文（1K・1H）	貼付文（2P（粒状を付加））	
6-174	7号埋土	1段	貼付文（1H・1K）		
6-175	7号埋土	無	貼付文（1K・1H）		
6-176	7号埋土	1段	貼付文（1K（粒状を付加）・1H?）		
6-177	7号埋土	無	貼付文（1K・1H（粒状を付加））		
7-178	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K・1K）	貼付文（縦長）	口唇上に貼付文（1K）
7-179	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K・1K）		
7-180	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K?・1K）		
7-181	7号埋土	無	貼付文（1K・粒状・1K）		
7-182	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		口縁部に2ヶの粘土粒があるが、文様か否か不明
7-183	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
7-184	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
7-185	7号埋土	無	貼付文（1K・1K・縦の貼付文・1P+ボタン状+1P）		
7-186	7号埋土	無	貼付文（1K?・1K）		
7-187	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
7-188	7号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
7-189	7号埋土	—	貼付文（1K・1K（ボタン状と縦の貼付文を付加））		
7-190	7号埋土	無	貼付文（1K・1K）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（5）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
7-191	7号埋土	無	貼付文（1K・1K（ボタン状と縦の貼付文？を付加））		
7-192	7号埋土	1段	貼付文（1C・粒状・1C）		
7-193	7号埋土	1段	貼付文（1K）	貼付文（斜め方向に2P）	
7-194	7号埋土	無	貼付文（1K・1K？）		
7-195	7号埋土	無	貼付文（1K）		
7-196	7号埋土	—	貼付文（1K）		
7-197	7号埋土	1段	貼付文（1K）		
7-198	7号埋土	1段	刻文・貼付文（1K）・刻文		
7-199	7号埋土	無	刻文	沈線文（3条）	口唇部断面は切り出し形で、かえし状にはみ出す
7-200	7号埋土	1段	沈線文（2条）		
7-201	7号埋土	—	沈線文（2条）		
7-202	7号埋土	無	刻文・摩擦式浮文（7条）		口唇部断面は切り出し形で、かえし状にはみ出す
7-203	7号埋土	突帯	無文	刺突文	
7-204	7号埋土	無	刻文		
7-205	7号埋土	1段	摩擦式浮文（2条）・刻文		
7-206	7号埋土	1段	刻文（ハの字状が2列）		
7-207	7号埋土	1段	無文	貼付文（斜め方向の1K・水平の1K）	口唇上に貼付文
7-208	7号埋土	無	無文		
7-209	7号埋土	突帯	無文		
7-210	7号埋土	1段	無文		
7-211	7号埋土	1段	無文		
7-212	7号埋土	無	無文		
7-213	7号埋土	無	無文		
7-214	7号埋土	無	無文		
7-215	7号埋土	無	無文		
8-216	7号埋土	—	—	貼付文（6P）	
8-217	7号埋土	—	—	貼付文（1H・1Kの粘土紐を2ヶ用いた意匠）	
8-218	7号埋土	—	—	貼付文（太く刻みがある）	
8-219	7号埋土	—	—	貼付文（1K・1K）	
8-220	7号埋土	—	—	貼付文（2P・粒状（周囲に1Pがめぐる））	
8-221	7号埋土	—	—	貼付文（2P）	
8-222	7号埋土	—	—	貼付文（1K・1K）	
12-1	8号埋土	2段	貼付文（6P・3P（斜めの貼付文を付加））		
12-2	8号埋土	1段	貼付文（6P）	貼付文（2P）	
12-3	8号埋土	1段	貼付文（6P）		
12-4	8号埋土	1段	貼付文（5P）		
12-5	8号埋土	1段	貼付文（5P）		
12-6	8号埋土	1段	貼付文（4P・2P）		
12-7	8号埋土	—	貼付文（4P）・沈線文（斜格子目）		
12-8	8号埋土	1段	貼付文（4P）		
12-9	8号埋土	1段	貼付文（4P・1P）	貼付文（2P）	
12-10	8号埋土	1段	貼付文（4P・2P・2P）		
12-11	8号埋土	1段	貼付文（4P（粒状を付加））		
12-12	8号埋土	1段	貼付文（4P）	貼付文（1P）	口唇上に貼付文（2P）
12-13	8号埋土	無？	貼付文（1P・4P・3P）		口唇上に貼付文（粒状）
12-14	8号埋土	1段	貼付文（3P+1C（ボタン状を付加）・1H）		
12-15	8号埋土	無	貼付文（3P）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（6）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
12-16	8号埋土	1段	貼付文（3P・2K）		
12-17	8号埋土	2段	貼付文（2P・2P）	貼付文（3P・2P）	口唇上に貼付文（2P）
12-18	8号埋土	2段	貼付文（3P・1P・2P?・1P?）		
12-19	8号埋土	1段	貼付文（3P・2P）	貼付文（2P）	
12-20	8号埋土	1段	貼付文（3P・1P）	貼付文（3P）	
12-21	8号埋土	1段	貼付文（3P+2P（ボタン状を付加）・1P）		
12-22	8号埋土	1段	貼付文（3P・2P・3P）		
12-23	8号埋土	無	貼付文（3P・3P）		
12-24	8号埋土	1段	貼付文（3P・粒状・3P）		
12-25	8号埋土	1段	貼付文（3P・2P）		
12-26	8号埋土	無	貼付文（3P・2P）		
12-27	8号埋土	1段	貼付文（2P・3P）		
12-28	8号埋土	1段	貼付文（3P・1P+1H）		
12-29	8号埋土	1段	貼付文（1H・3P・1H）		
12-30	8号埋土	1段	貼付文（3P?・2P）		
12-31	8号埋土	1段	貼付文（3P・2P）		
12-32	8号埋土	1段	貼付文（2P・3P）		
12-33	8号埋土	1段	貼付文（3P）		
12-34	8号埋土	無?	貼付文（3P）		
12-35	8号埋土	1段	貼付文（2K+1P・1P+2K）		口唇内縁に貼付文（1P）
12-36	8号埋土	1段	貼付文（2K・3P+1P）		
12-37	8号埋土	1段	貼付文（3P）・刻文	貼付文（2P・1P）	
13-38	8号埋土	2段	貼付文（2P・1P（粒状を付加）・2P（粒状を付加）・2P（粒状を付加））		
13-39	8号埋土	無	貼付文（2P）	貼付文（2P・2P）	
13-40	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（2P）	
13-41	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
13-42	8号埋土	1段	貼付文（2P・1P）	貼付文（1P）	
13-43	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
13-44	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
13-45	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
13-46	8号埋土	無	貼付文（2P・2P）		
13-47	8号埋土	1段	貼付文（2P）	貼付文（2P）	
13-48	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
13-49	8号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
13-50	8号埋土	1段	貼付文（2P・粒状・2P）		
13-51	8号埋土	—	貼付文（2P・2P）		
13-52	8号埋土	1段	貼付文（2P?・2P）		
13-53	8号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
13-54	8号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
13-55	8号埋土	1段	貼付文（1P・2P）		
13-56	8号埋土	1段	貼付文（1P・2P）		
13-57	8号埋土	1段	貼付文（2P?・2P）	貼付文（2P?）	口唇上に貼付文（1P）
13-58	8号埋土	無	貼付文（1P・1P・2P）		
13-59	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P・2P）		
13-60	8号埋土	—	貼付文（2P・1P）		
13-61	8号埋土	1段	貼付文（2P）		
13-62	8号埋土	1段	貼付文（2P）		
13-63	8号埋土	突帯	貼付文（2P・ボタン状）		
13-64	8号埋土	突帯	貼付文（2P・1P（ボタン状を付加））		
13-65	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P+1H・1K）		



Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（7）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
13-66	8号埋土	1段	貼付文（1P・2P+1P）		
13-67	8号埋土	無	貼付文（1P・2P）		
13-68	8号埋土	1段	貼付文（2P・1K）		
13-69	8号埋土	1段	貼付文（2P・1K）	貼付文（2P）	
13-70	8号埋土	1段	貼付文（2P・1K）		
13-71	8号埋土	1段	貼付文（2P・1K・2P）		
14-72	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P）	貼付文（1P・1P）	
14-73	8号埋土	—	貼付文（1P・1P）		
14-74	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P）		
14-75	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P・1P・1P）		
14-76	8号埋土	1段	貼付文（1P）		口唇上に貼付文（1K）
14-77	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P）	貼付文（3P）	
14-78	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P）		
14-79	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P）		14-79～80は同一個体か
14-80	8号埋土	1段	貼付文（1P・1P）		14-79～80は同一個体か
14-81	8号埋土	1段	貼付文（1P?・1P）		
14-82	8号埋土	—	貼付文（1P）		
14-83	8号埋土	1段	貼付文（1P（粒状を付加）・1H・1P・1H）		
14-84	8号埋土	1段	貼付文（1K・1P・1K）		
14-85	8号埋土	1段	貼付文（1P?・1K）		
14-86	8号埋土	2段	貼付文（1H・1K・1H・1H）	貼付文（1K・2P）	
14-87	8号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1H・1C）	貼付文（1H）	
14-88	8号埋土	1段	貼付文（1H?・1H・1H）		
14-89	8号埋土	—	貼付文（1H・1H）		
14-90	8号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
14-91	8号埋土	1段	貼付文（1H?・1H?（粒状を付加）・1H?（粒状を付加））		
14-92	8号埋土	1段	貼付文（1H・1H（粒状を付加））		
14-93	8号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
14-94	8号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
14-95	8号埋土	無	貼付文（1H・1H）		
14-96	8号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
14-97	8号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
14-98	8号埋土	1段	貼付文（1K）・刺突文	貼付文（1K）	
14-99	8号埋土	—	沈線文?		口縁部の沈線文は、貼付文の痕跡の可能性はある
14-100	8号埋土	無	刻文		
15-101	8号埋土	1段	無文	貼付文（3P）	
15-102	8号埋土	無	無文	貼付文（1K）	
15-103	8号埋土	無	無文	貼付文（1K・（剥落）・（剥落）（2ヶ所のボタン状を付加））	肩部の剥落した2本はどちらも1Kか
15-104	8号埋土	無	無文		
15-105	8号埋土	1段	無文	貼付文（粒状）	
15-106	8号埋土	1段	無文		
15-107	8号埋土	1段	無文		
15-108	8号埋土	無	無文		
15-109	8号埋土	無	無文		
15-110	8号埋土	無	無文		
15-111	8号埋土	無	無文		口唇部が内側に屈曲する
15-112	8号埋土	—	—	貼付文（3P（縦長の貼付文を付加））	
15-113	8号埋土	—	—	貼付文（4P（縦長の貼付文を付加））	

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（8）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
15-114	8号埋土	—	—	貼付文（3P）	
15-115	8号埋土	—	—	貼付文（1K・1P・1K）	
15-116	8号埋土	—	—	貼付文（1H・1K・1H・2K）	
19-1	9号埋土	無	貼付文（7P（2ヶの粒状を付加））		
19-2	9号埋土	無？	貼付文（7P（ボタン状を付加））		
19-3	9号埋土	1段	貼付文（7P）		
19-4	9号埋土	無	貼付文（5P）		
19-5	9号埋土	1段	貼付文（5P）		
19-6	9号埋土	1段	貼付文（5P）		19-6～8は同一個体か
19-7	9号埋土	1段	貼付文（5P）		19-6～8は同一個体か
19-8	9号埋土	1段	貼付文（5P）	貼付文（1H・1P？）	19-6～8は同一個体か
19-9	9号埋土	1段	貼付文（1K+4P）		19-9～10は同一個体か
19-10	9号埋土	1段	貼付文（1K+4P）	貼付文（1K）	19-9～10は同一個体か
19-11	9号埋土	突帯+1段	貼付文（3P・2P）	貼付文（粒状・1P）	口唇上に貼付文（5P）
19-12	9号埋土	1段	貼付文（4P）	貼付文（3P・3P）	
19-13	9号埋土	1段	貼付文（4P・3P）		
19-14	9号埋土	1段	貼付文（4P（縦長の貼付文を付加））		
19-15	9号埋土	2段	貼付文（4P・1P・2P）		
19-16	9号埋土	無	貼付文（4P・2P・3P）		
19-17	9号埋土	1段	貼付文（4P・2P）	貼付文（1P）	
19-18	9号埋土	無？	貼付文（4P・貼付文）		
19-19	9号埋土	1段	貼付文（3P）	貼付文（3P・5P）	
19-20	9号埋土	1段	貼付文（3P・3P・3P）		
19-21	9号埋土	2段	貼付文（3P・3P・3P）		
19-22	9号埋土	1段	貼付文（3P・3P）	貼付文（3P・2P？）	
19-23	9号埋土	2段	貼付文（3P・3P・1P）		
19-24	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（3P・3P）	
19-25	9号埋土	1段	貼付文（3P・2P）		
19-26	9号埋土	1段	貼付文（3P・2P）		
19-27	9号埋土	2段	貼付文（3P・3P・「へ」の字状貼付文・2P）		
19-28	9号埋土	1段	貼付文（3P・1P）		
19-29	9号埋土	1段	貼付文（3P・1P）		
19-30	9号埋土	1段	貼付文（3P・1P）		
19-31	9号埋土	1段	貼付文（3P・1P？）		
19-32	9号埋土	1段	貼付文（3P）		
19-33	9号埋土	無	貼付文（3P）		
19-34	9号埋土	1段	貼付文（2P・3P）		
19-35	9号埋土	1段	貼付文（3P・1P・1P）		
20-36	9号埋土	無	貼付文（3P・1P）		
20-37	9号埋土	2段	貼付文（3P・2P・粒状・2P）		口唇上に貼付文（1P）
20-38	9号埋土	1段	貼付文（3P）		
20-39	9号埋土	1段	貼付文（3P）		
20-40	9号埋土	突帯	貼付文（3P）		
20-41	9号埋土	1段	貼付文（3P）	貼付文（三つ又の粒状）	
20-42	9号埋土	1段	貼付文（3P）		
20-43	9号埋土	無	貼付文（1P+1P+1K・2P・3P+ボタン状）		口縁部上面形が波打つ
20-44	9号埋土	1段	貼付文（3P・1K・3P）		
20-45	9号埋土	1段	貼付文（1K+2P）	貼付文（紐状+ボタン状・1P）	
20-46	9号埋土	2段	貼付文（3P・1K・6P？）		
20-47	9号埋土	無	貼付文（2P+1K・1P？）		口唇部外縁がまくれている

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（9）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
20-48	9号埋土	2段	貼付文（3P・1P・2K）		口唇上に貼付文（1P）
20-49	9号埋土	1段	貼付文（1P+1K+1P）		
20-50	9号埋土	1段	貼付文（1P+1H+1P?）	貼付文（1K・1K）	
20-51	9号埋土	2段	貼付文（2P・2P）	貼付文（2P）	
20-52	9号埋土	2段	貼付文（2P・2P・2P）		
20-53	9号埋土	2段	貼付文（2P・2P）	貼付文（2P?）	
20-54	9号埋土	2段	貼付文（2P・2P）		
20-55	9号埋土	2段?	貼付文（1P・2P・1P・1P）		
20-56	9号埋土	2段	貼付文（2P・2P・2P）		
20-57	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
20-58	9号埋土	無	貼付文（2P・2P・2P?）		
20-59	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
20-60	9号埋土	無	貼付文（2P・2P・1P）		
20-61	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（粒状）	
20-62	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		
20-63	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		20-63～64は同一個体の可能性
20-64	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）		20-63～64は同一個体の可能性
20-65	9号埋土	1段	貼付文（2P?・2P?）		
20-66	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P?）		
20-67	9号埋土	1段	貼付文（2P・2P）	貼付文（1P?）	
20-68	9号埋土	1段	貼付文（2P?・2P）		
20-69	9号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
20-70	9号埋土	1段	貼付文（2P・1P）		
20-71	9号埋土	1段	貼付文（2P）		
21-72	9号埋土	1段	貼付文（2P・1P）	貼付文（2P・1P）	
21-73	9号埋土	2段?	貼付文（1P・2P・1P・1P?）		
21-74	9号埋土	2段	貼付文（2P・1P?・2P）		21-74～75は同一個体か
21-75	9号埋土	2段	貼付文（2P・1P?・2P）		21-74～75は同一個体か
21-76	9号埋土	1段	貼付文（2P・1K・2P・1K）	貼付文（2P）	
21-77	9号埋土	1段	貼付文（1K・2P）	貼付文（1P・1K）	
21-78	9号埋土	無	貼付文（2P・ボタン状・2P）	貼付文（2P・ボタン状）	
21-79	9号埋土	1段	貼付文（2P・1K・2P?）		
21-80	9号埋土	1段	貼付文（1P・2P・1K）		
21-81	9号埋土	1段	貼付文（1H・1P?・粒状・2P）		
21-82	9号埋土	1段	貼付文（1P+1H・1P+1H）		
21-83	9号埋土	—	貼付文（1K+1P）		
21-84	9号埋土	1段	貼付文（1K+1P）		
21-85	9号埋土	1段	貼付文（2K）		
21-86	9号埋土	1段	貼付文（1P+1K・1P）		
21-87	9号埋土	1段	貼付文（1P（粒状を付加）	貼付文（1P（粒状を付加）	
21-88	9号埋土	突帯	貼付文（1P・1P（U字状の貼付文を付加）		
21-89	9号埋土	突帯	貼付文（1P・粒状（左脇に紐状を付加）・1P・粒状（両脇に紐状を付加）		
21-90	9号埋土	1段?	貼付文（1P・1P・1P）		
21-91	9号埋土	無	貼付文（1P・1P・1P）		
21-92	9号埋土	—	貼付文（1P・1P）		
21-93	9号埋土	突帯+1段	貼付文（1P・1P）		
21-94	9号埋土	突帯	貼付文（1P?）	貼付文（4P?）	
21-95	9号埋土	突帯+1段	貼付文（1P）		
21-96	9号埋土	1段	貼付文（1H・1P・1P・1H）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（10）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
21-97	9号埋土	1段	貼付文（1H・1P・1H・1P・1H）		
21-98	9号埋土	無	貼付文（1C・1P・1P）		
21-99	9号埋土	無	貼付文（1P?・1H・1P・1H・斜め方向の紐状2本（1K・1K））		
21-100	9号埋土	1段	貼付文（1H?・1P・1H?）		
21-101	9号埋土	無	貼付文（1P?・1P・1H?）		
21-102	9号埋土	2段	貼付文（1C・1P・1C）		
21-103	9号埋土	1段	貼付文（1K・1P・1K）		
21-104	9号埋土	無	貼付文（1K・1P・1K）		
21-105	9号埋土	1段	貼付文（1P?・1P・1C・1P・1C）		
21-106	9号埋土	無	貼付文（1P・粒状・1K・1P・1H?）		
21-107	9号埋土	1段	貼付文（1P）・沈線文・貼付文（1P）		
22-108	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1H）		
22-109	9号埋土	無	貼付文（1H・1H（粒状を付加））		
22-110	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H（縦長の貼付文を付加））		
22-111	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-112	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-113	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-114	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-115	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）	貼付文（1H?）	
22-116	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-117	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-118	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-119	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
22-120	9号埋土	1段?	貼付文（1H・1H）		
22-121	9号埋土	1段	貼付文（1H・斜め方向の紐状2本（1P・1P）・1H）		
22-122	9号埋土	無	貼付文（1H・粒状?）		
22-123	9号埋土	1段	貼付文（1K?・1H）	貼付文（1P・1H）	
22-124	9号埋土	1段	貼付文（1K・1H（ボタン状を付加）・1H）		
22-125	9号埋土	1段	貼付文（1K・1H）		
22-126	9号埋土	無	貼付文（1K・1H）・沈線+刻文		
22-127	9号埋土	1段	貼付文（1H・1H・粒状・1H）・刺突文		
22-128	9号埋土	無	貼付文（1C・1C・1C）		
22-129	9号埋土	1段	貼付文（1K?・1K?・1K）		
22-130	9号埋土	無	貼付文（1K・1K）		
22-131	9号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
22-132	9号埋土	1段	貼付文（1K）	貼付文（1K・1K・1K）	
22-133	9号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
22-134	9号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
22-135	9号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
22-136	9号埋土	無?	貼付文（1K・1K）		
22-137	9号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
22-138	9号埋土	無	貼付文（1K（刺突のある貼付文を付加）・1K・1K）		
22-139	9号埋土	1段?	貼付文（1K・1K）		
22-140	9号埋土	無?	貼付文（1K）		
22-141	9号埋土	1段?	貼付文（1K）		
22-142	9号埋土	1段	貼付文（1K）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（11）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
22-143	9号埋土	2段	貼付文（1C・1C）	貼付文（縦長）	
22-144	9号埋土	無	貼付文（1K・1K）		
22-145	9号埋土	突帯+1段	貼付文（1K・1K（縦長の貼付文を付加））		
23-146	9号埋土	無	沈線文（4条・3条）		
23-147	9号埋土	無	沈線文？（縦2条）		口縁部の沈線は、文様ではない可能性もある
23-148	9号埋土	1段	刻文		
23-149	9号埋土	1段	貼付文（ボタン状（右横に紐状（2K）を付加））	貼付文（鈎状（2K））	
23-150	9号埋土	無	貼付文（粒状）	貼付文（粒状）	
23-151	9号埋土	突帯	無文	沈線+刻文	
23-152	9号埋土	1段	無文	貼付文（2P）	
23-153	9号埋土	無	無文	貼付文（ボタン状）	
23-154	9号埋土	1段	無文		
23-155	9号埋土	1段	無文		
23-156	9号埋土	無	無文		
23-157	9号埋土	無	無文	貼付文（粒状（横に紐状（1P）を付加））	
23-158	9号埋土	無	無文		
23-159	9号埋土	無	無文		
23-160	9号埋土	1段	無文		
23-161	9号埋土	無	無文		
23-162	9号埋土	無	無文		
23-163	9号埋土	—	—	貼付文（1P+1K+1P+1K+1P・斜めの貼付文（粒状を付加した1P））	
23-164	9号埋土	—	—	貼付文（1P・3P・縦長の貼付文）	
23-165	9号埋土	—	—	貼付文（3P・1H+1P）	
23-166	9号埋土	—	—	貼付文（1P（粒状を付加）・3P・1K）	
23-167	9号埋土	—	—	貼付文（3P・3ヶ一組の粒状）	
23-168	9号埋土	—	—	貼付文（1P・2P・1P・1P・斜めの貼付文（1P・1P））	
23-169	9号埋土	—	—	貼付文（2P・2P・粒状）	
23-170	9号埋土	—	—	貼付文（1P・1P）	
23-171	9号埋土	—	—	貼付文（1K・1K・1H・1H・1H）	
23-172	9号埋土	—	—	貼付文（1H・1H（粒状を付加））	
23-173	9号埋土	1段？	—	貼付文（1P（粒状を付加））	
24-174	9号埋土	—	—	貼付文（1H・1H）	
24-175	9号埋土	—	—	貼付文（1K）	
24-176	9号埋土	—	—	貼付文（1K・1K・1K）	
24-177	9号埋土	—	—		
29-1	10号埋土	1段	貼付文（8P）		
29-2	10号埋土	1段	貼付文（6P）		
29-3	10号埋土	突帯	貼付文（2P・粒状・6P）		
29-4	10号埋土	1段	貼付文（5P）		
29-5	10号埋土	2段	貼付文（4P・2P）	貼付文（3P）	
29-6	10号埋土	1段	貼付文（4P）	貼付文（1K・1K）	
29-7	10号埋土	—	貼付文（4P・3P（粒状？を付加））		
29-8	10号埋土	1段	貼付文（4P）		
29-9	10号埋土	—	貼付文（1P？・4P・5P）		
29-10	10号埋土	無	貼付文（1K+2P+1K）		口唇上に貼付文（粒状）
29-11	10号埋土	無	貼付文（3P・2P・3P・1P？）		
29-12	10号埋土	1段	貼付文（3P・2P）		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（12）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
29-13	10号埋土	—	貼付文 (3P・2P・1P)		
29-14	10号埋土	1段	貼付文 (2P・3P・2P)		
29-15	10号埋土	1段	貼付文 (3P・2P)		
29-16	10号埋土	1段	貼付文 (2P・3P)		肥厚帯は下部のみが突帯状になる特殊な形状
29-17	10号埋土	1段	貼付文 (3P・1P)		
29-18	10号埋土	2段	貼付文 (1H・1H・1P・3P)		
29-19	10号埋土	1段	貼付文 (1H (粒状を付加) + 2P・1H)		
29-20	10号埋土	1段	貼付文 (1C+1P・3P)		
29-21	10号埋土	1段	貼付文 (1K?・3P・1K)		
29-22	10号埋土	1段	貼付文 (3P・1K)		
29-23	10号埋土	1段	貼付文 (3P・1K)	貼付文 (3P)	
29-24	10号埋土	1段	貼付文 (3P・粒状・1K・ボタン状・1K・粒状・3P)		
29-25	10号埋土	無	貼付文 (3P・1K)		
29-26	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
29-27	10号埋土	無?	貼付文 (2P?・2P・1P?)		
29-28	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
29-29	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P・2P)	貼付文 (2P (粒状を付加)・2P (粒状を付加))	
29-30	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
29-31	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
29-32	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
29-33	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)	貼付文 (1P?)	
29-34	10号埋土	無	貼付文 (2P・1P)		
29-35	10号埋土	1段	貼付文 (1P?・1P・2P・1P?)		
29-36	10号埋土	1段	貼付文 (2P・1P)		
29-37	10号埋土	1段	貼付文 (1P+1H・1P)		
29-38	10号埋土	1段	貼付文 (2P・1P)		
30-39	10号埋土	1段	貼付文 (2P)		
30-40	10号埋土	—	貼付文 (2P)		
30-41	10号埋土	2段	貼付文 (1P・1H・2P?・1P?)		
30-42	10号埋土	1段	貼付文 (2P・横長の貼付文・1P)		
30-43	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
30-44	10号埋土	無	貼付文 (2P)		
30-45	10号埋土	1段	貼付文 (2P・2P)		
30-46	10号埋土	1段	貼付文 (1H+1P・1H+1P)	貼付文 (1H?)	
30-47	10号埋土	無	貼付文 (1C・2P・1P・1C・1P)		
30-48	10号埋土	無	貼付文 (1K+1P・1K・1K)		
30-49	10号埋土	1段	貼付文 (1P+1C)		
30-50	10号埋土	1段	貼付文 (1P・1P・1P)		
30-51	10号埋土	—	貼付文 (1P・1P)		
30-52	10号埋土	1段	貼付文 (1P・1P・1P・1P)		
30-53	10号埋土	1段	貼付文 (1P (粒状を付加)・1P (粒状を付加))		
30-54	10号埋土	突帯	貼付文 (1P)		
30-55	10号埋土	1段	貼付文 (1P・1P)	貼付文 (1P)	
30-56	10号埋土	無	貼付文 (1P・1H・1H・1H?)		
30-57	10号埋土	1段	貼付文 (1H・1P・1P+粒状+1P)		
30-58	10号埋土	2段	貼付文 (1K・1H・1K・1H)	貼付文 (1H)	
30-59	10号埋土	1段	貼付文 (1H・1H・1H)		
30-60	10号埋土	1段	貼付文 (1H・1H・1H)		

Table 4 オホーツク土器（口縁部・胴部）文様等属性表（13）

Fig.	発掘区 <sup>1)</sup>	口縁部肥厚帯 <sup>2)</sup>	口縁部文様 <sup>3)</sup>	頸部～胴部文様 <sup>3)</sup>	備考
30-61	10号埋土	1段	貼付文（1H・1H・1H）		
30-62	10号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
30-63	10号埋土	—	貼付文（1H・1H）		
30-64	10号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
30-65	10号埋土	1段	貼付文（1H?・1H）		
30-66	10号埋土	1段	貼付文（1H・1H）		
30-67	10号埋土	1段	貼付文（1H・1H）	貼付文（縦長）	
30-68	10号埋土	—	貼付文（1H）		
30-69	10号埋土	1段	貼付文（1H・ボタン状）		
30-70	10号埋土	無	貼付文（1K・1H・1H）		
30-71	10号埋土	無	貼付文（1K・1K・1K）		
30-72	10号埋土	1段?	貼付文（1K・1K・1K）		
30-73	10号埋土	無?	貼付文（1K・1K・1K）		
30-74	10号埋土	無	貼付文（1C・ボタン状・1C）		
30-75	10号埋土	1段	貼付文（1K?・1K?）		
30-76	10号埋土	1段	貼付文（1K・1K）		
30-77	10号埋土	無	貼付文（1K・1K）		
31-78	10号埋土	1段	刻文（口唇外縁・肥厚帯下端）		
31-79	10号埋土	無	貼付文（2ヶのボタン状の間に貼付文（2P））		
31-80	10号埋土	突帯	無文	貼付文（1H・1H）	口唇上に貼付文（粒状）
31-81	10号埋土	1段	無文	貼付文（粒状）	貼付文（粒状）は肥厚帯の直下。31-81～82は同一個体か
31-82	10号埋土	1段	無文	貼付文（粒状）	貼付文（粒状）は肥厚帯の直下。31-81～82は同一個体か
31-83	10号埋土	1段	無文	貼付文（1P）	貼付文（1P）は肥厚帯の直下
31-84	10号埋土	1段	無文		
31-85	10号埋土	1段	無文		
31-86	10号埋土	1段	無文		
31-87	10号埋土	無	無文		
31-88	10号埋土	無	無文		
31-89	10号埋土	無	無文		
31-90	10号埋土	無	無文		
31-91	10号埋土	無	無文		
31-92	10号埋土	無	無文		
31-93	10号埋土	無	無文		
31-94	10号埋土	無	無文		
31-95	10号埋土	突帯	無文		
31-96	10号埋土	突帯	無文		突帯下縁の凹みは文様の可能性がある
31-97	10号埋土	突帯	無文		
31-98	10号埋土	—	—	貼付文（1P+1H+4P、貼付文の下部に突起状の貼付文）	
31-99	10号埋土	1段?	貼付文（2P・1P・2P）		口縁部の上半が欠けており、その部分の文様等は不明。肥厚帯は下部のみが突起状になる
31-100	10号埋土	—	—	貼付文（5P・2K）	
31-101	10号埋土	—	—	貼付文（2P）	
31-102	10号埋土	—	—	貼付文（粒状・1H・1H）	
31-103	10号埋土	—	—	貼付文（1K・1K）	

# 第三章 石器

## 1 7号竪穴

### (1) 骨塚 a 出土 (Fig. 35・Fig. 36-36~43)

1~28は石鏃で、全て両面調整である。使用されている石材は7のみが頁岩、その他は全て黒曜石である。6、8、9、20、21、23は石質が梨肌を呈する黒曜石である。被熱している例が多く、特に10、12、14、15、18、22、25~28は表面変化が著しく、発泡している。23は破損のため形状が不明だが、13は三角形平基の石鏃で、その他は有茎の石鏃である。6と24を除き、有茎石鏃の多くは基部と身部との区分が明瞭である。身部の形態は五角形に近い例が基本となるが、3や21のような三角形を呈する例もある。

29は黒曜石製の両面調整石器で、小形で薄い剥片を素材として平坦な剥離が施されている。石鏃の未製品と考えられる。

30と31は黒曜石製の搔器である。31は片面加工で、30は両側縁が両面加工となる。30は末端が幅広く加工され、弧状の搔器刃部を呈する。31の搔器刃部は、末端の左側縁付近のみの部分的な加工にとどまる。

32~35は石錐である。全て黒曜石製で、32~35の石質は梨肌である。全て両面に加工があり、刃部は錯交する剥離によって作られる。35は先端が著しく摩耗している。

36~40は黒曜石製の削器である。36は摩耗によって表面変化が著しく、水流等による影響を被る場所から持ち込まれたと考えられる。36は斜軸の剥片を素材とし、末端付近は錯交剥離で加工される。37と38は尖頭状の削器で器体中央付近に抉りと突出部があり、有茎の形態をなす。39は両面周縁加工の削器で、部分的に抉り加工がある。40は縦長剥片を素材とし、両側縁が背面と腹面の交互剥離によって加工される。

41は部分加工剥片で、梨肌石質の黒曜石製である。打面部には円・垂円礫の自然面が観察される。

42は黒曜石製の剥片である。直線的な流離構造をもつ石質である。円・垂円礫の自然面がみえる。鋭利な縁辺には断続的な微小剥離痕がある。

43は軽石製の砥石である。被熱によって赤色化とひび割れが生じている。片面のみに滑らかな研磨面がある。一部の研磨箇所が細長く凹み、棒状の物体の研磨にも使用された可能性がある。

### (2) 骨塚 b 出土 (Fig. 36-44~46)

44と45は黒曜石製の石鏃である。44は黒灰色で光沢のない石質である。両方とも基部に抉りがあり、身部との区分が明瞭である。44の身部は三角形で、45は五角形を呈する。



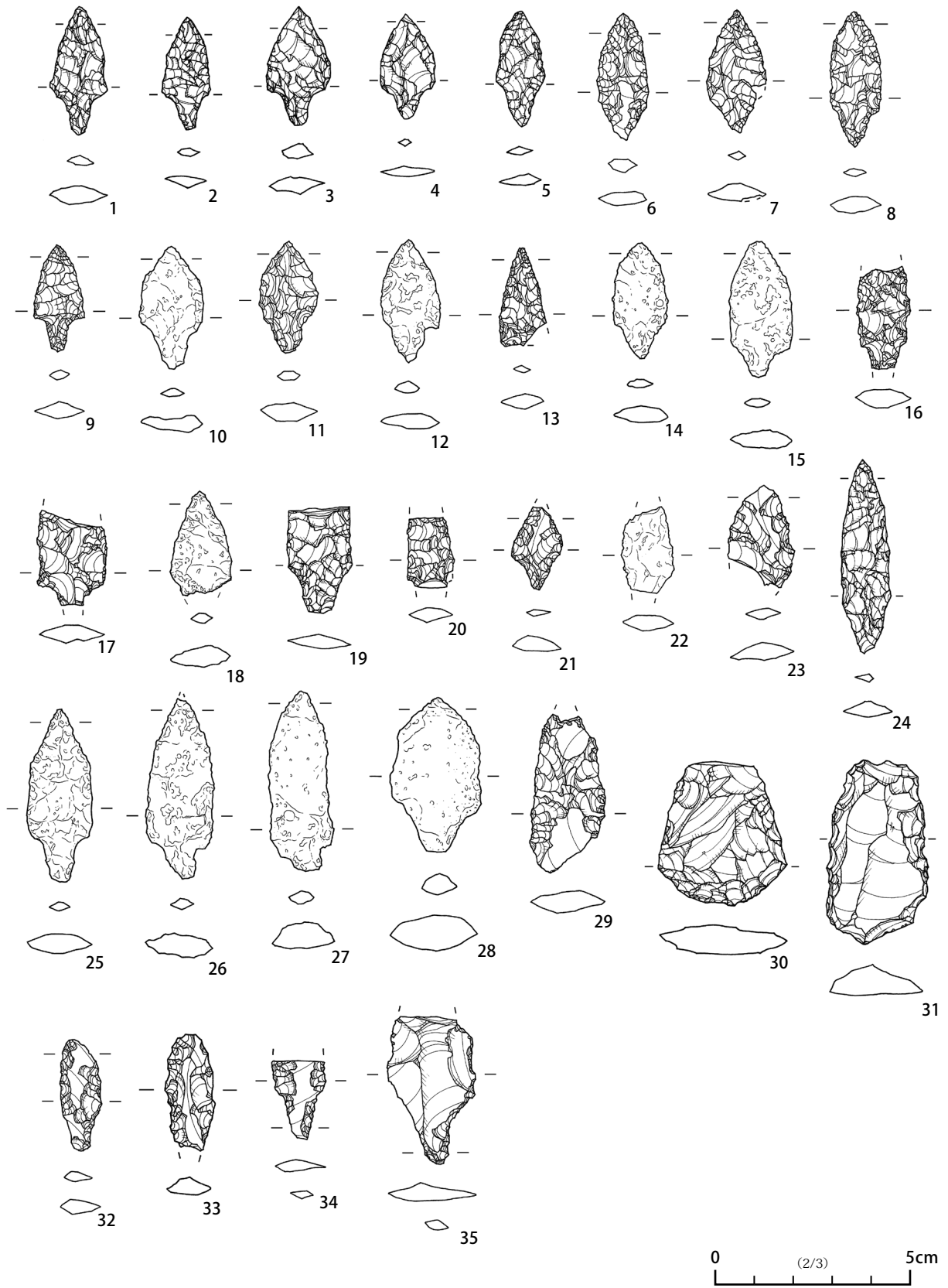


Fig. 35 7a号竪穴骨塚a出土の石器

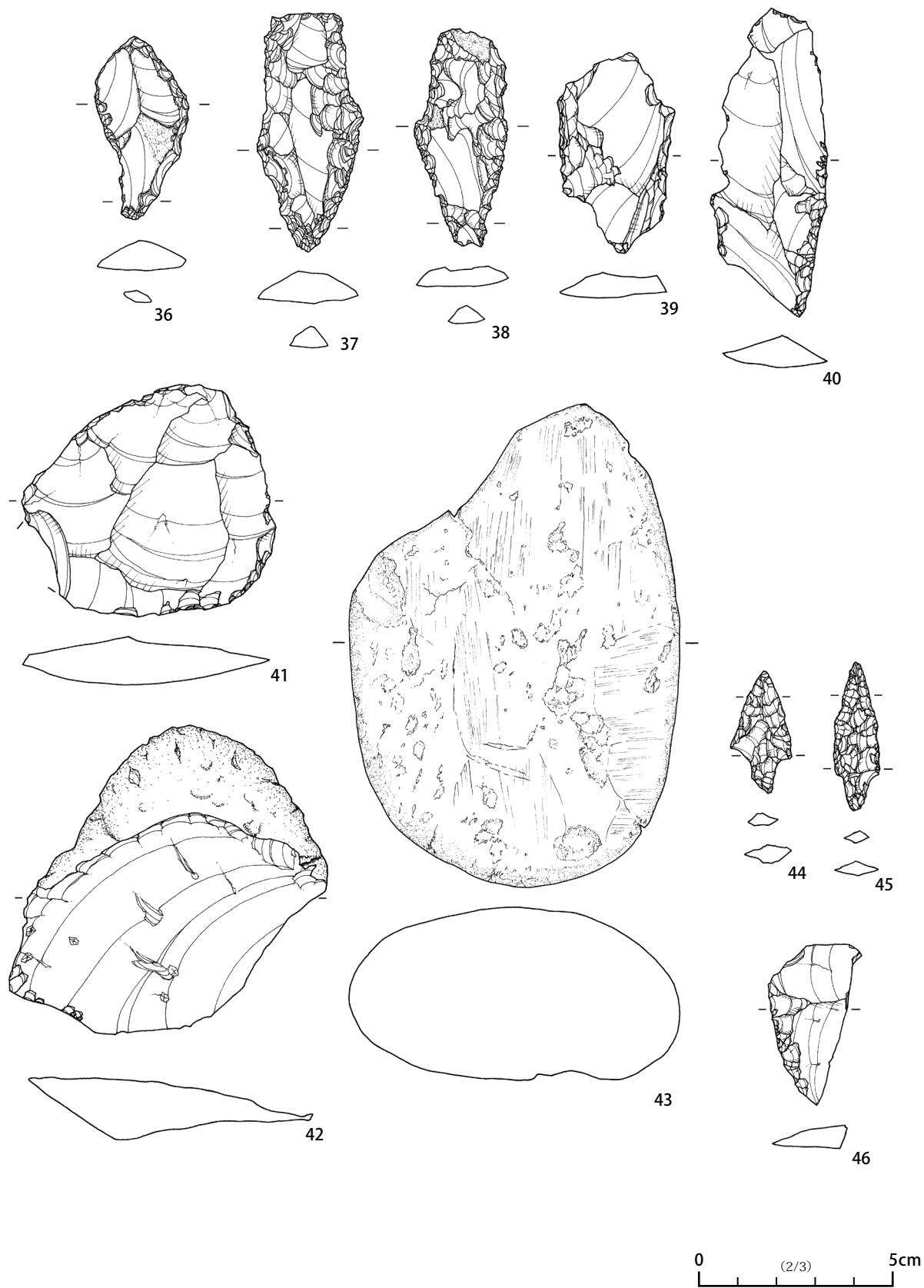


Fig. 36 7号竪穴骨塚a・骨塚b出土の石器

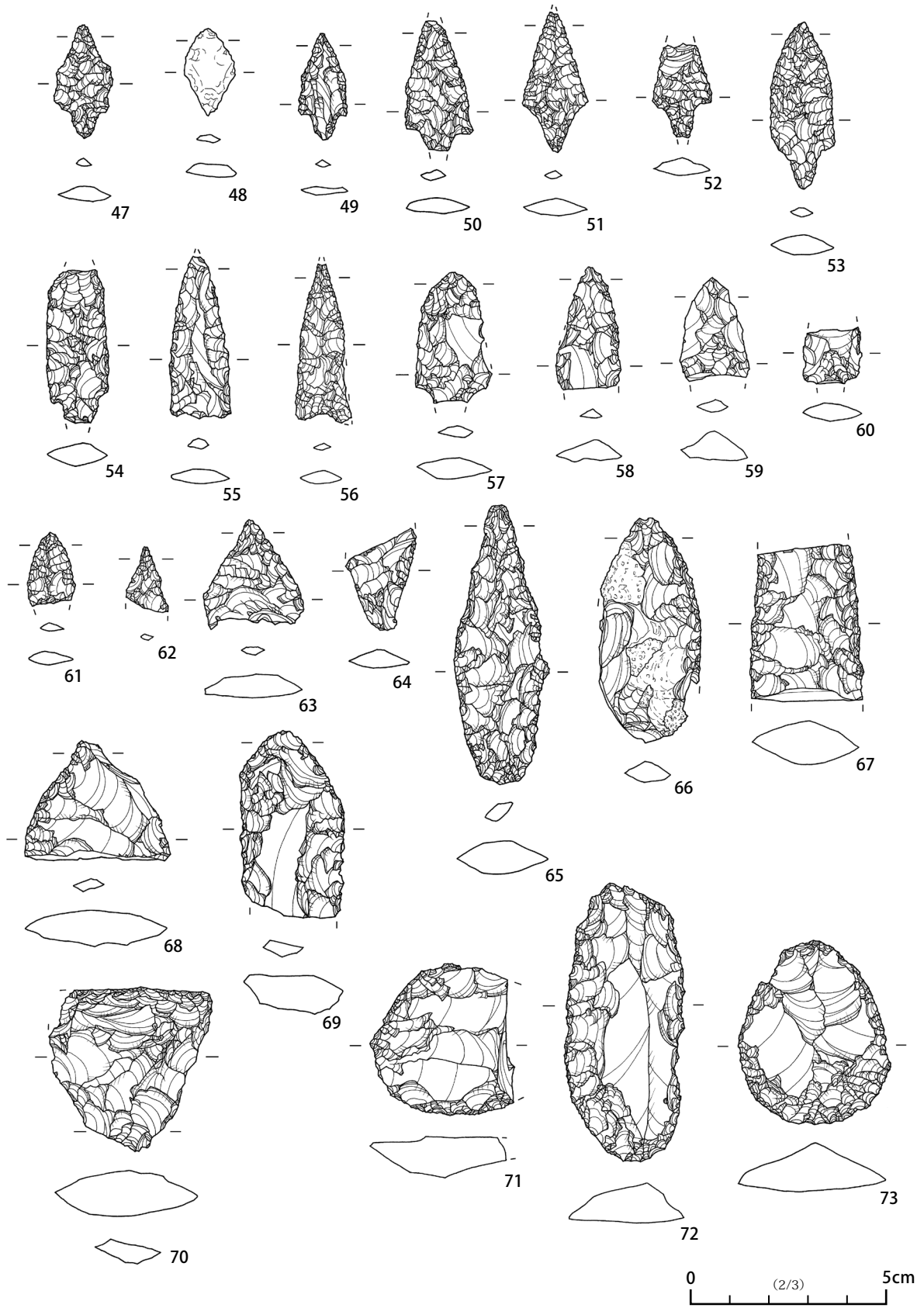


Fig. 37 7号竪穴床面出土の石器 1

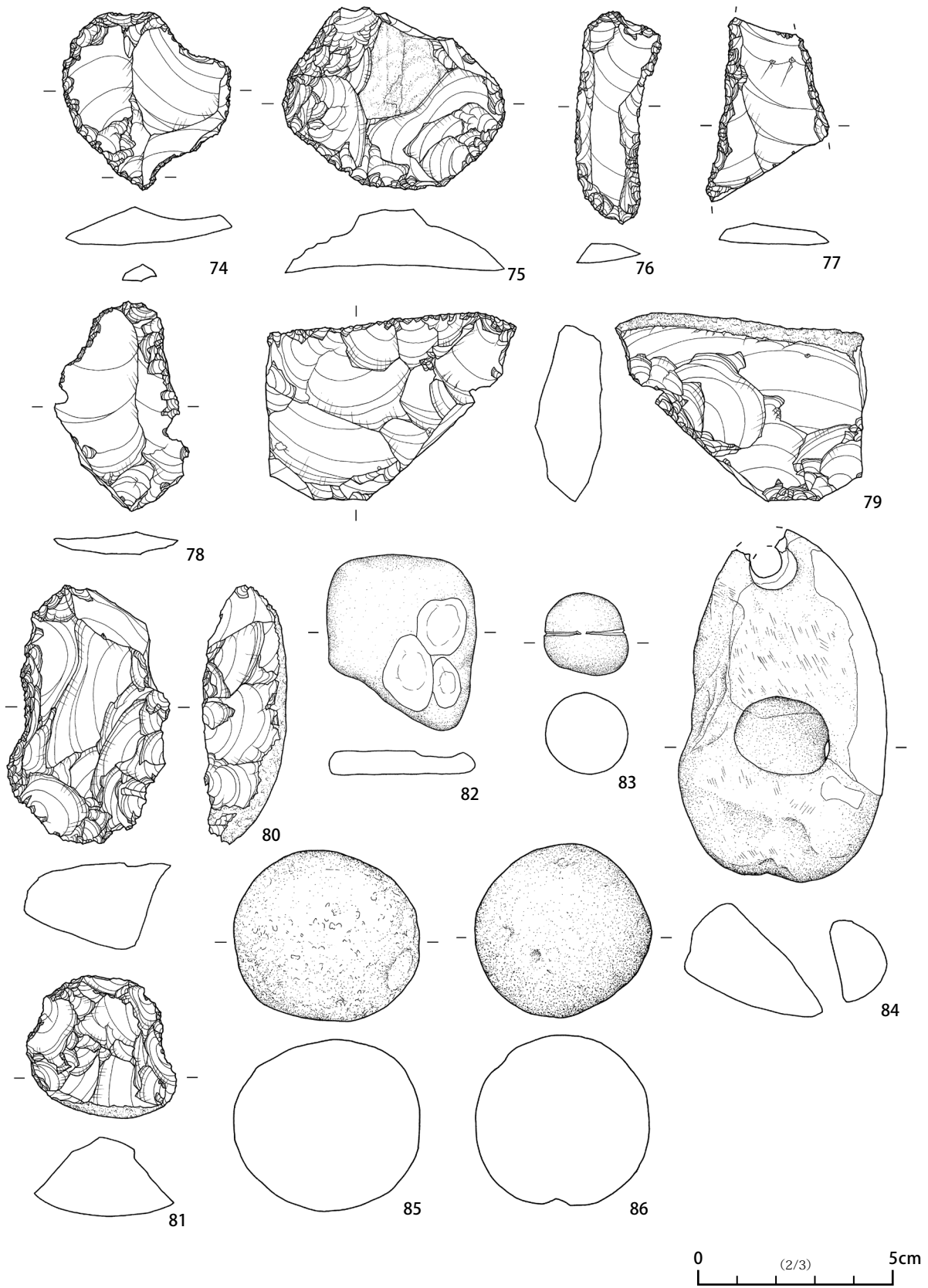


Fig. 38 7号竪穴床面出土の石器2

46は削器で、梨肌の石質をもつ黒曜石で作られている。破損のため全体形状は不明である。

(3) 床面出土 (Fig. 37・Fig. 38)

47～63は黒曜石製の石鏃である。49、57～60の黒曜石の石質は梨肌である。被熱している例が複数あり、特に48は表面変化が著しく、発泡している。55と56は弱凹基で長身の三角形石鏃である。47～54、57、60は有茎で、全て基部と身部の区分が明瞭である。47、49、50、53、54、57は身部が五角形に近い形状をなす。51、52は身部が三角形である。57～59、63は加工が粗く、素材面が残され、未製品の可能性がある。52と54は先端部が欠損し、使用時の衝撃剥離の可能性がある痕跡が観察できる。

65と66は両面調整の尖頭器である。両方とも黒曜石製で、66は梨肌の石質である。65は平基で、右側縁に突起部を有し、両側縁が先端部に向かってねじれる。66は被熱によって部分的に発泡し、片側を熱による割れで欠損する。

64、67、68、69は両面調整石器である。いずれも欠損があり、全体形状は不明である。67は両側縁が直線的に整い、両面とも丁寧な平坦剥離で加工されている。69は両側縁が直線的で並行し、先端付近で急に収斂する形状をなす。

70は黒曜石の楔形石器である。石質は梨肌である。折れた両面調整石器を転用して、両極打撃が加えられる。

71～76は黒曜石製の搔器である。76の黒曜石は紫褐色部分が網状にある石質である。72は石刃、76は縦長剥片を素材とする細長い形状の搔器で、右下がりの刃部をなす。その他は通常の剥片を素材として、略円形・楕円形を呈する。いずれも剥片の末端に弧状の刃部が作出される。71の打面部と75の背面は岩屑・角礫の自然面がみられる。

77と78は黒曜石製の削器である。78は両面調整石器の剥離によって生じた剥片を素材とする。77の刃部は直線的であるが、78には抉り部がある。

79と80、81は黒曜石製の石核である。いずれも円・亜円礫の自然面が認められる。79の石質は梨肌である。79は厚手の剥片を素材として、両面で薄手の小形剥片が剥離されている。80は自然面を打面として求心状に薄手小形の剥片が剥離され、最終的にその作業面を打面として側面において短寸の剥片が剥離される。81は自然面を打面として、求心状に小形薄手の剥片が剥離される小形石核である。

82と83は礫である。82は泥岩の扁平な転礫で、加工や使用痕跡はみられず、表面には被熱によるポットリッド状の剥落が認められる。83は硬質な赤褐色の堆積岩の円礫である。表面には周囲をめぐる直線的な溝があるが、自然物である。84は有孔石製品としたが、穴には明確な加工痕が認められず、自然物かもしれない。表面には擦痕があるが、石材がやや軟質の細粒砂岩のため埋没後過程でできた可能性もある。

85は礫岩、86は砂岩の円礫で、ここでは石弾として分類した。いずれも研磨痕等の明確な加工痕跡はみえない。86は被熱により表面が黒色化している。

## 2 8号竪穴

### (1) 骨塚出土 (Fig. 39-87・88)

87と88は黒曜石製の両面調整石器である。87は尖頭器片の可能性があり、88は末端が平らであり、尖頭器の基部片の可能性があり、

### (2) 床面出土 (Fig. 39-89～110・Fig.40-111～118)

89～99は黒曜石の石鏃である。90は赤褐色部分が混じる石質で、94は梨肌の特徴をもつ。91、92、99は被熱痕跡が顕著で、発泡している。図示した石鏃は全て両面調整であるが、93と94、97、98は素材面が残り、特に93と98は両面とも周縁加工となる。89～94、99は有茎で、97、98は弱凹基の三角形の石鏃である。有茎石鏃の身部はおおむね五角形を呈する。

100～102は黒曜石製の両面調整石器である。100は楕円形を呈し、中央両側縁に挟りがある。101は基部片で、側縁から相対する平坦で丁寧な剥離で加工されている。102は両端が欠損する。

103～105は黒曜石製の搔器である。103は直線的な流理をもつ石質の黒曜石である。103と104の背面には岩屑・角礫の自然面が残る。103、105は剥片に弧状の刃部が作出されている。104は搔器刃部が平で、基部側が尖る形態をなす。

106～113は黒曜石製の削器である。108と113の背面には岩屑・角礫の自然面、110と112には円・亜円礫の自然面が残る。106と110、111は剥片末端にも刃部があり二次加工された側縁とおおむね直角に交わる。107は剥片を素材として、側縁は直線的な刃部があり、素材打面側に向かって鋭く収斂する。108は直線的な刃部と弧状の刃部を併せもつ。109は湾曲、ねじれのある縦長の剥片を素材とし、収斂する刃部が作られている。112は一側縁のみが加工されている。113は削器としたが、小形で細長く、石錐の可能性もある。

114は黒曜石製の石錐で、先端部は押圧剥離とみられる薄く平坦な剥離で両面が加工されている。石鏃の未製品である可能性もある。

115、116は石匙ナイフである。石材は116が黒曜石で、115が頁岩である。いずれも縦長であるが、116は側縁が湾曲し、115は両側縁が直線的である。

117は黒曜石製の石核である。両面において求心状に薄手の小形剥片を剥離されている。

118は砂岩製の石弾である。表面は被熱で黒色化している。加工の痕跡は確認できない。

## 3 9号竪穴

### (1) 埋土出土 (Fig. 40-119)

119は黒曜石製の石鏃である。黒曜石は梨肌の石質である。有茎で、身部は五角形に近い形状となる。

### (2) 床面出土 (Fig. 40-120-130・Fig. 41-131-133)

120～125、127、128は黒曜石製の石鏃である。121の石質は梨肌で、125は赤褐色の部分を含む。

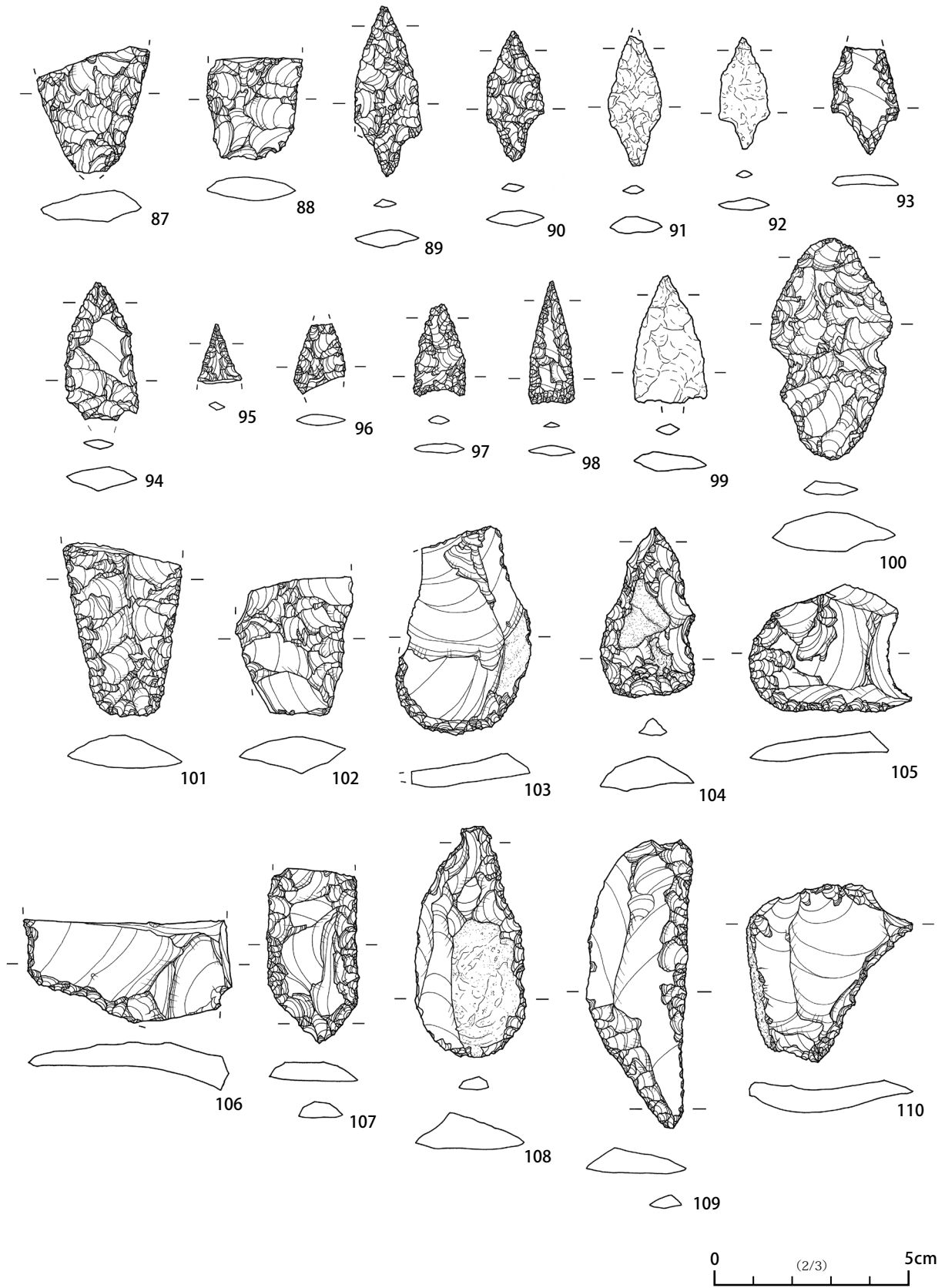


Fig. 39 8号竪穴骨塚・床面出土の石器

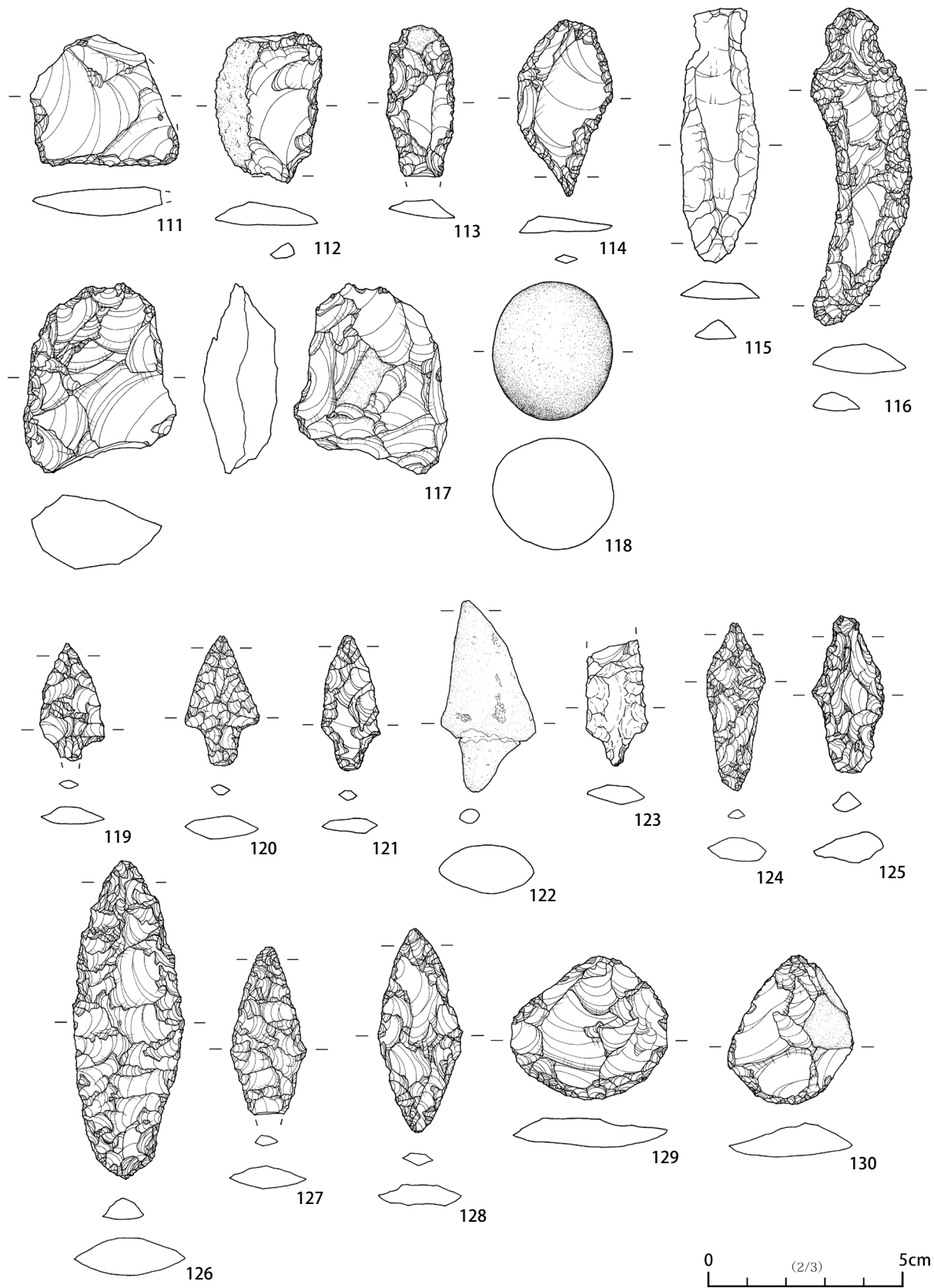


Fig. 40 8号竪穴床面・9号竪穴埋土および床面出土の石器



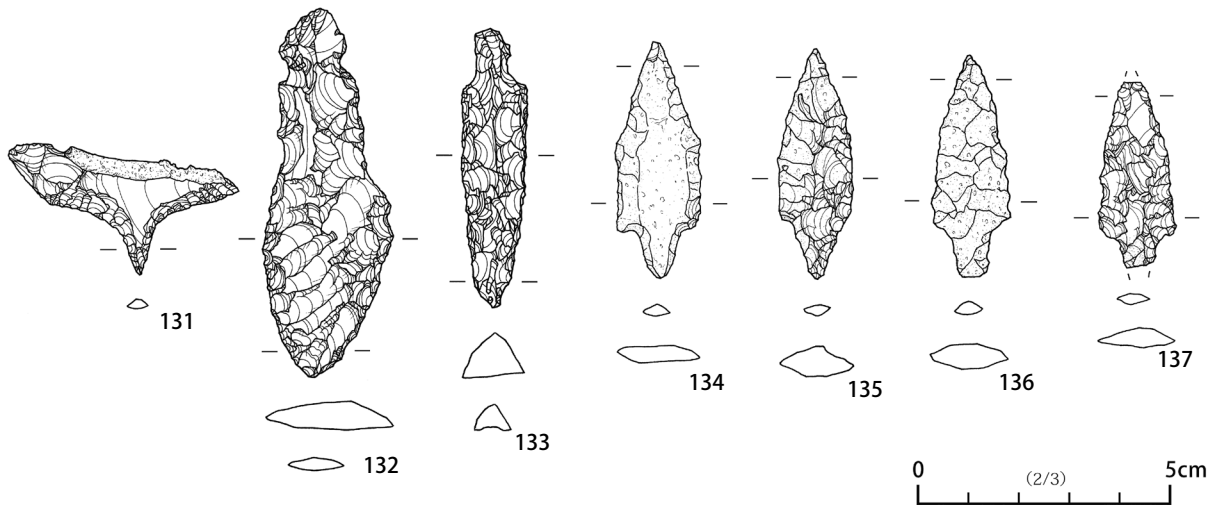


Fig. 41 9号竪穴床面・10号竪穴床面出土の石器

122 と 123 は著しい被熱痕跡がみられ、122 は発泡している。120～123 は有茎の石鏃で、121 の身部は五角形に近い形状をなし、120 の身部は三角形となる。124、125、127、128 は細長い菱形に近い外形の石鏃で、124、125、127は片側縁に突出部が作られている。124、125、127は縄文時代の石器と考えられる。

126は黒曜石製の尖頭器である。両面調整で、おおむね木葉形であるが、基部側は先鋭化されていない。表と裏で傷や稜上の摩耗の度合いが異なり、表面は比較的に新鮮な剥離面となる。元はより大形の両面調整石器で、表面を再加工することでこのサイズになったと考えられる。

129 と 130 は黒曜石製の搔器である。129 は赤褐色の部分が混じる石質である。130 の背面には岩屑・角礫の自然面が残る。いずれも剥片を素材として、その末端部に弧状の刃部が設けられている。

131 は黒曜石製の石鏃である。背面には岩屑・角礫の自然面が残る。剥片の側縁側に細長く先鋭な錐刃部が作出されている。

132 と 133 は石匙ナイフである。132 は黒曜石製で、褐色部分を含む石質である。133 は頁岩製で、裏面には被熱痕跡であるポットリッド状の剥落が観察される。132 は基部側で窄まるような有茎状の形態をなし、基部付近では両面加工となる。133 は片面加工で、細長く、断面三角形を呈する。

## 4 10号竪穴

### (1) 床面出土 (Fig. 41-134～137)

134～137 は黒曜石製の石鏃である。いずれも被熱しており、剥離痕の観察が難しい例が含まれる。全て有茎で、身部が五角形に近い形態を呈する。

## 5 出土石器属性表

Table 5 は、本書に掲載した石器の属性表である。

(夏木大吾)

Table 5 石器属性表 (1)

図番号	住居	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.24	1.53	0.45	1.7	
2	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.88	1.24	0.42	1.2	
3	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.02	1.65	0.52	1.9	
4	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.71	1.43	0.34	1.1	被熱
5	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.96	1.27	0.3	1	
6	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.16	1.31	0.43	1.5	被熱
7	7aH	骨塚 a	石鏃	頁岩	3.07	1.46	0.46	1.5	被熱
8	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.39	1.26	0.44	1.6	被熱
9	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.67	1.2	0.41	1.1	被熱
10	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.07	1.55	0.36	1.3	被熱
11	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.78	1.46	0.45	1.3	被熱
12	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.07	1.49	0.45	1.8	被熱
13	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.42	1.15	0.4	0.9	被熱
14	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.91	1.38	0.48	1.5	被熱
15	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.4	1.57	0.46	2.3	被熱
16	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.67	1.31	0.48	1.6	
17	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.31	1.67	0.47	1.9	
18	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.58	1.51	0.53	1.2	被熱
19	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.77	1.64	0.41	1.9	
20	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	1.76	1.17	0.3	0.8	
21	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.07	1.31	0.39	0.8	
22	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.15	1.26	0.43	1.2	被熱
23	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	2.55	1.67	0.42	1.4	
24	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	4.94	1.28	0.49	2.8	被熱
25	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	4.3	1.64	0.51	2.9	被熱
26	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	4.58	1.63	0.52	3.7	被熱
27	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	4.56	1.59	0.73	2.7	被熱
28	7aH	骨塚 a	石鏃	黒曜石	3.9	2.26	0.91	2.2	被熱
29	7aH	骨塚 a	両面調整石器	黒曜石	4.01	1.8	0.57	3.9	石鏃未製品
30	7aH	骨塚 a	搔器	黒曜石	3.73	3.28	0.81	11.7	
31	7aH	骨塚 a	搔器	黒曜石	4.71	2.61	0.74	9.7	被熱
32	7aH	骨塚 a	石錐	黒曜石	2.81	1.01	0.36	1	
33	7aH	骨塚 a	石錐	黒曜石	2.49	1	0.32	1	
34	7aH	骨塚 a	石錐	黒曜石	2.01	1.33	0.26	0.6	
35	7aH	骨塚 a	石錐	黒曜石	3.78	2.27	0.38	3.1	
36	7aH	骨塚 a	削器	黒曜石	4.57	2.28	0.73	6.5	
37	7aH	骨塚 a	削器	黒曜石	6.06	2.53	0.84	13.1	被熱
38	7aH	骨塚 a	削器	黒曜石	5.52	2.27	0.7	6.7	被熱
39	7aH	骨塚 a	削器	黒曜石	5.12	2.97	0.87	10.4	被熱
40	7aH	骨塚 a	削器	黒曜石	7.95	2.88	0.75	17.6	
41	7aH	骨塚 a	部分加工剥片	黒曜石	5.83	6.31	1.43	50.8	
42	7aH	骨塚 a	剥片	黒曜石	7.57	7.26	2.31	97.5	
43	7aH	骨塚 a	砥石	軽石	12.01	8.43	4.29	106.9	被熱
44	7H	骨塚 b	石鏃	黒曜石	3.14	1.55	0.54	1.7	被熱
45	7H	骨塚 b	石鏃	黒曜石	3.84	1.2	0.39	1.5	
46	7H	骨塚 b	削器	黒曜石	4.24	2.09	0.64	4.7	被熱

Table 5 石器属性表 (2)

図番号	住居	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
47	7H	床面	石鏃	黒曜石	2.84	1.38	0.38	1.2	
48	7H	床面	石鏃	黒曜石	2.14	1.25	0.26	0.7	被熱
49	7H	床面	石鏃	黒曜石	2.68	1.21	0.23	0.6	
50	7H	床面	石鏃	黒曜石	3.29	1.68	0.36	1.8	
51	7H	床面	石鏃	黒曜石	3.51	1.59	0.4	1.4	
52	7H	床面	石鏃	黒曜石	2.33	1.48	0.44	1.1	
53	7H	床面	石鏃	黒曜石	4.18	1.52	0.48	2.7	被熱
54	7H	床面	石鏃	黒曜石	3.87	1.53	0.59	3.6	
55	7H	床面	石鏃	黒曜石	4.09	1.48	0.36	2.2	被熱
56	7H	床面	石鏃	黒曜石	3.98	1.35	0.3	1.6	
57	7H	床面	石鏃	黒曜石	3.29	1.89	0.53	3	
58	7H	床面	石鏃	黒曜石	3.09	1.65	0.52	2.4	被熱
59	7H	床面	石鏃	黒曜石	2.46	1.72	0.65	2.2	
60	7H	床面	石鏃	黒曜石	1.42	1.47	0.42	1	
61	7H	床面	石鏃	黒曜石	1.81	0.36	0.33	0.8	
62	7H	床面	石鏃	黒曜石	1.63	0.91	0.31	0.4	
63	7H	床面	石鏃	黒曜石	2.66	2.54	0.51	2.8	被熱
64	7H	床面	両面調整石器	黒曜石	2.49	1.61	0.44	1.4	
65	7H	床面	尖頭器	黒曜石	7.04	2.36	0.88	13.3	
66	7H	床面	尖頭器	黒曜石	5.69	2.51	1.14	16.8	被熱
67	7H	床面	両面調整石器	黒曜石	3.93	2.87	1.05	15.2	
68	7H	床面	両面調整石器	黒曜石	2.96	3.54	0.83	8.5	
69	7H	床面	両面調整石器	黒曜石	4.78	2.61	1.03	14.8	
70	7H	床面	楔形石器	黒曜石	4.14	3.97	1.1	16.8	
71	7H	床面	搔器	黒曜石	3.79	3.57	1.01	14.5	
72	7H	床面	搔器	黒曜石	7.1	2.91	0.93	24.5	被熱
73	7H	床面	搔器	黒曜石	4.64	3.77	1.16	17.4	
74	7H	床面	搔器	黒曜石	4.31	3.87	0.94	14	
75	7H	床面	搔器	黒曜石	5.48	4.36	1.77	36.8	
76	7H	床面	搔器	黒曜石	5.32	1.9	0.54	5.4	
77	7H	床面	削器	黒曜石	4.65	2.75	0.53	7.2	
78	7H	床面	削器	黒曜石	5.29	3.19	0.65	10.1	
79	7H	床面	石核	黒曜石	4.5	6.39	1.71	57.8	
80	7H	床面	石核	黒曜石	2.05	6.53	4.08	54.7	
81	7H	床面	石核	黒曜石	3.78	3.67	2.01	27.6	
82	7H	床面	礫	泥岩	4.44	3.75	0.57	14.9	被熱
83	7H	床面	礫	不明	2.05	2.18	2.04	12.5	
84	7H	床面	有孔石製品	砂岩	8.95	5.28	2.32	125.5	被熱
85	7H	床面	石弾	礫岩	4.78	4.29	4.41	122.6	
86	7H	床面	石弾	砂岩	4.39	4.35	4.15	82.8	
87	8H	骨塚	両面調整石器	黒曜石	3.18	2.61	0.71	5.7	被熱
88	8H	骨塚	両面調整石器	黒曜石	2.58	2.24	0.57	4.1	
89	8H	床面	石鏃	黒曜石	4.27	1.64	0.39	2.2	
90	8H	床面	石鏃	黒曜石	3.29	1.42	0.39	1.4	
91	8H	床面	石鏃	黒曜石	3.28	1.33	0.44	1.6	被熱
92	8H	床面	石鏃	黒曜石	2.81	1.22	0.31	0.9	被熱
93	8H	床面	石鏃	黒曜石	2.74	1.66	0.31	1.3	被熱
94	8H	床面	石鏃	黒曜石	3.47	1.8	0.51	2.8	
95	8H	床面	石鏃	黒曜石	1.49	1.08	0.23	0.3	
96	8H	床面	石鏃	黒曜石	1.76	1.25	0.27	0.6	被熱
97	8H	床面	石鏃	黒曜石	2.32	1.27	0.2	0.7	
98	8H	床面	石鏃	黒曜石	3.11	1.15	0.15	0.7	
99	8H	床面	石鏃	黒曜石	3.23	1.86	0.45	2.4	被熱
100	8H	床面	両面調整石器	黒曜石	5.62	3.07	1.1	15	
101	8H	床面	両面調整石器	黒曜石	4.41	2.88	0.8	9.2	
102	8H	床面	両面調整石器	黒曜石	3.56	2.82	0.92	11	

Table 5 石器属性表 (3)

図番号	住居	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
103	8H	床面	搔器	黒曜石	5.24	3.18	0.6	12	
104	8H	床面	搔器	黒曜石	4.27	2.23	0.77	7.7	
105	8H	床面	搔器	黒曜石	3.27	3.54	0.39	7.2	
106	8H	床面	削器	黒曜石	2.56	5.13	0.72	12.4	
107	8H	床面	削器	黒曜石	4.49	2.26	0.55	7.5	
108	8H	床面	削器	黒曜石	5.88	2.82	1.02	15.6	被熱
109	8H	床面	削器	黒曜石	7.35	2.6	0.57	11.7	
110	8H	床面	削器	黒曜石	4.25	4.25	0.79	13.4	
111	8H	床面	削器	黒曜石	3.61	3.54	0.82	9.8	
112	8H	床面	削器	黒曜石	3.8	2.56	0.63	6.7	被熱
113	8H	床面	削器	黒曜石	3.87	1.68	0.58	4.1	被熱
114	8H	床面	石錐	黒曜石	4.48	2.42	0.49	3.9	
115	8H	床面	石匙ナイフ	頁岩	6.49	1.97	0.45	7.7	
116	8H	床面	石匙ナイフ	黒曜石	8.08	2.35	0.56	13.4	
117	8H	床面	石核	黒曜石	4.54	3.87	1.9	30.5	被熱
118	8H	床面	石弾	砂岩	3.52	3.01	2.76	18.8	被熱
119	9H	埋土	石鏃	黒曜石	2.98	1.54	0.4	1.7	
120	9H	床面	石鏃	黒曜石	3.27	1.88	0.51	2.4	
121	9H	床面	石鏃	黒曜石	3.41	1.41	0.35	1.7	
122	9H	床面	石鏃	黒曜石	4.85	2.4	1.2	1.2	被熱
123	9H	床面	石鏃	黒曜石	3.21	1.57	0.46	2.2	被熱
124	9H	床面	石鏃	黒曜石	4.26	1.49	0.62	3	
125	9H	床面	石鏃	黒曜石	3.99	1.78	0.76	4.4	
126	9H	床面	尖頭器	黒曜石	8.04	2.86	0.95	20.1	
127	9H	床面	石鏃	黒曜石	4.29	1.93	0.5	3.6	
128	9H	床面	石鏃	黒曜石	5.2	2.12	0.82	6.2	
129	9H	床面	搔器	黒曜石	3.51	3.99	0.88	10.5	
130	9H	床面	搔器	黒曜石	3.8	2.89	0.74	7.6	
131	9H	床面	石錐	黒曜石	2.31	4.58	0.4	2.7	
132	9H	床面	石匙ナイフ	黒曜石	7.2	2.41	0.72	10.1	
133	9H	床面	石匙ナイフ	頁岩	5.45	1.24	0.84	5.9	被熱
134	10H	床面	石鏃	黒曜石	4.64	1.64	0.29	2.2	被熱
135	10H	床面	石鏃	黒曜石	4.5	1.43	0.57	2.7	被熱
136	10H	床面	石鏃	黒曜石	4.34	1.53	0.6	2.8	被熱
137	10H	床面	石鏃	黒曜石	3.63	1.49	0.37	1.8	被熱

## 第四章 骨角器

### 1 資料の概要

今回報告するトコロチャシ跡遺跡オホーツク地点出土の骨角器は合計148点である。2012年には7号～10号竪穴住居の床面出土遺物を中心に、動物意匠の彫刻とクックルケンシ状垂飾を加えた96点を報告している。報告済の骨角器の合計は244点となる。発掘調査時及び整理作業の過程で骨角器として記録された資料は500点を超えるが、これは器種不明の破片や、切断や削りなどの加工痕のみが確認される原材・残片類も含んだ数字である。主だったツール類と、原材・残片類の中でも特徴的なものについては、今回の報告によってほぼ全体を提示できたと考えている。

今回報告する資料は、基本的には竪穴住居の埋土出土の資料であるが、床面および遺構出土の資料が含まれている。すなわち、7号住居の床面・骨塚と、9号住居埋土中の動物骨集中からの出土資料である。埋土から出土した資料の一部にはアイヌ文化期の遺物が含まれているが、明記していないものについては、基本的にオホーツク文化期に帰属すると考えている。特に強く被熱している資料については、竪穴住居の焼失時に焼けた可能性が高く、出土位置が高くとも本来は竪穴住居に伴ったとみなすべきであろう。

以下の文中では、基本的には2012年報告での分類にしたがったが、一部修正を加えている。これについては後段で触れる。

### 2 7号竪穴

7号竪穴出土の骨角器84点を報告する（Fig.42～Fig.48、PL.5～8上）。

1～4は床面から出土した骨角器である。1は鹿角右側の角幹部と第三枝を、第三枝分岐部のすぐ上から長さ約16cmにわたって切断し、側面を長く縦に削っている。これ自体が原材・未成品であるかもしれないが、鹿角板を削り取った残片だった可能性もある。2は加工痕のある小片で、何らかの残片であろう。3は鳥管骨製のヘラ状製品である。4は刻線のある鹿角製品の破片である。

5・6は骨塚から出土した骨角器である。5は骨塚aから出土した板状製品だが、全体に摩滅が著しい。6は骨塚bから出土した銚頭で、先端に刃溝をもつ雌形I類である。尾部右側に刻みが残り、三つに分岐していたと考えられる。

7～84は埋土から出土した骨角器である。7～11は雌形I類の銚頭。9は未成品である。12～15は骨鏃である。12はI類としたものではほぼ完形、13・14は鳥管骨製のIII類、15は基部が楔状になるII類である。16・17は、いずれも結合式釣針先の破片だと考えた。16は浅い逆鉤をもつ。18～23・28は結合

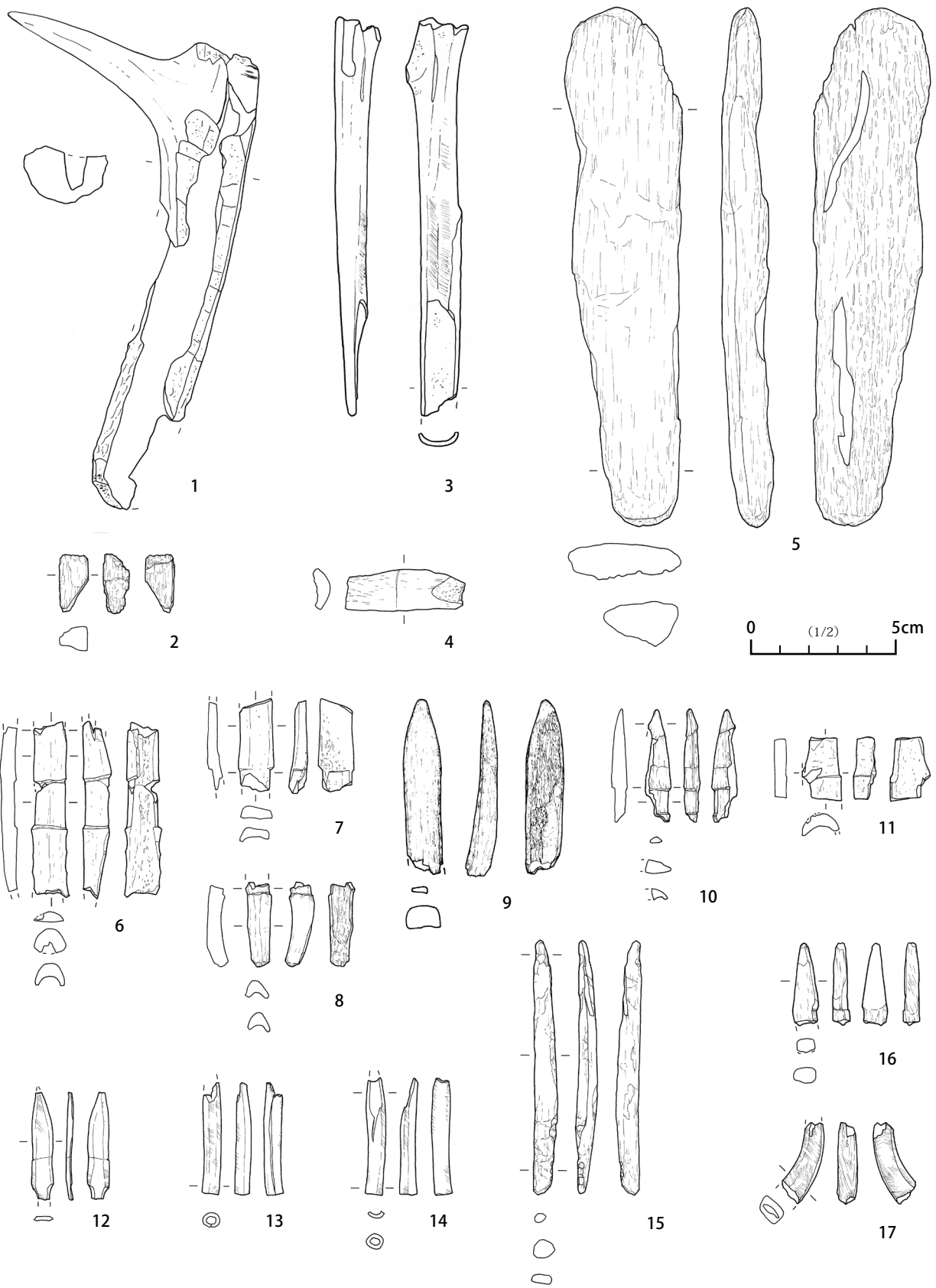


Fig. 42 7号竖穴出土の骨角器1 (1~4: 床面、5: 骨塚 a、6: 骨塚 b、7~17: 埋土)

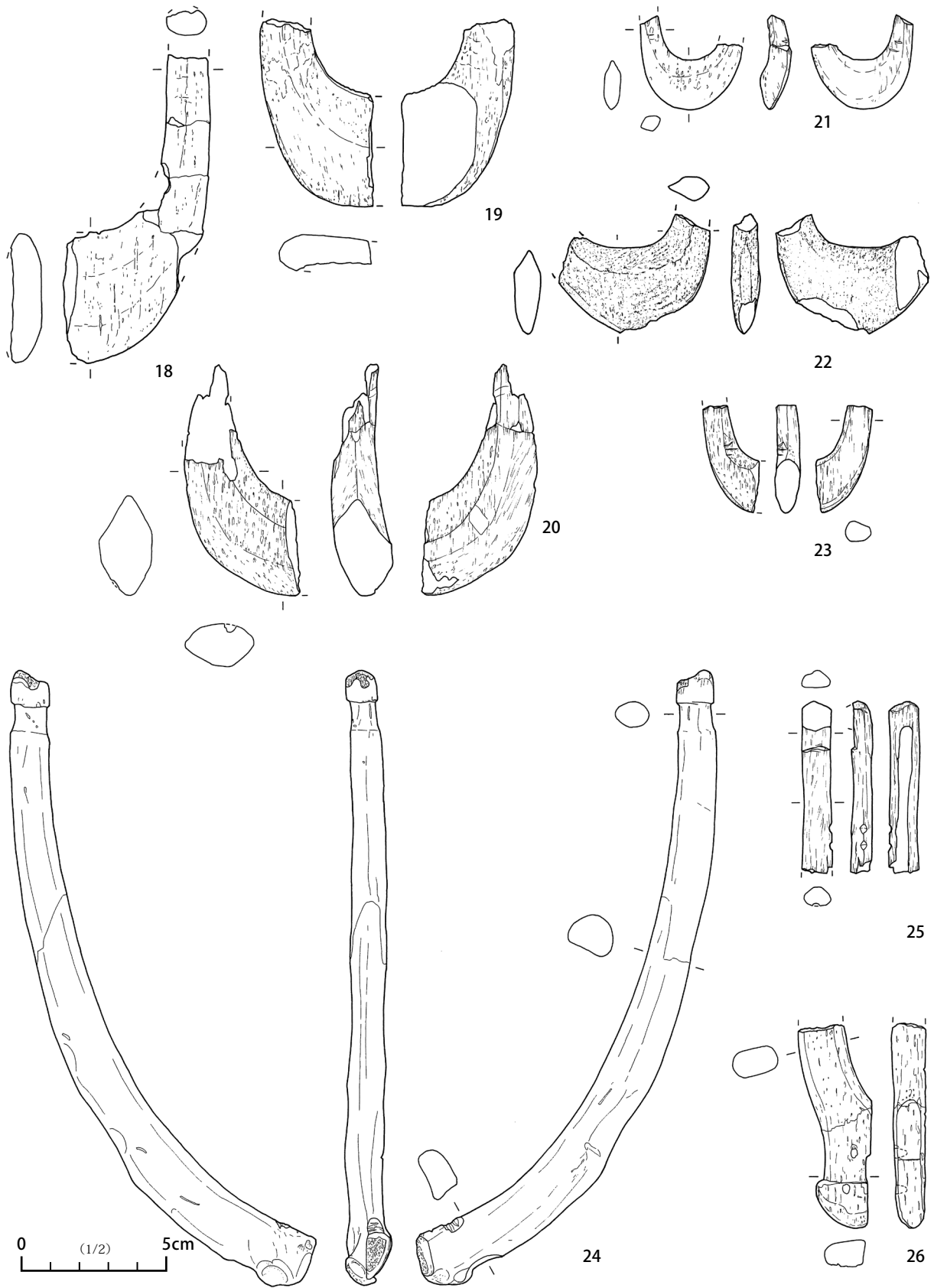


Fig. 43 7号竖穴出土の骨角器 2

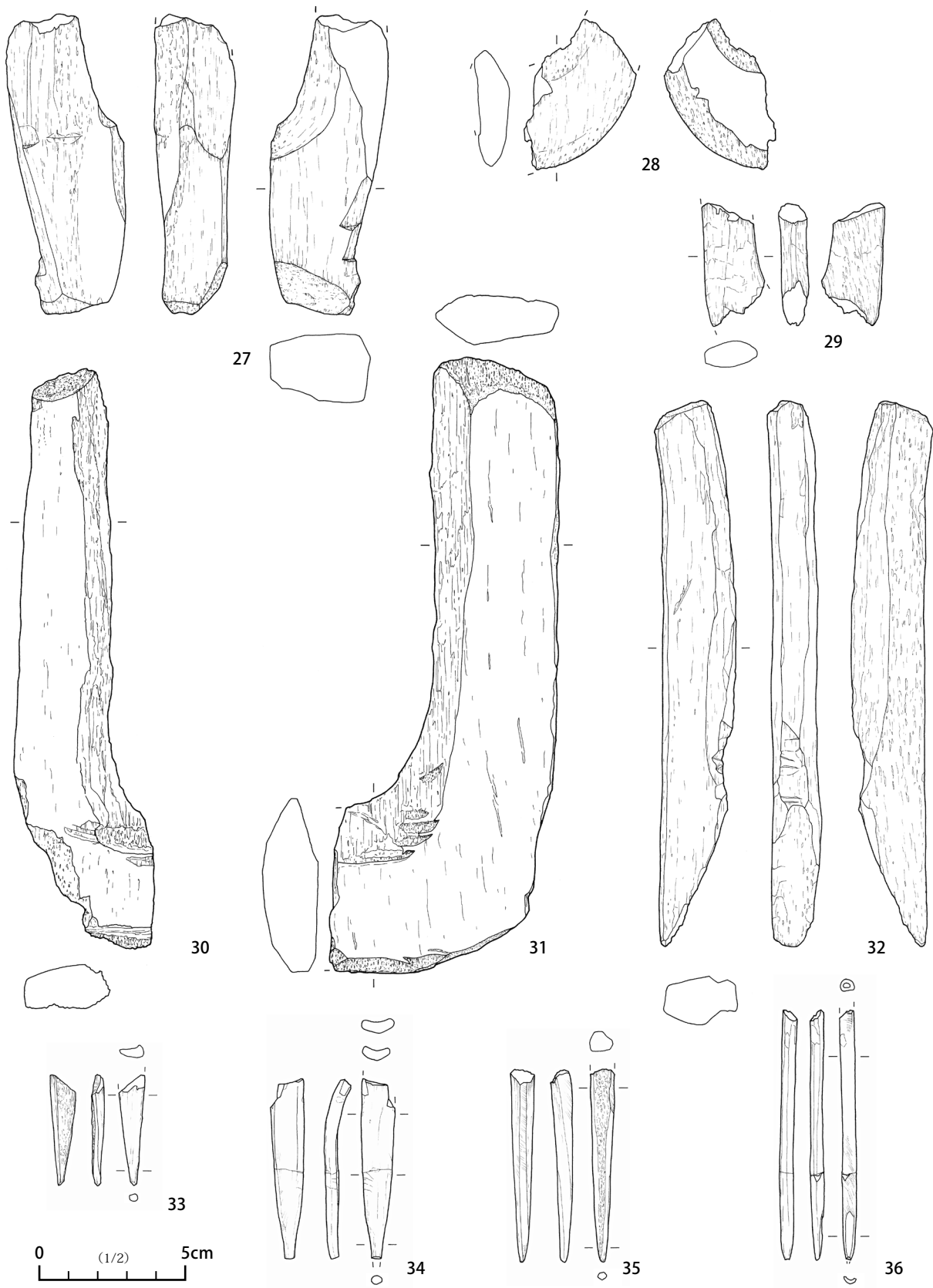


Fig. 44 7号竪穴出土の骨角器3



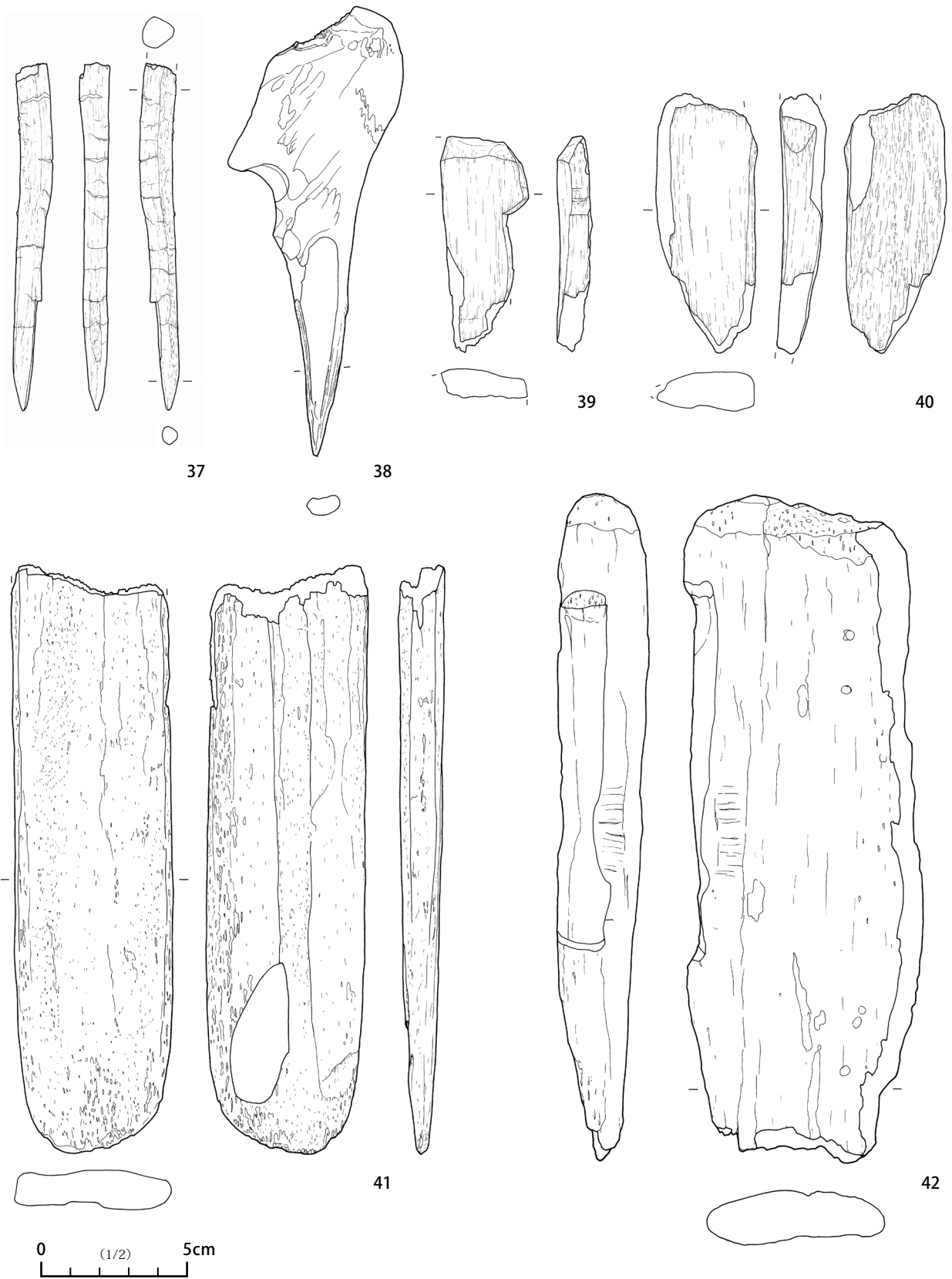


Fig. 45 7号竪穴出土の骨角器 4

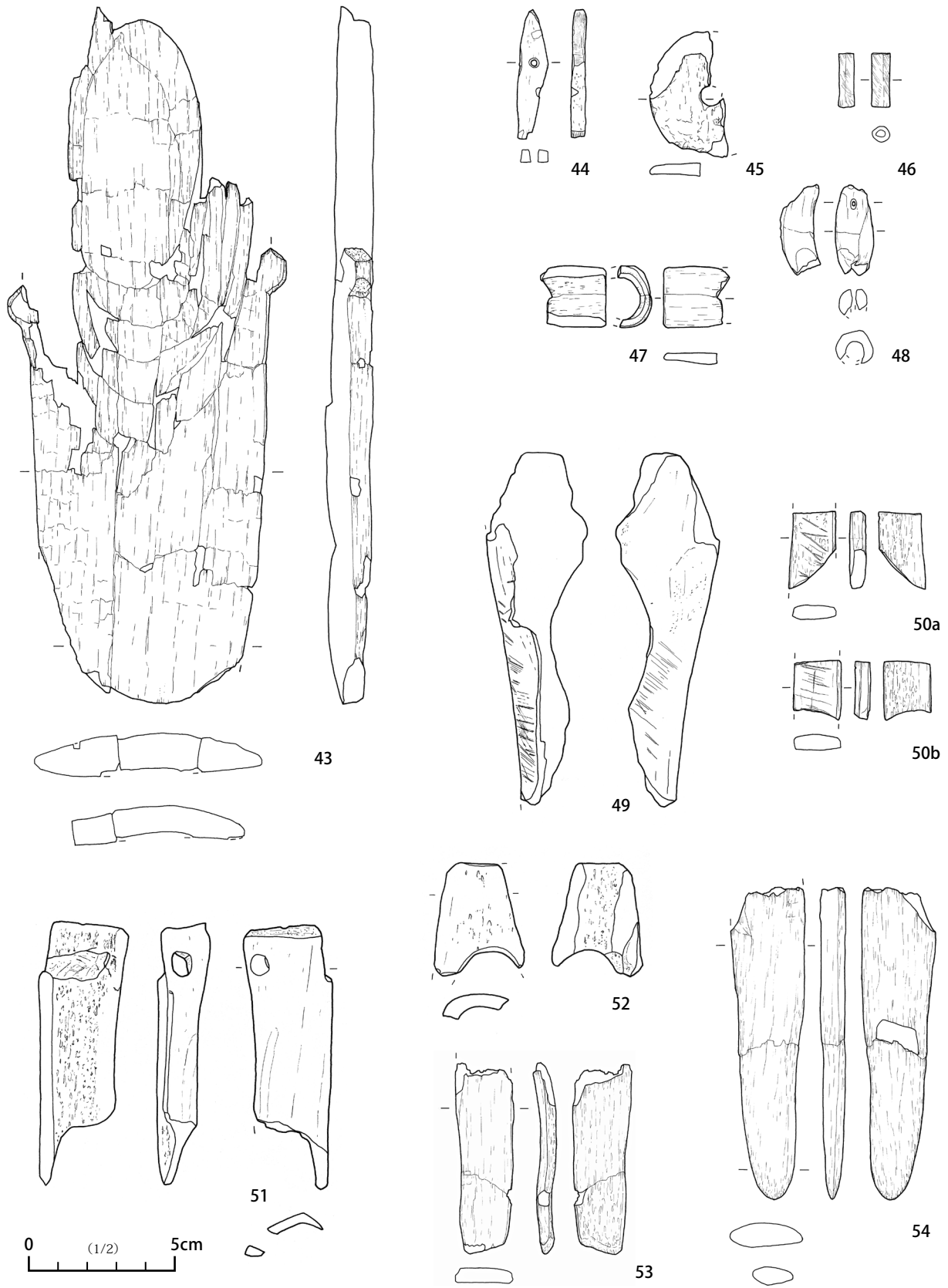


Fig. 46 7号竪穴出土の骨角器 5

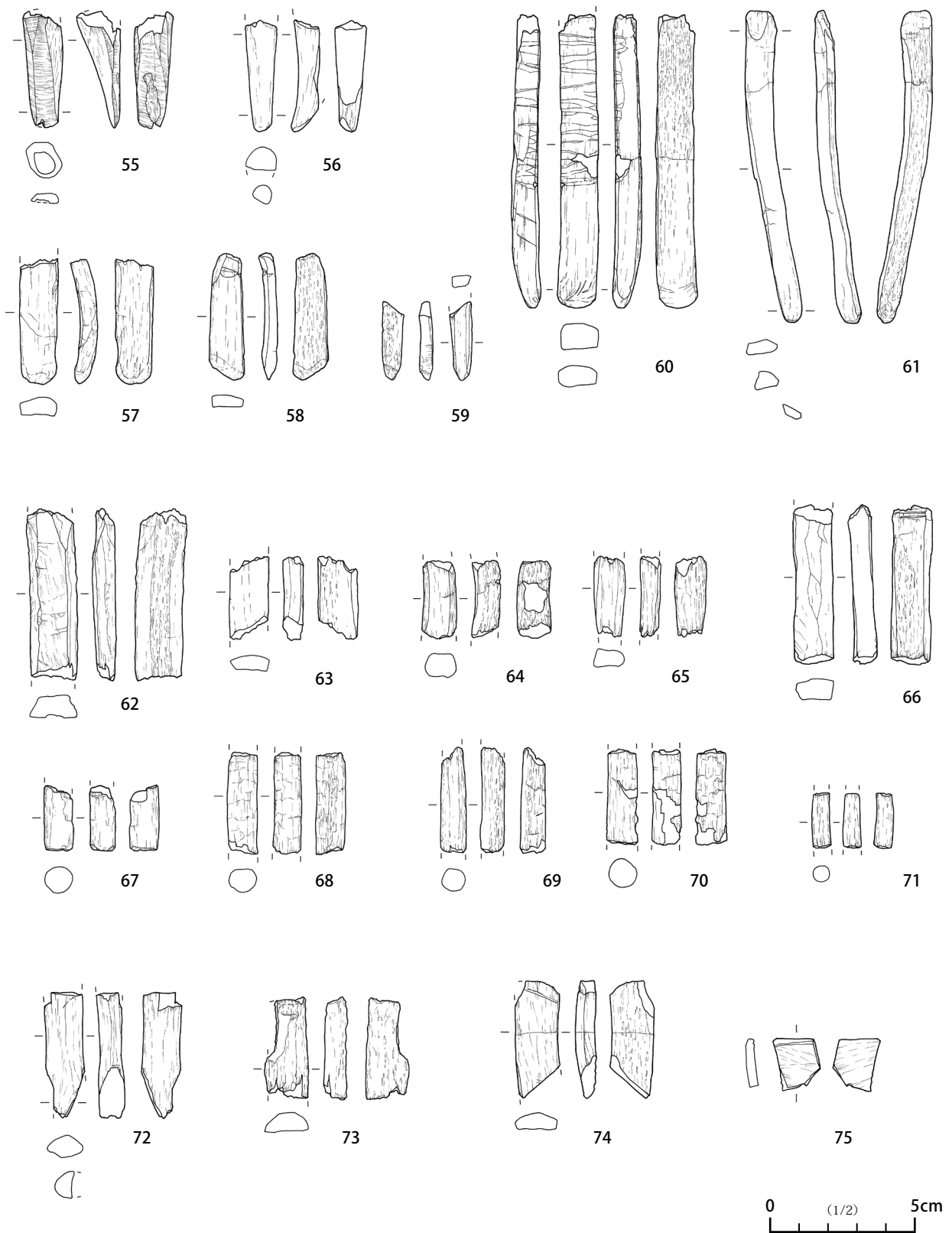


Fig. 47 7号竖穴出土の骨角器 6

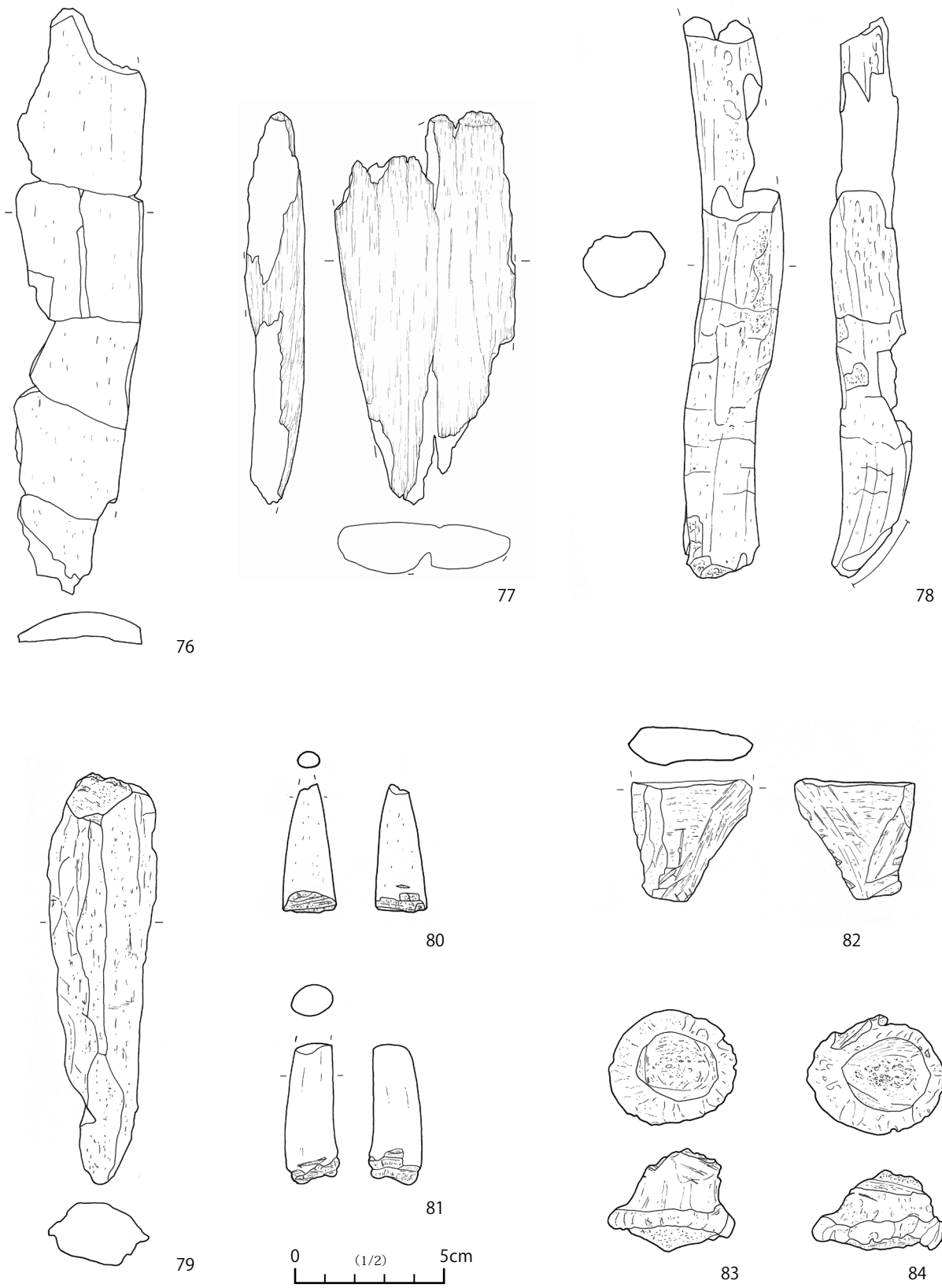


Fig. 48 7号竪穴出土の骨角器7

式釣針軸の湾曲部の破片である。完形品はないが、いずれも U 字形のⅡ類の破片である可能性が高い。24 は海獣肋骨製で、J 字形の主軸（Ⅰa 類）の完形品である。25 は釣針先を装着する副軸の結合部分の破片。26 は接合法による結合部の破片である。接合面には浅い段をもち、右側面に貫通しない孔を 2 か所に設けている。27 はやはり接合法による結合部の未成品破片。29 は軸中間部の破片だと考えられる。30～32 は鯨骨製の釣針未成品である。30・31 は板状の鯨骨素材から U 字形ないし J 字形の軸を作り出す途中の段階である。32 は表面が平滑であることから、板状製品（掘具？）を再加工する途中のものであろう。

33～38 は刺突具である。破片が多いが、素材は陸獣骨・海獣骨・鳥骨など多岐にわたる。39・41～43 は掘具である。39 は基部の破片。41 は基部を欠損しているが、残存長が 20cm を超える。幅は 5cm 強で、細身の形状である。42 は厚さ 3cm に達する大型品で、基部両側に長いコの字状の抉りを入れて装着部とするタイプである。43 は被熱による破損が著しい資料であるが、残存幅は 10cm に近く、幅広の大型品だったと思われる。両側縁に台形の突起を設けている。40 は板状製品として分類したが、やはり掘具の破片だった可能性もある。

44 は用途不詳だが、貫通孔をもつことから垂飾に分類した。下端に孔の一部、右側縁に非貫通の穿孔痕を残す。45 は無文の円盤状製品が半分に割れたもので、クックルケン状の垂飾だと考えた。46 は管玉状の鳥骨切断品。47 は用途不詳の筒状製品である。48 は海獣犬歯に穿孔した垂飾である。49 は多数の刻みの残る骨片である。50 は断面カマボコ状の棒状製品であるが、やはり多数の刻みが加えられている。強く被熱し、骨塚 a 付近から出土した。51・52 は穿孔や切断痕をもつ骨製品だが用途不詳である。53・54 はへら状製品であるが、幅が狭く、定型的な掘具とは異なるものである。55～74 は棒状製品である。端部を残すもの（55～61）と中間部破片（62～74）があるが、完形品は 1 点のみである。60 は被熱した結果、結縛痕がはっきり残っている。完形の 61 は、両端が薄く削られている。75 は薄い板状の加工品の破片である。

76・77 は鯨骨製の板状製品で、何らかの原材だった可能性もある。78 は鹿角に加工した原材である。下端に頭蓋骨内側面の凹凸を残しており、右角の角座骨から角幹部にかけての部分を利用していることがわかる。縦方向の長い削り痕が多数みられるが、角座部分などを削り取った痕跡であろう。79～84 は、骨角器製作に伴う残片だと考えられる。79 は板状の鯨骨から釣針軸を製作した際に生じるクサビ形の残片である。80・81 は鹿角先端部を切り落としたもの。82 は三角形の左右側縁に両側からの切断痕を残す。83・84 は、落角の角座部を切断したものである。

### 3 8号竪穴

8号竪穴出土の骨角器 30 点を報告する（Fig.49～Fig.51、PL.9・10 上）。すべて埋土から出土した資料である。

1 は表土 I 層から出土した完形の銚頭で、アイヌ文化期の雌形Ⅳ類である。尖頭で縦位 2 索孔をもち、

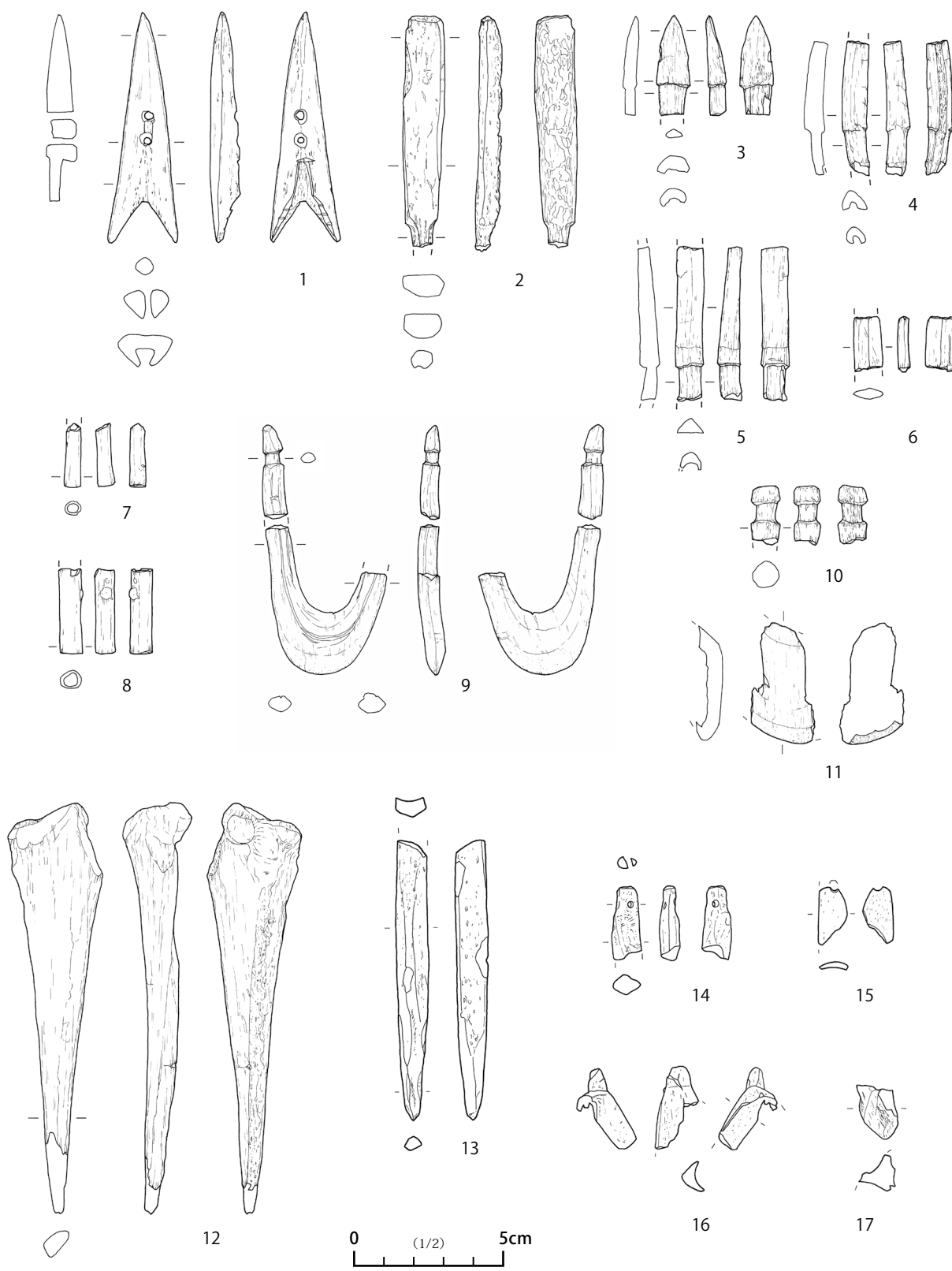


Fig. 49 8号竪穴出土の骨角器 1

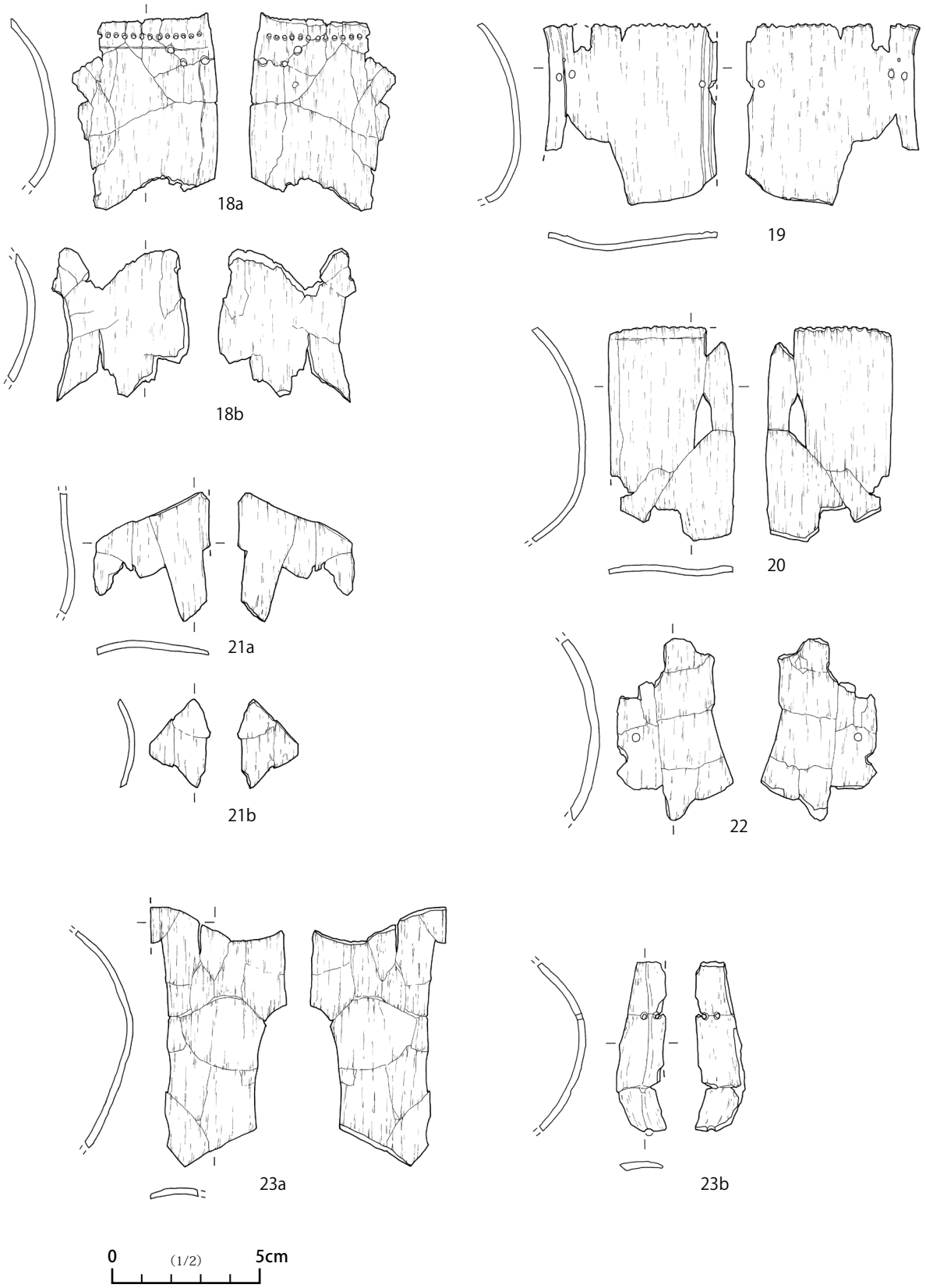


Fig. 50 8号竪穴出土の骨角器 2

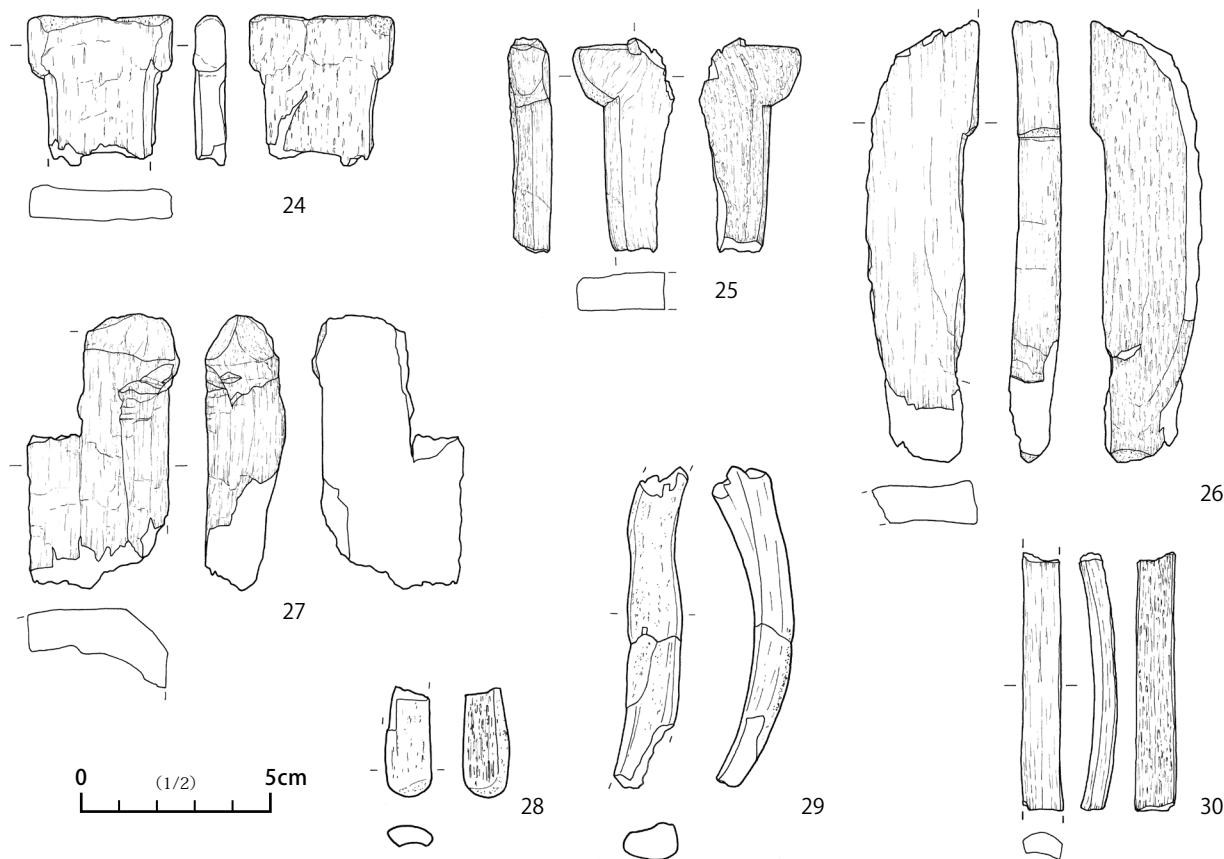


Fig. 51 8号竪穴出土の骨角器3

ソケットの断面はフラスコ状である。尾部の側縁内側に刻みによる装飾を加えている。2は骨鏃である。基部は柄を作り出すIV類で、先端が平らになる。

3～5はオホーツク文化期の雌形I類銚頭である。完形品はないが、先端がやや短いもの(3)と、細長くのびるもの(4・5)がある。6～8は骨鏃である。6は薄い葉状のI類、7・8は鳥管骨製の皿類の破片である。9～11は釣針軸である。9の軸頭部と湾曲部の破片は別々に出土したもので、接合しないが、サイズや加工の共通性から、同一個体の可能性が高いと判断した。U字形のII類で、刻線による装飾をもつ丁寧な作りである。推測される長さは9cm程度で、オホーツク文化期の結合式釣針としては小型である。10は軸頭部、11は湾曲部の破片である。12・13は刺突具である。

14は孔をもつことから垂飾だと考えた。15は有孔の小破片だが、2012年報告で棒状製品III類とした「薄く扁平な板状になるまで加工が進んだ」タイプの破片だと考えた。16・17は動物彫刻の破片の可能性はある。16は全体に薄く仕上げられ、突起がつく。

18～23は埋土のII層中から出土した鯨骨製品である。厚さが約2mmと極めて薄く丁寧に仕上げられていることから、薄板状製品と仮称する。近接して出土したことから一まとまりの資料だと考えられるが、いずれも被熱しており、本来は骨塚に伴っていた可能性が高い。18・21・23のa・bはそれぞれ接合しなかったが、同一個体だったと思われる。このうち23bが周溝出土の破片と接合しており、これら



の薄板状製品が本来は住居と同時期のものであったことを示唆している。いずれの資料も強く反っているが、被熱による変形の可能性があるため、注意が必要である。サイズについても被熱の影響を考慮する必要があるが、両側縁を残している 19 の幅が 58mm であること、18 の推定復元長が 12cm を超えることから、幅約 6cm、長さ 12cm 以上だったと推測しておきたい。側縁近くに浅い段を設けてさらに薄く仕上げられている (19・20・23)。孔をもつ資料が多いが、径 1mm 程度で直線的に連続するものと、径 2mm 程度で 1~3 個が散発的に施されるものに分けられる。前者は 18a の上縁にみられ、また 19 と 20 の上縁が鋸歯状になっているのも、この小孔列の痕跡だと考えられる。製作技法の痕跡である可能性もある。後者は、18a、19・22 にみられる。

24~27 は掘具である。24 は基部両側、25 は側縁部、26・27 は基部片側の突起を残す。25 は幅 5.6cm で厚さも 1cm に満たない小型品であり、27 は厚さ 2cm と大型品の破片であろう。28~30 は棒状製品である。

なお 2012 年報告において、8 号竪穴から出土したクマ彫像 (2012 年報告: Fig.93-22) について、実測図のスケール表記・属性表および本文中の法量記載を誤っていた。このため、ここで改めて正しいスケール入りの実測図を掲載する (Fig.56-1)。残存長 33mm と非常に小型であるが、クマの頭部から胴部にかけての彫像である。首回りと背筋右側に浮線がみられ、首輪と縄を表現したものと考えられる。

### 4 9 号竪穴

9 号竪穴出土の骨角器 27 点を報告する (Fig.52~Fig.54、PL.10 下・11)。

1~3 は、住居北部壁際のⅢ層下部~Ⅳ層上面で確認された動物遺体の集中に伴った骨角器である。この遺構から土器は出土していないが、出土した釣針と銚頭は、オホーツク文化期のものである。1 はほぼ完形の釣針軸で、接合法の副軸 (I b 類) である。2 は雌形 I 類の銚頭で、頭部を欠損する。3 はヘラ状製品で、海獣肋骨の両側縁に抉りを入れ、先端部も加工している。

4~27 は埋土出土の骨角器である。4・5 はⅢ層から出土した銚頭で、アイヌ文化期の雌形Ⅳ類である。4 は縦位 2 索孔をもち、先端には刃溝の痕跡を残す。腹面側に横方向の短刻線を並べた装飾を施す。5 は胴部から尾部にかけての破片だが、斜位 2 索孔をもつタイプだろう。背面側に刻線による装飾を施している。6 は中空で基部に弧状の抉りが入る骨製品で、銚の柄に装着した指掛部だった可能性が考えられる。I 層からの出土であり、アイヌ文化期のものとみてよいだろう。7 はオホーツク文化期の雌形 I 類銚頭の完形品である。8~10 は骨鏃である。8 は柄を作り出すⅣ類、10 は鳥管骨製のⅢ類の大型品である。9 は薄い葉状の I 類としたが、他の I 類の資料と比較するとサイズや加工の粗さなど相違点も目立つ。11・12 は結合式釣針軸で、11 はⅡ類の湾曲部、12 は接合法による I 類の結合部破片である。12 は軸がやや屈曲する点が特徴的である。

13・14 は海獣骨製の刺突具、15 は面取りされた棒状製品の端部破片である。16 は鱗状の表現がみられる動物彫刻の破片である。17 は鳥管骨の両端を切断したもので、針入れだと考えた。上端近くに溝が入るほか、装飾はみられない。

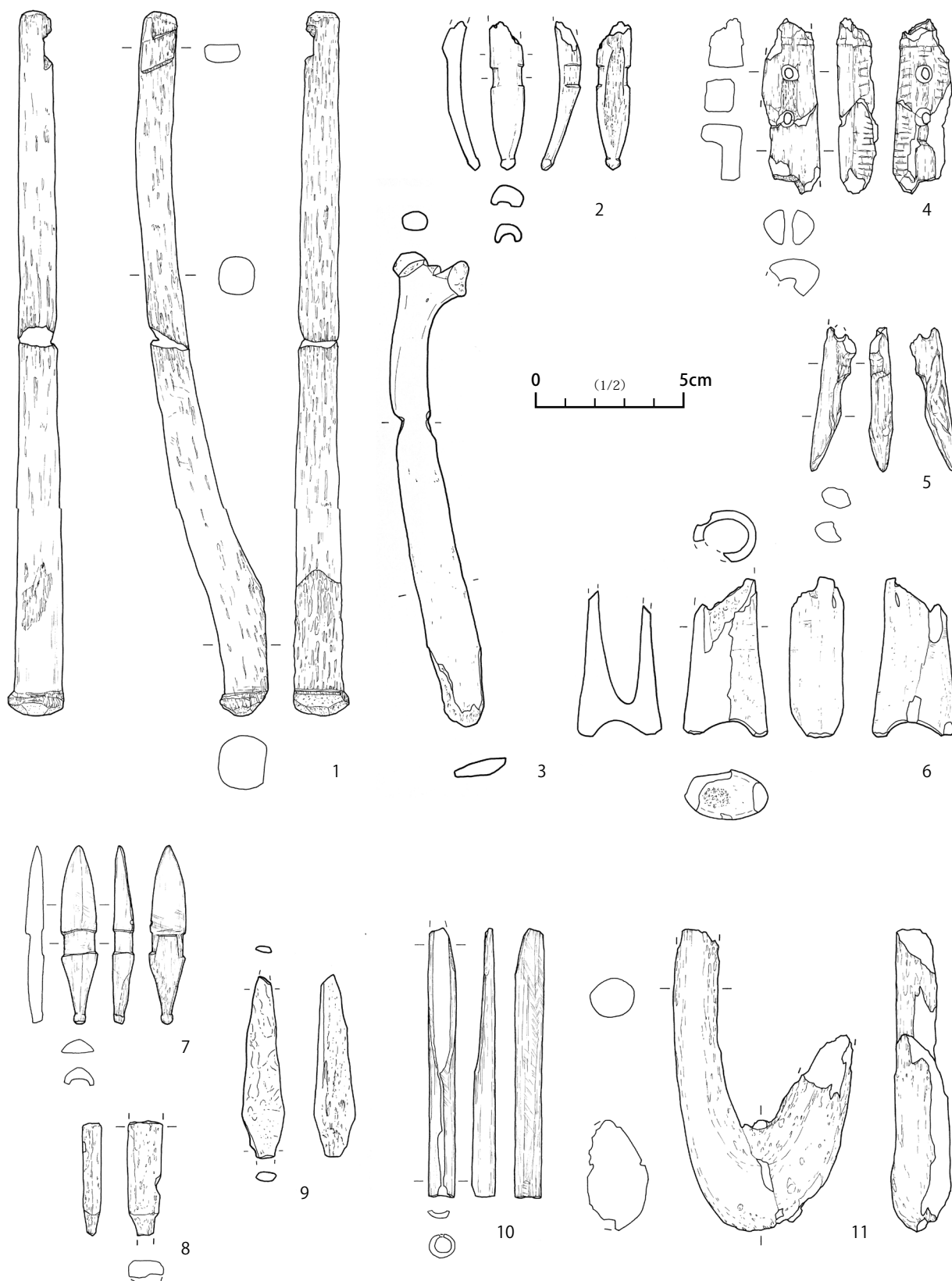


Fig. 52 9号竖穴出土の骨角器 1 (1~3: 動物遺体集中、4~11: 埋土)

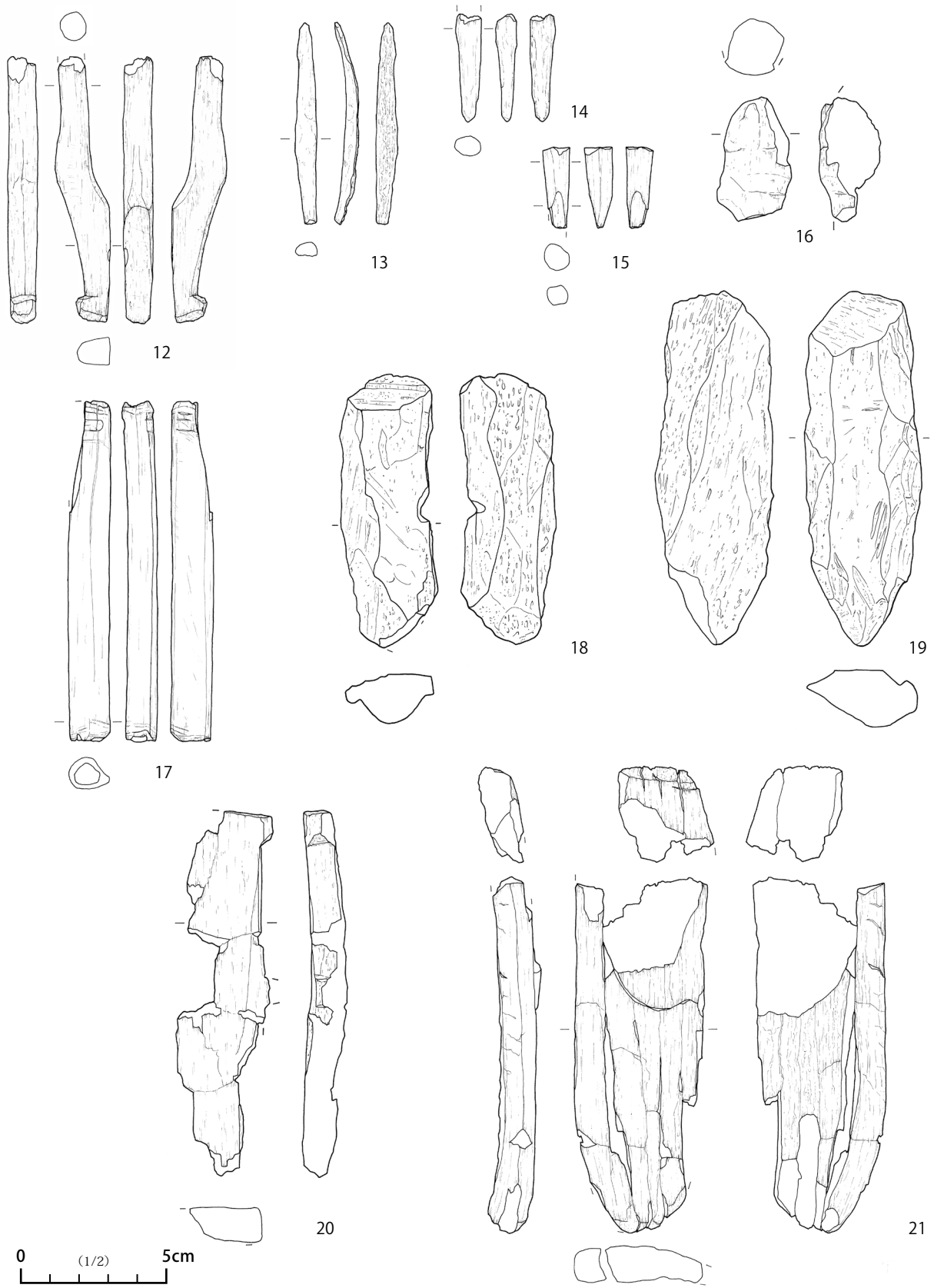


Fig. 53 9号竖穴出土の骨角器 2

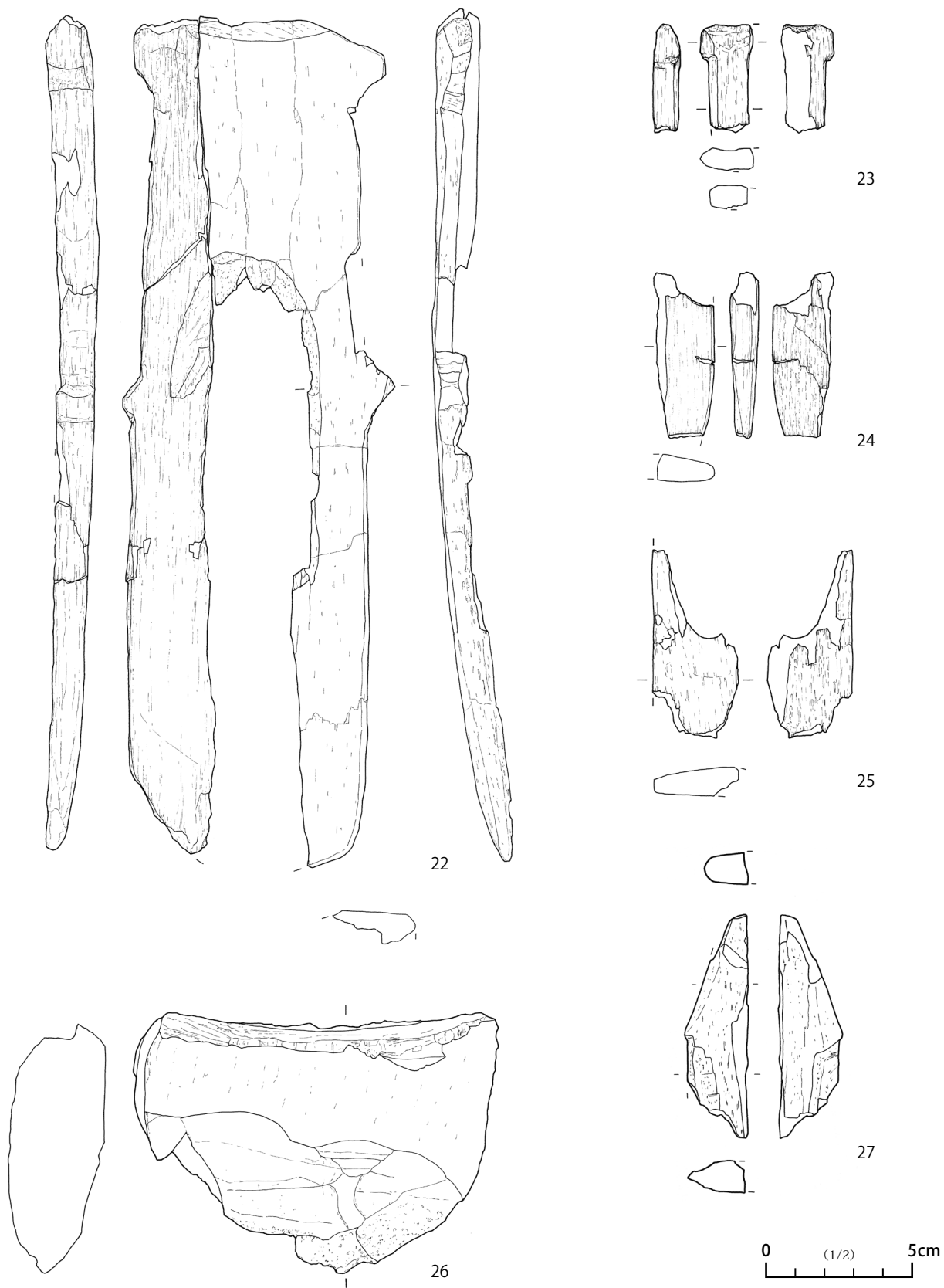


Fig. 54 9号竪穴出土の骨角器 3

18・19はクサビ形の鯨骨残片である。20～23は鯨骨製掘り具。20は基部と側縁に突起をもつ。21は接合しないが、基部から先端部までの破片がある。22は30cm近い大型品で、側縁に三角形の突起をもち、表面側から中央を窓状に削っている。装着用の窓をもついわゆる「骨鋏」タイプの可能性もあるが、全体のプロポーションが縦長であること、両側縁に装着用の突起を有していることから、この中央の挟りは装着用の加工ではなく、再加工の痕跡の可能性が高いと考えた。この資料は熱を受けて変色しているが、縦に割れた左右で色調が明確に異なっている。再加工中に縦割れが生じ、放棄されたのかもしれない。23は基部の破片である。24は板状製品の破片だが、掘具の可能性もある。25は鯨骨製板状製品の破片。側縁はまっすぐで、断面はカマボコ形である。26は厚さ3cmを超える半月形の鯨骨残片で、上端には切断痕、下半にも広く削り痕が残る。27は板状製品の破片。図の左上側の斜縁がなめらかに整形されているのに対して、左下側では両面から削りを加えており、やはり何らかの再加工に伴う残片の可能性が考えられる。

### 5 10号竪穴

10号竪穴出土の骨角器7点を報告する（Fig.55、PL.8下）。すべて埋土から出土した資料である。1は雌形Ⅰ類銚頭の破片だが、尾部に弧状の刻みによる装飾を加えている。2・3は結合式釣針軸である。2は接合法によるⅠ類の結合部破片で、軸の太さは約6～7mmとかなり小型である。3は大型の湾曲部破片。4は葉状の骨鋏Ⅰ類である。5はエイ尾棘製の骨鋏Ⅴ類の中間部破片。6は段を設けた小破片で、銚頭の可能性もあるが、ソケットにあたる部分が狭く、断定できない。7は鯨骨製の掘具で、側縁に三角形の突起をもつ。

### 6 分類

骨角器の分類基準は、トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点の2012年報告のものを基本的に踏襲している。狩猟漁労具（銚頭、骨鋏、釣針軸・先）、日常作業具（掘具、刺突具）、その他（垂飾、彫刻、棒状製品、残片、不詳品）に分類していたが、本稿ではこれらに加えて、狩猟漁労具に釣針先・指掛、日常作業具に針入れ・ヘラ状製品、その他に薄板状製品・板状製品・筒状製品・原材の項目を設けた。

#### (1) 狩猟漁労具

##### 銚頭

着柄する刺突具のうち、離頭するものが銚頭である。今回の報告資料15点は、すべてソケットをもつ雌形である。筆者の分類によればⅠ類とⅣ類としたタイプが出土している。Ⅰ類は開窩式・兼用式（索溝が柄結縛溝を兼ねる）のタイプで、12点が出土した。破片資料が多く、完形は1点のみである。9号竪穴出土の完形品（Fig.52-7）は、尖頭で尾部を水滴状にするという2012年報告で指摘した特徴と一致している。2012年報告では、「1号竪穴で出土したような、刃溝をもち尾部が分岐する大形の資料は、

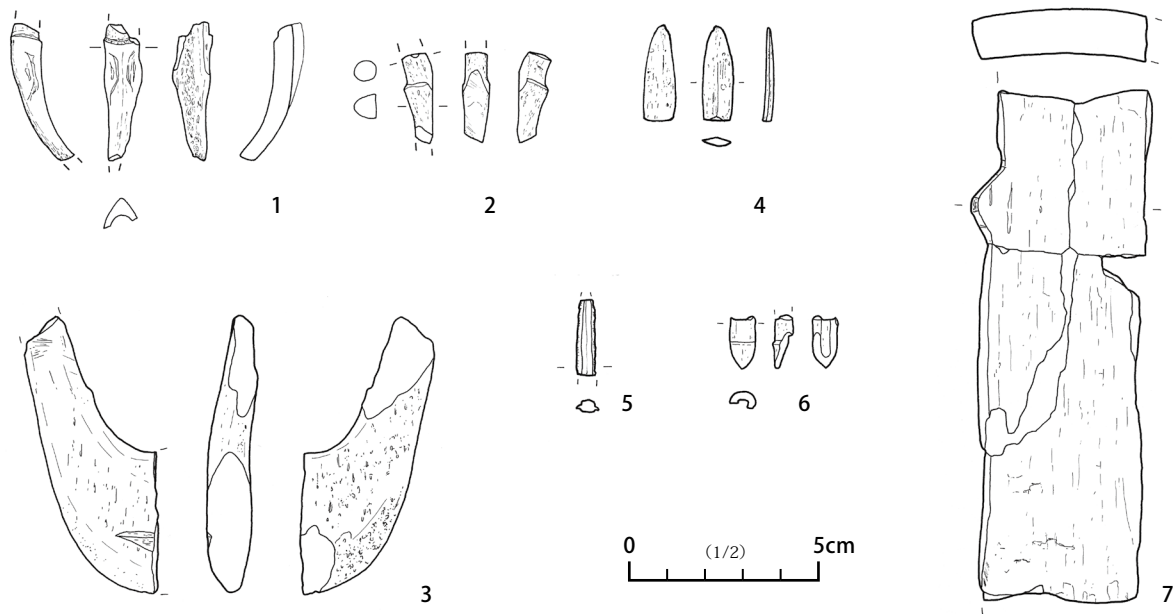


Fig. 55 10号竪穴出土の骨角器

90年代以降の調査では出土していない」(p.271)とも述べていたが、今回報告した中に7号竪穴骨塚bからの出土例があるため(本書Fig.42-6)、この記述は訂正する必要がある。同じ骨塚bからはほぼ完形の雌形Ⅱ類銚頭が出土している(2012年報告Fig.49-43)。索孔の有無という構造上の違いはあるが、先端に刃溝を持つ点や尾部の分岐などは共通しており、「それぞれの地域で在地のⅠ類銚頭に索孔が取り入れられることによってⅡ類銚頭が成立した」(同p.272)という見通しを裏付けるものである。

Ⅳ類は開窩式・分離式(索孔をもつ)で円錐形の器体をもつタイプで、3点が出土した。2012年報告資料には含まれていなかったが、これはⅣ類がアイヌ文化期に属するためである。今回報告した資料は、いずれも刻線や刻みによる装飾を施している。

2012年報告にあった雄形や雌形Ⅱ類(開窩式・分離式で柳葉形)は今回報告した中には含まれていないが、これは資料数が少ないためだと思われる。モヨロ貝塚でⅢ類(開窩式)としたタイプは、過去の調査を含めてもトコロチャシ跡遺跡からは出土していない。これはⅢ類が編年的により古い段階(オホーツク文化刻文期ないしそれ以前)に属するためであろう。

### 骨鏃

着柄用の加工をもつ刺突具を骨鏃として分類したが、ヤスや槍との区別は不明確である。13点が出土した。2012年報告では、Ⅰ類：全体にきわめて薄い葉状のもの、Ⅱ類：クサビ状の基部をもつもの、Ⅲ類：鳥管骨の先端を斜めに切断したもの、と分類していた。今回はこれらに加えて、明確な柄部を作り出すものをⅣ類、エイ尾棘製のものをⅤ類とした。

Ⅰ類は4点あり、ほぼ完形の資料が7号竪穴の埋土から出土した(Fig.42-12)。Ⅱ類は今回報告の資料中には1点のみであるが(Fig.42-15)、やはりほぼ完形品である。最も多かった鳥管骨製のⅢ類は、今回も5点を追加した。柄を作り出すⅣ類とエイ尾棘製のⅤ類は、2012年報告の床面出土資料にはみ

られなかったタイプである。

##### 釣針軸

釣針軸は23点が出土した。J字形をⅠ類、U字形をⅡ類とし、さらに前者を主軸（Ⅰa類）と副軸（Ⅰb類）に分けた。Ⅰ類は完形品を含めて7点が出土した。主軸と副軸の結合方法は、交差法1点、接合法（軸と直交する接合面を作って合わせる方法）5点である。副軸と釣針先の結合方法は、交差法2点である。Ⅱ類は不確実なものを含めて10点が出土したが、ほとんど湾曲部破片で、完形品は存在しない。軸頭部と湾曲部が残る8号竪穴出土例（Fig.49-9）は精巧な作りの小型品である。板状の鯨骨素材から釣針軸を作り出す途中の段階の未成品が7号竪穴から出土しており（Fig.44-30~32）、掘具の再加工品の可能性がある資料（32）も含まれる。

##### 釣針先

2012年報告では釣針先が無いことを指摘していたが、今回埋土出土の2点を報告した。ただし釣針軸との出土数の不均衡は依然として解消されていない。

##### 指掛

9号竪穴Ⅰ層出土の骨製品（Fig.52-6）について、銚柄の基部に装着する指掛部の部品である可能性を考えた。骨角器としては類例が知られていないが、千歳市美々8遺跡低湿部から木製品が出土している（北海道埋蔵文化財センター1997）。サイズのより大型の資料が多いが、近似する例も含まれる。本資料もアイヌ文化期に帰属する可能性が高いと考えておきたい。同じ9号竪穴の埋土からはアイヌ文化期のⅣ類銚頭も出土している（Fig.52-4・5）。

#### (2) 日常作業具

##### 掘具

着柄部と刃部をもつ大型で鯨骨製の板状製品で、13点が出土している。2012年報告では、モヨロ貝塚における分類（大場1955）では「骨篋」にあたるタイプであること（窓を持つ「骨鋏」や厚手で蛤刃の「骨斧」がないこと）、両側縁が平行で幅が狭いものが多いこと（刃部幅が広がる洋ナシ形のタイプがないこと）、着柄用の加工として基部及び側縁に突起を設けること、を指摘した。今回の報告例を加えても、この傾向に変化はみられない。中央を削られた9号竪穴出土例（Fig.54-22）は、プロポーシオンなどがトコロチャシ跡遺跡の他の資料と共通しており、再加工のプロセスを示すものであろう。

##### 刺突具

先端部を持つ資料の中で柄への装着部を持たない資料を、刺突具として分類した。10点が出土しており、陸獣骨・海獣骨・鳥骨など各種の素材がみられる。

##### ヘラ状製品

使用部が尖らず、薄く扁平なものをヘラ状製品として分類した。4点を報告したが、素材・形態ともに多様な資料が含まれている。

##### 針入れ

鳥管骨の切断品を針入れと分類した。1点のみの出土で、装飾はみられない。

### (3) その他

#### 垂飾

8号竪穴埋土から出土した浮線彫刻をもつクックルケシ状の有孔円盤2点は、2012年に報告済である。今回垂飾として報告した資料は5点あるが、無文の有孔円盤、管玉、有孔の陰茎骨製品など多様な資料が含まれている。

#### 彫刻

各竪穴埋土出土の動物彫刻の主だったものは、2012年に報告済である。今回報告した4点は全体像を知ることが難しい破片であるが、やはりこうした動物彫刻の一部であろう。

#### 薄板状製品

8号竪穴の埋土から6点がまとまって出土している。厚さ2mm程度、大きさは幅6cm×長さ12cm以上だったと推測される。小孔を設けているのは、固定・装着のためであろうか。用途不詳であるが、非常に精巧な作りである。

#### 板状製品

扁平な板状の製品を一括した。8点を報告したが、掘具など他の器種の破片が含まれている可能性がある。

#### 棒状製品

棒状の器体をもつものを一括した。断面が円形のⅠ類とカマボコ形のⅡ類に分類し、さらに薄い板状になるまで磨かれて有孔のものをⅢ類とした。25点を報告したが、釣針軸の中間部など他の器種の破片が含まれている可能性もある。

#### 筒状製品

筒状を呈する破片だが、全体の形状など不明である。

#### 原材

7号竪穴から出土した加工痕のある鹿角2点を報告した。いずれも強く被熱している。Fig.42-1は角幹部を縦に長く削っており、残片の可能性もある。Fig.48-78は、角座骨から角幹にかけての部分を利用している。この部分を使うことで、より長くまっすぐな素材を得ることが可能になる。動物彫刻の素材として用意されたものだろうか。

#### 残片

加工痕の残る骨角のうち、それ自体が目的物ではないと考えられるものを残片とした。定型的なものとしては、鯨骨製でクサビ形の残片が3点出土している。これらのクサビ形鯨骨製品について、モヨロ貝塚の出土例にもとづいて検討したことがあるが（網走市教育委員会 2009）、今回報告した3点は、いずれも底辺に基部側を含む「残片 A1 類」に属するものである。この傾向は 2012 年報告とも共通し、トコロチャシ跡遺跡の特徴といってよいだろう。このタイプの残片は、板状の鯨骨素材から U 字形のⅡ類釣針軸を製作するプロセスで生じたものだと考えている。この素材が掘具であった場合は再加工ということになるが、掘具ではない板状素材であった可能性もある。釣針未成品とした Fig.44-30・31 はこうした製作プロセスを示すものかもしれない。モヨロ貝塚で残片 A2 類とした掘具の刃部側を含む例は、



今回も含まれていなかった。しかし、掘具の中央を窓状に抉った Fig.54-22 は掘具からⅡ類釣針軸を製作する再加工の過程で生じたものと考えられ、釣針未成品とした Fig.44-32 もその可能性がある資料である。トコロチャシ跡遺跡とモヨロ貝塚における掘具の再加工・釣針軸の製作プロセスについては、今後より詳細な分析が必要であろう。鹿角の残片としては、先端部 (Fig.48-80・81) や角座部 (83・84) を切り落とした例を報告した。いずれも鉄器による加工だと考えられる。

### 不詳品

上記の分類に当てはまらないもので、4点を報告した。

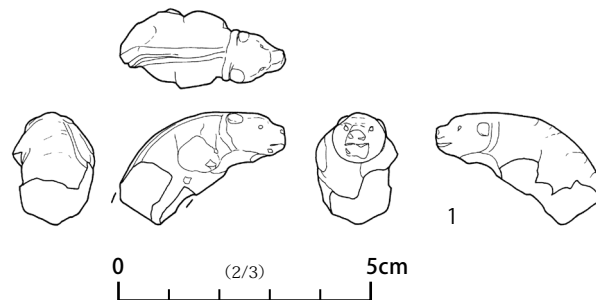


Fig. 56 8号竪穴出土の骨角器 (2012年報告分)

## 7 出土骨角器属性表

Table 6 は今回報告した骨角器の属性表である。遺構と出土層位については、2012年報告を参照されたい。器種1・器種2の分類基準については、前項で述べた通りである。素材の同定は肉眼観察による。被熱については、明確な白色・灰色ないし黒色への変色がみられる資料に○を記した。重さは0.1g、長さ・幅・厚さは1mm単位で計測した。備考には破損状態や特筆すべき出土状況等を記載した。

Table 7 は、2012年報告の属性表 (2012年報告 Table 2) で誤りのあった部分を修正したものである。2012年報告の Fig.47-47 から Fig.50-63 までの37点について (Fig.48-37を2点とカウント)、長さの記載が誤っていた。また、前述した8号竪穴出土のクマ彫刻 (2012年報告 Fig.93-22、本書 Fig.56-1) についても、改めて法量を掲載した。

(高橋 健)

### 引用文献

網走市教育委員会 2009 『史跡モヨロ貝塚』 網走市教育委員会

大場利夫 1955 「モヨロ貝塚出土の骨角器」『北方文化研究報告』10: 173-249

北海道埋蔵文化財センター1997 『美沢川流域の遺跡群XX』 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 114

Table 6 骨角器属性表 (本書掲載分) (1)

Fig.	住居	出土層位	器種 1	器種 2	素材	被熱	重さ (g)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考
42-1	7c	床面	原材		鹿角	○	57.6	163	93	27	右角の第三枝分岐部
42-2	7	床面	残片		海獣骨	○	0.8	15.0	10.0	9.0	
42-3	7a	床面 (柱穴内)	へら状 製品		鳥管骨	○	10.4	138	19	15	
42-4	7	床面 (周溝内)	彫刻?		鹿角	○	2.3	14	41	5	刻線あり
42-5	7a	骨塚 a	板状製品		鯨骨		49.0	180	39	16	全体に摩耗
42-6	7b	骨塚 b	銚頭	雌形 I 類	海獣四肢骨	○	3.4	61	112	8	先端・尾部欠、刃溝、尾部分岐
42-7	7	IV層	銚頭	雌形 I 類	海獣骨	○	1.8	32	12	4	索溝上部
42-8	7	IV層	銚頭	雌形 I 類	海獣四肢骨	○	1.0	29	8	7	索溝～尾部
42-9	7	II層	銚頭	雌形 I 類	海獣肋骨	○	3.3	60	12	8	未成品、上半部
42-10	7	IV層	銚頭	雌形 I 類	海獣骨	○	0.9	39	9	5	先端～索溝右半分、粉碎された破片あり
42-11	7	II層	銚頭	雌形 I 類	海獣四肢骨	○	1.6	21	13	7	索溝下部
42-12	7	IV層	骨鏃	I 類	陸獣骨	○	0.6	37	8	2	ほぼ完形
42-13	7	IV層	骨鏃	III類	鳥管骨	○	1.0	39	6	5	先端欠
42-14	7	IV層	骨鏃	III類	鳥管骨	○	0.9	41	6	6	先端やや欠
42-15	7	IV層	骨鏃	II類	海獣骨?		3.8	88	9	7	完形
42-16	7	IV層	釣針先		不明	○	0.8	29	9	6	基部欠、浅い逆鉤
42-17	7	IV層	釣針先		歯牙	○	1.1	28	15	7	両端欠、髓孔あり
43-18	7	IV層	釣針軸	II類?	鯨骨	○	20.8	106	51	12	湾曲部破片
43-19	7	IV層	釣針軸	II類?	鯨骨	○	23.7	65	39	14	湾曲部破片
43-20	7	III層	釣針軸	II類?	鯨骨		11.1	80	40	29	湾曲部破片
43-21	7	IV層	釣針軸	II類	海獣骨	○	3.8	33	36	4	湾曲部破片
43-22	7	II層	釣針軸	II類	鯨骨		6.9	39	53	9	湾曲部破片
43-23	7	IV層	釣針軸	II類?	海獣骨	○	3.1	35	19	8	湾曲部破片
43-24	7	IV層	釣針軸	I a 類 交差法	海獣肋骨		27.3	213	106	16	完形 主軸
43-25	7	IV層	釣針軸	I b 類?	海獣骨	○	4.3	60	11	7	副軸、先端部破片
43-26	7	IV層	釣針軸	I 類 接合法	鯨骨	○	15.2	69	25	12	結合部破片、盲孔 2
44-27	7	IV層	釣針軸	I 類 接合法	鯨骨	○	45.2	103	38	26	未成品、結合部破片
44-28	7	II層	釣針軸	II類?	鯨骨	○	10.3	52	38	11	湾曲部破片
44-29	7	I層	釣針軸		鯨骨	○	7.3	42	21	9	軸部破片
44-30	7	IV層	釣針軸		鯨骨		53.8	198	46	18	未成品
44-31	7	IV層	釣針軸		鯨骨		108.9	215	70	18	未成品
44-32	7	IV層	釣針軸?		鯨骨		41.5	188	25	16	未成品、掘具再加工?
44-33	7b?	IV層?	刺突具		海獣骨	○	0.6	38	9	5	先端部破片
44-34	7	III層	刺突具		陸獣骨	○	3.0	62	11	5	先端部破片
44-35	7	IV層	刺突具		海獣骨		2.0	66	8	7	先端部破片
44-36	7	IV層	刺突具		鳥管骨	○	1.2	86	5	4	基部欠
45-37	7	III層	刺突具		海獣骨?	○	9.8	119	12	11	基部欠
45-38	7	IV層	刺突具		シカ尺骨 L	○	43.7	154	46	25	ほぼ完形
45-39	7	IV層	掘具		鯨骨	○	16.1	74	30	11	基部破片
45-40	7	II層	板状製品		鯨骨		16.3	89	36	14	中間部破片
45-41	7	IV層	掘具		鯨骨		113.3	202	54	16	基部欠
45-42	7	III層	掘具		鯨骨		235.1	231	78	30	全体に摩耗
46-43	7	IV層	掘具		鯨骨	○	166.7	240	95	13	小片接合
46-44	7	IV層	垂飾?		鹿角	○	1.5	44	10	5	穿孔 3 (完 1: 径 3mm、半欠 1、非貫通 1)
46-45	7	I～III層	垂飾		海獣骨	○	5.3	43	27	6	半分に割れる
46-46	7	不明	垂飾	管玉	鳥管骨	○	0.5	18	6	5	注記判読不能
46-47	7	IV層	筒状製品		鹿角	○	1.9	21	22	12	半分に割れる、骨塚周辺
46-48	7	IV層	垂飾		海獣犬歯	○	2.7	31	13	12	穿孔 1: 径 2mm

Table 6 骨角器属性表（本書掲載分）(2)

Fig.	住居	出土層位	器種 1	器種 2	素材	被熱	重さ (g)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考
46-49	7	Ⅲ層	不詳品		陸獣骨	○	24.1	121	33	16	刻みあり
46-50a	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	2.2	26	15	5	刻みあり、骨塚 a 周辺
46-50b	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	2.0	20	16	6	刻みあり、骨塚 a 周辺
46-51	7	Ⅳ層	不詳品		海獣骨	○	8.7	91	30	15	穿孔、切断痕
46-52	7	Ⅰ層	不詳品		海獣骨		3.9	38	31	13	上端切断、下端挟り
46-53	7	Ⅲ層	へら状製品		海獣骨	○	6.1	65	20	5	中間で折れる
46-54	7	Ⅳ層	へら状製品		海獣骨		15.7	107	25	9	中間で折れる
47-55	7	Ⅳ層	棒状製品		鹿角	○	2.1	40	13	12	端部、削り痕あり
47-56	7	Ⅳ層	棒状製品		鹿角	○	2.3	39	11	8	端部
47-57	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	4.7	49	13	7	端部
47-58	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	2.2	44	11	4	端部
47-59	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	0.7	27	7	4	端部
47-60	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	12.3	101	13	9	一端欠、結縛痕あり
47-61	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	7.9	108	11	6	完形、両端薄い
47-62	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	6.3	60	17	8	中間部
47-63	7a	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	2.6	29	14	6	中間部
47-64	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	2.3	27	12	9	中間部
47-65	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	2.3	27	11	7	中間部
47-66	7	Ⅲ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	7.7	55	13	8	切断痕？
47-67	7	Ⅲ層	棒状製品	Ⅰ類	海獣骨	○	1.2	23	10	10	端部
47-68	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅰ類	海獣骨	○	4.5	35	10	8	中間部
47-69	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅰ類	海獣骨	○	2.7	37	9	8	中間部
47-70	7	Ⅰ層	棒状製品	Ⅰ類	海獣骨	○	3.7	33	11	10	中間部
47-71	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅰ類	海獣骨	○	0.8	19	6	6	中間部
47-72	7	Ⅲ層	棒状製品		海獣骨	○	4.8	43	14	9	中間部、骨塚周辺
47-73	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	1.9	35	15	7	中間部
47-74	7	Ⅳ層	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨	○	3.7	41	15	7	中間部、骨塚周辺
47-75	7	Ⅲ層	板状製品		歯牙？	○	0.6	18	16	3	
48-76	7	Ⅳ層	板状製品		鯨骨	○	37.1	197	43	10	
48-77	7	Ⅳ層	板状製品		鯨骨		60.2	132	59	20	大型品？、骨塚周辺
48-78	7	Ⅱ層	原材		鹿角	○	76.5	188	27	20	右角の角座～角幹部
48-79	7	Ⅲ・Ⅳ層	残片	A1 類	鯨骨		36.7	136	25	22	
48-80	7	Ⅳ層	残片	先端部	鹿角	○	5.3	42	19	14	切断痕あり
48-81	7	Ⅳ層	残片	先端部	鹿角	○	6.6	46	18	14	切断痕あり、骨塚周辺
48-82	7	Ⅳ層	残片	分岐部	鹿角？	○	14.8	39	41	14	削り・切断痕あり
48-83	7	Ⅳ層	残片	角座部	鹿角		27.0	42	38	34	切断痕あり
48-84	7	Ⅳ層	残片	角座部	鹿角		17.4	46	39	28	切断痕あり
49-1	8	Ⅰ層	銚頭	雌形Ⅳ類	鹿角		4.3	78	19	11	完形
49-2	8	Ⅰ層	骨鏃	Ⅳ類	鯨骨		4.1	77	13	8	先端直線 ほぼ完形
49-3	8	Ⅲ層	銚頭	雌形Ⅰ類	海獣骨	○	1.4	34	11	6	先端～索溝
49-4	8	Ⅱ層	銚頭	雌形Ⅰ類	海獣四肢骨	○	2.5	45	8	7	先端・尾部欠
49-5	8	Ⅲ層	銚頭	雌形Ⅰ類	海獣四肢骨	○	3.7	52	9	5	先端・尾部欠
49-6	8	Ⅲ層	骨鏃	Ⅰ類	不明	○	0.8	19	10	4	中間部
49-7	8	Ⅱ層	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	0.4	22	5	5	先端欠
49-8	8	Ⅱ層	骨鏃？	Ⅲ類	鳥管骨	○	1.1	29	8	6	先端欠
49-9a	8	Ⅲ層	釣針軸	Ⅱ類	海獣骨	○	1.0	31	8	6	軸頭部・刻線あり
49-9b	8	Ⅱ層	釣針軸	Ⅱ類	海獣骨	○	9.3	55	41	7	湾曲部・刻線あり
49-10	8	Ⅱ層	釣針軸		海獣骨	○	1.4	20	10	11	軸頭部破片
49-11	8	Ⅱ層	釣針軸		鯨骨	○	3.9	39	21	7	湾曲部破片
49-12	8	Ⅰ層	刺突具		海獣骨	○	19.2	137	30	23	ほぼ完形

Table 6 骨角器属性表（本書掲載分）(3)

Fig.	住居	出土層位	器種 1	器種 2	素材	被熱	重さ (g)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考
49-13	8	I層	刺突具?		陸獣骨		3.8	93	12	7	中間で折れる
49-14	8	I層	垂飾?		ヒグマ?陰茎骨	○	1.2	25	9	6	有孔、折れる
49-15	8	II層上層	棒状製品	III類	不明	○	0.4	19	10	3	有孔、破片
49-16	8	攪乱 (I層下)	彫刻		鹿角?	○	1.9	28	20	13	
49-17	8	II層	彫刻?		不明	○	1.8	21	14	11	
50-18a	8	II層	薄板状製品		鯨骨	○	7.1	67	49	3	
50-18b	8					○	5.8	52	46	3	
50-19	8	II層	薄板状製品		鯨骨	○	6.6	61	58	2	
50-20	8	II層	薄板状製品		鯨骨	○	7.0	72	42	2	
50-21a	8	II層	薄板状製品		鯨骨	○	2.4	44	39	2	
50-21b	8					○	0.7	30	20	2	
50-22	8	II層	薄板状製品		鯨骨	○	4.5	61	39	3	
50-23a	8	II層	薄板状製品		鯨骨	○	6.8	88	45	3	
50-23b	8					○	1.8	57	15	2	周溝内出土の破片と接合
51-24	8	III層	掘具		鯨骨	○	14.0	40	39	9	基部
51-25	8	III層	掘具		鯨骨	○	9.0	56	24	10	突起 1
51-26	8	II層	掘具		鯨骨	○	32.9	117	28	12	基部片側
51-27	8	II層	掘具		鯨骨	○	33.2	73	37	20	基部片側
51-28	8	III層	棒状製品		鹿角	○	2.4	29	12	6	端部
51-29	8	III層	棒状製品		鹿角	○	16.4	86	14	12	
51-30	8	III層	棒状製品		海獣骨	○	6.6	68	10	7	
52-1	9	動物遺体集中	鈎針軸	I b 類	鯨骨		32.5	238	44	9	ほぼ完形、黒色物付着
52-2	9	動物遺体集中	銚頭	雌形 I 類	海獣四肢骨		2.3	52	11	7	先端欠
52-3	9	動物遺体集中	へら状製品		海獣肋骨		9.9	163	27	15	両側挟り
52-4	9	III層	銚頭	雌形 IV 類	海獣骨		4.9	60	18	13	先端・両距欠 線刻あり
52-5	9	III層	銚頭	雌形 IV 類	鹿角?		1.4	49	11	7	索孔斜位、線刻あり
52-6	9	I層	指掛?		陸獣骨?	○	12.3	53	28	17	
52-7	9	IV層 (焼土)	銚頭	雌形 I 類	海獣骨	○	2.2	60	12	6	完形
52-8	9	III層	骨鏃	IV類	海獣骨	○	1.6	38	11	6	両端欠
52-9	9	IV層 (焼土)	骨鏃	I類	鹿角	○	2.4	62	15	5	先端・基部やや欠
52-10	9	IV層 (焼土下)	骨鏃	III類	鳥管骨	○	3	91	9	8	先端やや欠
52-11	9	IV層	鈎針軸	II類	海獣下顎骨		24.1	103	61	20	両端欠
53-12	9	IV層 (焼土)	鈎針軸	I類 接合法	海獣骨		7.9	91	19	10	結合部破片
53-13	9	III層	刺突具?		海獣肋骨		1.3	70	8	5	
53-14	9	III層	刺突具?		海獣骨		0.9	37	9	7	
53-15	9	III層	棒状製品		鹿角	○	1.7	28	9	9	先端両側を面取り
53-16	9	I層	彫刻		鹿角	○	12.9	43	26	21	鱗状の表現
53-17	9	IV層	針入れ?		鳥管骨	○	10.3	118	14	11	両側切断、上端に溝
53-18	9	I層	残片	A1類	鯨骨		23.6	93	31	17	
53-19	9	II層	残片	A1類	鯨骨		47.9	120	40	25	

Table 6 骨角器属性表（本書掲載分）(4)

Fig.	住居	出土層位	器種 1	器種 2	素材	被熱	重さ (g)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考
53-20	9	IV層 (焼土)	掘具		鯨骨	○	16.9	125	31	11	突起 2
53-21	9	IV層	掘具		鯨骨	○	50.2	122	44	13	破片多数を接合
54-22	9	IV層 (焼土)	掘具		鯨骨	○	175.7	290	93	15	大型、再加工
54-23	9	III層	掘具		鯨骨	○	6	37	18	9	基部片側
54-24	9	III層	板状製品		海獣骨	○	9.2	57	20	9	破片
53-25	9	IV層 (焼土)	板状製品		鯨骨	○	6.6	65	38	9	破片
54-26	9	II～IV層	残片		鯨骨	○	183.3	86	125	35	大形、切断痕
54-27	9	II層	残片?		鯨骨		10.8	76	21	13	再加工?
55-1	10	IV層	銚頭	雌形 I 類	海獣骨	○	1.9	38	9	8	尾部破片
55-2	10	I・II層	釣針軸	I 類 接合法	海獣骨	○	1.2	24	8	6	結合部破片
55-3	10	III層	釣針軸	II 類?	鯨骨		20.5	76.6	29.6	12.3	湾曲部破片
55-4	10	IV層	骨鏃	I 類	海獣骨?	○	0.4	25	8	2	
55-5	10	IV層	骨鏃	V 類	エイ尾棘	○	0.2	19.8	4.7	2.8	中間部破片
55-6	10	IV層	不詳品		不明	○	0.4	13.8	6.8	4.4	段のある破片
55-7	10	IV層	掘具		鯨骨	○	111.3	136.6	46.6	14.6	突起片側

Table 7 骨角器属性表 (2012 年報告掲載分の修正版)

Fig.	住居	出土層位	器種 1	器種 2	素材	被熱	重さ (g)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考
47-27	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	0.5	32	6	4	先端やや欠
47-28	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	0.5	35	5	4	完形
47-29	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	1.0	41	5	4	ほぼ完形
47-30	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	1.2	41	6	6	基部やや欠
47-31	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨		1.2	51	7	6	ほぼ完形
47-32	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	1.6	56	8	7	完形
47-33	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	1.2	60	9	7	基部やや欠
47-34	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	2.1	98	9	8	基部欠
47-35	7a	骨塚 a	釣針軸	I b 類 接合法	海獣肋骨	○	30.8	215	34	13	完形
47-36	7a	骨塚 a	釣針軸	I a 類 交差法	海獣肋骨	○	25.8	200	59	13	完形
48-37a	7a	骨塚 a	釣針軸	I b 類 接合法	鯨骨	○	29.6	230	25	18	ほぼ完形 37b と結合状態で出土
48-37b	7a	骨塚 a	釣針軸	I a 類 接合法	鯨骨	○	32.6	217	57	17	ほぼ完形 37a と結合状態で出土
48-38	7a	骨塚 a	骨鏃	Ⅱ類		○	1.2	64	6	7	基部破片
48-39	7a	骨塚 a	棒状製品	Ⅲ類	海獣骨?	○	0.4	22	9	3	有孔
48-40	7a	骨塚 a	垂飾	有孔玉状		○	0.3	12	12	5	
48-41	7a	骨塚 a	棒状製品	Ⅱ類	海獣骨		2.5	40	16	7	破片
48-42	7a	骨塚 a	残片		鯨骨		47.7	162	40	16	釣針軸Ⅱ類の残片
49-43	7b	骨塚 b	銛頭	雌形Ⅱ類	海獣骨	○	5.7	93	14	7	先端やや欠
49-44	7b	骨塚 b	銛頭	雌形Ⅰ類	海獣骨		1.4	39	11	6	上半部破片 先端やや欠
49-45	7b	骨塚 b	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	1.3	53	6	6	先端やや欠
49-46	7b	骨塚 b	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	0.8	33	6	5	先端やや欠
49-47	7b	骨塚 b	骨鏃	Ⅲ類	鳥管骨	○	0.4	34	8	4	頭部破片
49-48	7b	骨塚 b	不詳品		鹿角	○	2.3	24	25	6	浮彫、穿孔あり
49-49	7b	骨塚 b	掘具		海獣骨	○	10.1	53	41	14	刃部破片
49-50	7b	骨塚 b	棒状製品	Ⅱ類	海獣肋骨	○	27.2	295	15	6	ほぼ完形
50-51	7	Ⅲ層	彫刻	クマ	鹿角	○	14.0	40	28	35	頭部破片
50-52	7	攪乱	彫刻	海獣	鹿角	○	2.1	31	9	9	頭部・尾部端欠
50-53	7	Ⅳ層	彫刻	魚?浮彫	鹿角	○	9.6	40	25	19	破片
50-54	7	Ⅲ層	彫刻	海獣浮彫	鹿角	○	10.4	37	31	14	鱗部破片
50-55	7	Ⅲ層	彫刻	クジラ	鹿角	○	9.3	61	24	16	頭部破片
50-56	7	Ⅲ層	彫刻	クジラ	鹿角	○	4.1	35	14	21	口吻部破片
50-57	7	Ⅳ層	彫刻	ラッコ	鹿角	○	4.0	42	13	14	頭部破片
50-58	7	Ⅳ層	垂飾	有孔円盤	鹿角	○	9.0	57	64	5	
50-59	7	Ⅳ層	垂飾	有孔円盤	鹿角	○	4.9	54	41	5	
50-60	7	Ⅳ層	垂飾	有孔円盤	鹿角	○	5.3	40	20	6	接合しないがおそらく同一
50-61	7	Ⅳ層	銛頭	雌形Ⅱ類	海獣骨	○	1.3	30	13	6	頭部破片
50-62	7a	Ⅳ層	銛頭	雌形Ⅱ類	海獣四肢骨	○	1.7	22	11	9	索溝部破片
50-63	7	Ⅲ層	彫刻		鹿角	○	26.5	72	54	24	線刻 7 本 他 7 片
93-22 ※	8	Ⅲ層	彫刻	クマ	鹿角	○	4.4	33	16	22	上半部破片 首輪・縄の表現?



# **Tokoro Chashi Site Okhotsk Locality**

## **Volume 2**

### **Additional Report of Excavated Artifacts**

2020

Tokoro Research Laboratory,  
Graduate School of Humanities and Sociology,  
The University of Tokyo





# CONTENTS

## Explanatory Notes

I Outline of the Tokoro Chashi Site Okhotsk Locality and the Excavated Materials Listed in This Report . . . .	1
1 Outline of the Site and Pit Houses . . . . .	1
2 About the Materials in This Report . . . . .	2
II Pottery . . . . .	4
1 Pottery from the Fill of Pit House 7 . . . . .	4
2 Pottery from the Fill of Pit House 8 . . . . .	16
3 Pottery from the Fill of Pit House 9 . . . . .	24
4 Pottery from the Fill of Pit House 10 . . . . .	36
5 Discussion on Pottery from the Tokoro Chashi Site Okhotsk Locality . . . . .	43
6 Catalog of Pottery . . . . .	47
III Stone Tools . . . . .	63
1 Stone Tools from Pit House 7 . . . . .	63
2 Stone Tools from Pit House 8 . . . . .	69
3 Stone Tools from Pit House 9 . . . . .	69
4 Stone Tools from Pit House 10 . . . . .	72
5 Catalog of Stone Tools . . . . .	73
IV Bone and Antler Artifacts . . . . .	76
1 Outline of the Materials . . . . .	76
2 Bone and Antler Artifacts from Pit House 7 . . . . .	76
3 Bone and Antler Artifacts from Pit House 8 . . . . .	84
4 Bone and Antler Artifacts from Pit House 9 . . . . .	88
5 Bone and Antler Artifacts from Pit House 10 . . . . .	92
6 Classification . . . . .	92
7 Catalog of Bone and Antler Artifacts . . . . .	96

## Plates

CONTRIBUTORS

Toshiaki KUMAKI

Ken TAKAHASHI

Daigo NATSUKI

## LIST OF FIGURES

- Fig. 1 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-1
- Fig. 2 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-2
- Fig. 3 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-3
- Fig. 4 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-4
- Fig. 5 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-5
- Fig. 6 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-6
- Fig. 7 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-7
- Fig. 8 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-8
- Fig. 9 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 7-9 and the clay figurine from the fill of Pit House 7
- Fig. 10 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 7-1
- Fig. 11 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 7-2
- Fig. 12 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 8-1
- Fig. 13 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 8-2
- Fig. 14 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 8-3
- Fig. 15 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 8-4
- Fig. 16 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 8-1
- Fig. 17 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 8-2
- Fig. 18 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 8-3
- Fig. 19 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 9-1
- Fig. 20 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 9-2
- Fig. 21 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 9-3
- Fig. 22 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 9-4
- Fig. 23 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 9-5
- Fig. 24 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 9-6 and clay objects from the fill of Pit House 9
- Fig. 25 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 9-1
- Fig. 26 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 9-2
- Fig. 27 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 9-3
- Fig. 28 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 9-4
- Fig. 29 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 10-1
- Fig. 30 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 10-2
- Fig. 31 Okhotsk pottery from the fill of Pit House 10-3
- Fig. 32 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 10-1

- Fig. 33 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 10-2
- Fig. 34 Satsumon, Epi-Jomon, and Jomon pottery from the fill of Pit House 10-3
- Fig. 35 Stone tools from Bone Mound a in Pit House 7a
- Fig. 36 Stone tools from Bone Mound a and Bone Mound b in Pit House 7
- Fig. 37 Stone tools from the floor of Pit House 7-1
- Fig. 38 Stone tools from the floor of Pit House 7-2
- Fig. 39 Stone tools from the floor and Bone Mounds of Pit House 8
- Fig. 40 Stone tools from the floor of Pit House 8 and the fill, and the floor of Pit House 9
- Fig. 41 Stone tools from the floor of Pit House 9 and the floor of Pit House 10
- Fig. 42 Bone and antler artifacts from Pit House 7-1
- Fig. 43 Bone and antler artifacts from Pit House 7-2
- Fig. 44 Bone and antler artifacts from Pit House 7-3
- Fig. 45 Bone and antler artifacts from Pit House 7-4
- Fig. 46 Bone and antler artifacts from Pit House 7-5
- Fig. 47 Bone and antler artifacts from Pit House 7-6
- Fig. 48 Bone and antler artifacts from Pit House 7-7
- Fig. 49 Bone and antler artifacts from Pit House 8-1
- Fig. 50 Bone and antler artifacts from Pit House 8-2
- Fig. 51 Bone and antler artifacts from Pit House 8-3
- Fig. 52 Bone and antler artifacts from Pit House 9-1
- Fig. 53 Bone and antler artifacts from Pit House 9-2
- Fig. 54 Bone and antler artifacts from Pit House 9-3
- Fig. 55 Bone and antler artifacts from Pit House 10
- Fig. 56 The antler figurine from Pit House 8 (scale-corrected, originally reported in 2012)

## LIST OF PLATES

- PL. 1 Pottery from the fill of Pit House 7
- PL. 2 Pottery and the clay figurine from the fill of Pit House 7
- PL. 3 Pottery from the fill of Pit House 8
- PL. 4 Pottery and clay objects from the fill of Pit House 9 and Pit House 10
- PL. 5 Bone and antler artifacts from Pit House 7
- PL. 6 Bone and antler artifacts from Pit House 7
- PL. 7 Bone and antler artifacts from Pit House 7
- PL. 8 Bone and antler artifacts from Pit House 7 and Pit House 10
- PL. 9 Bone and antler artifacts from Pit House 8
- PL. 10 Bone and antler artifacts from Pit House 8 and Pit House 9
- PL. 11 Bone and antler artifacts from Pit House 9



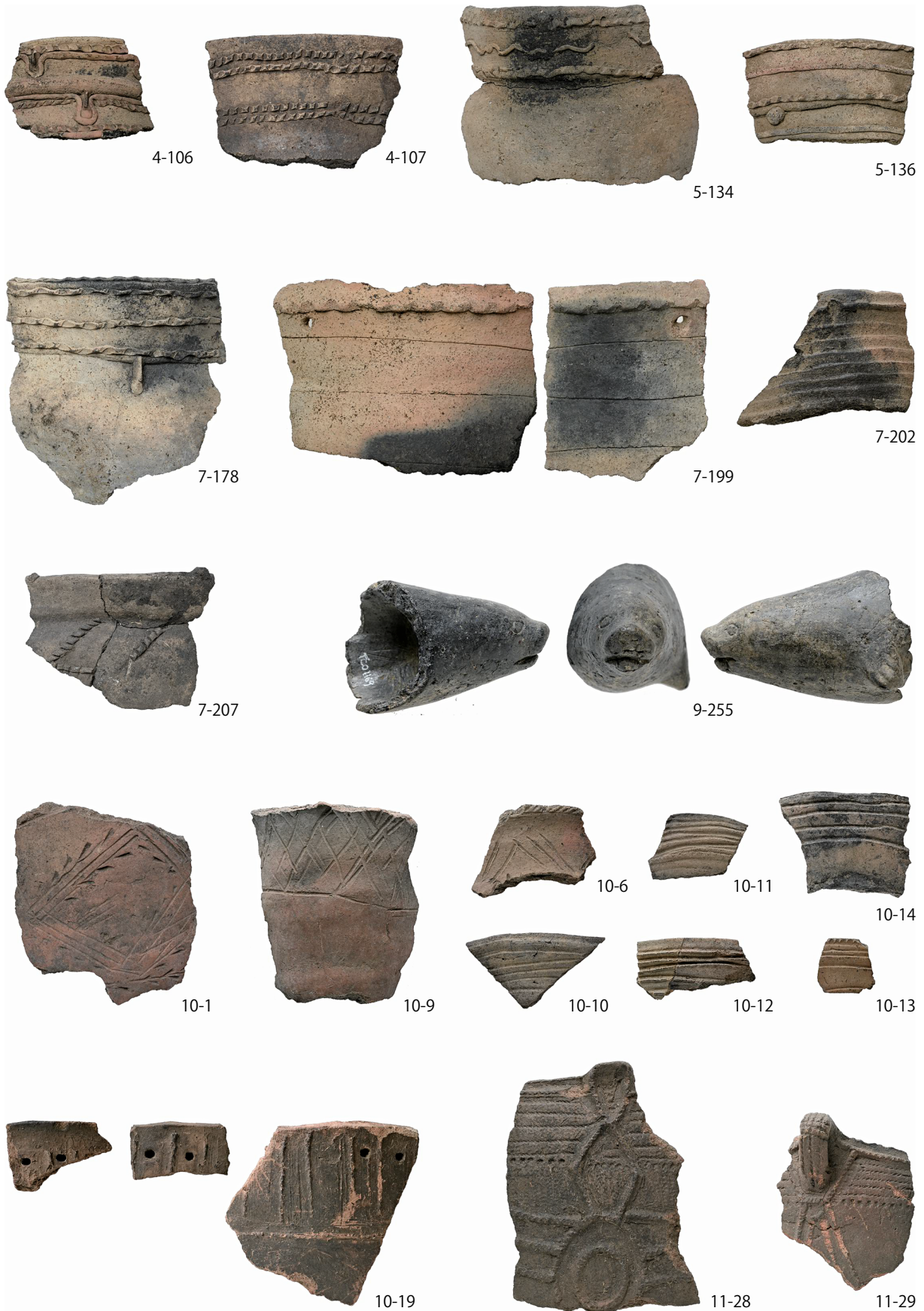


7号竪穴埋土出土土器 (1/3)

※番号は本文挿図番号に対応、以下の写真図版も同様



PL. 2 7号竖穴埋土出土土器・土製品



7号竖穴埋土出土土器・土製品 (9-255 は 2/3、他は 1/3)



12-16



12-17



12-33



12-37



13-38



13-39



14-72



14-86



14-87



15-103



16-7



16-12



17-31



17-50



18-60

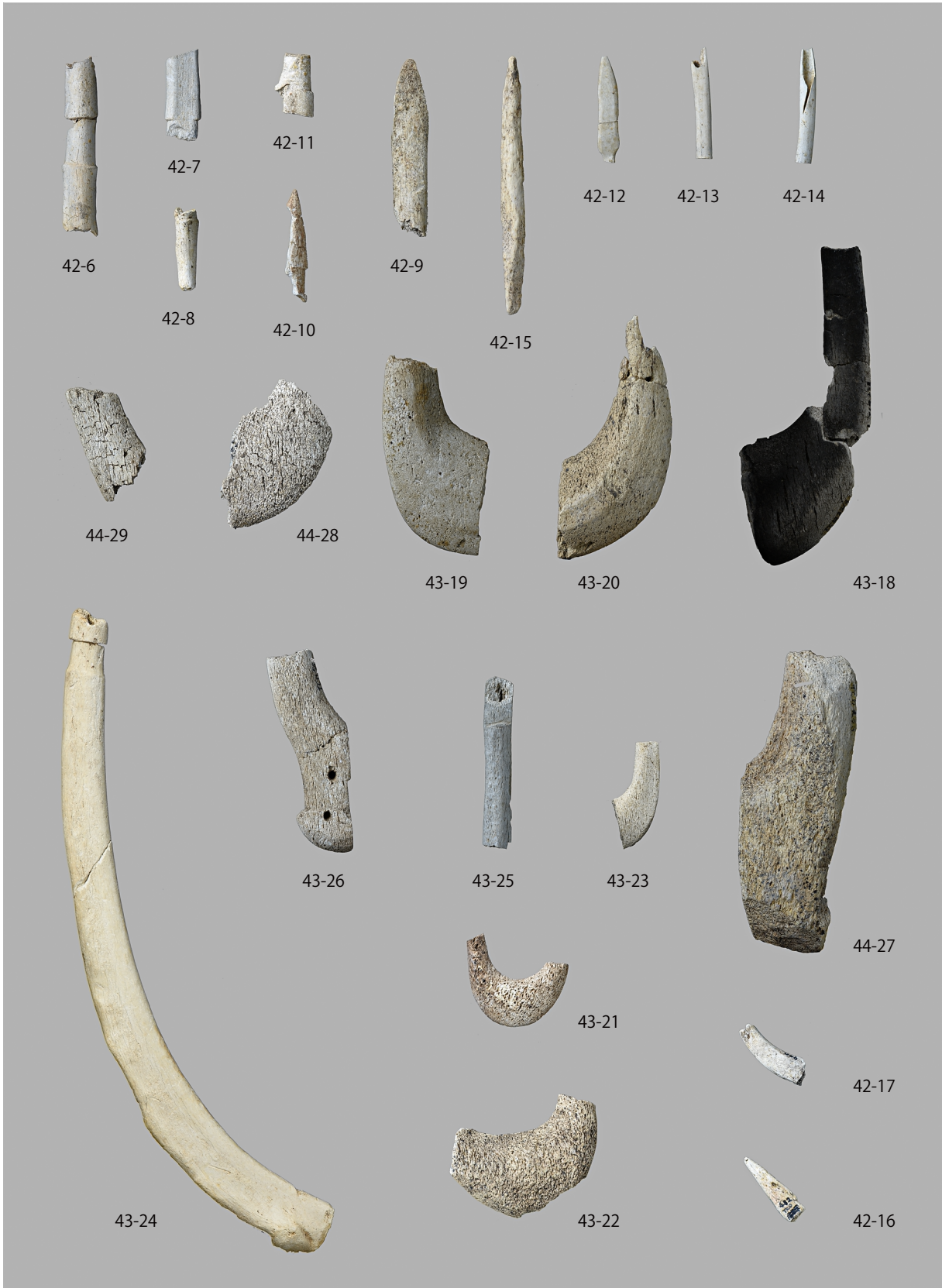


16-1

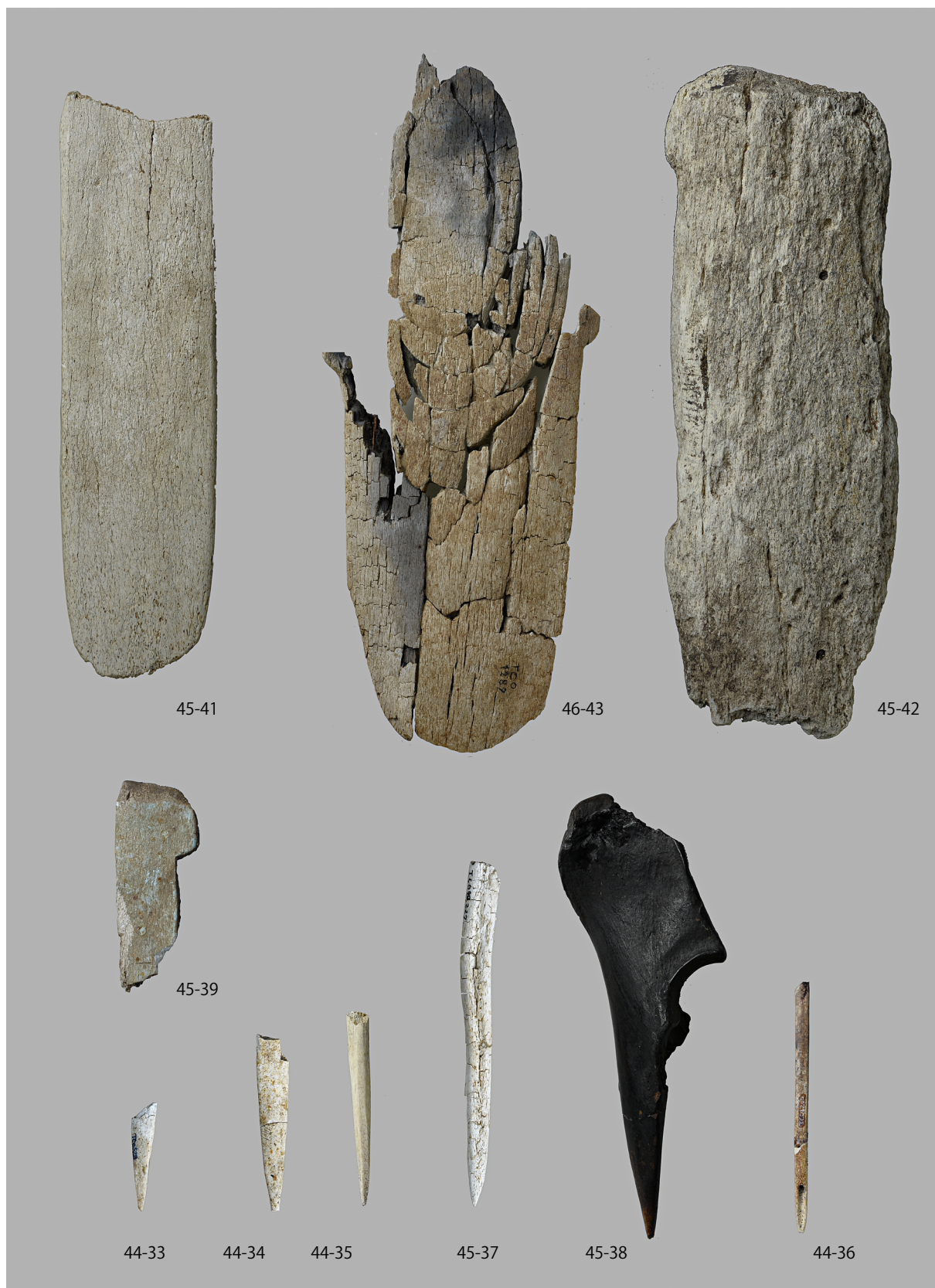
PL. 4 9号竖穴埋土・10号竖穴埋土出土土器・土製品



9号竖穴埋土（上段）・10号竖穴埋土（下段）出土土器・土製品（1/3）



7号竖穴出土骨角器 (1/2)



7号竖穴出土骨角器 (1/2)



7号竖穴出土骨角器 (1/2)

PL. 8 7号竖穴·10号竖穴出土骨角器



7号竖穴出土骨角器 (1/2)

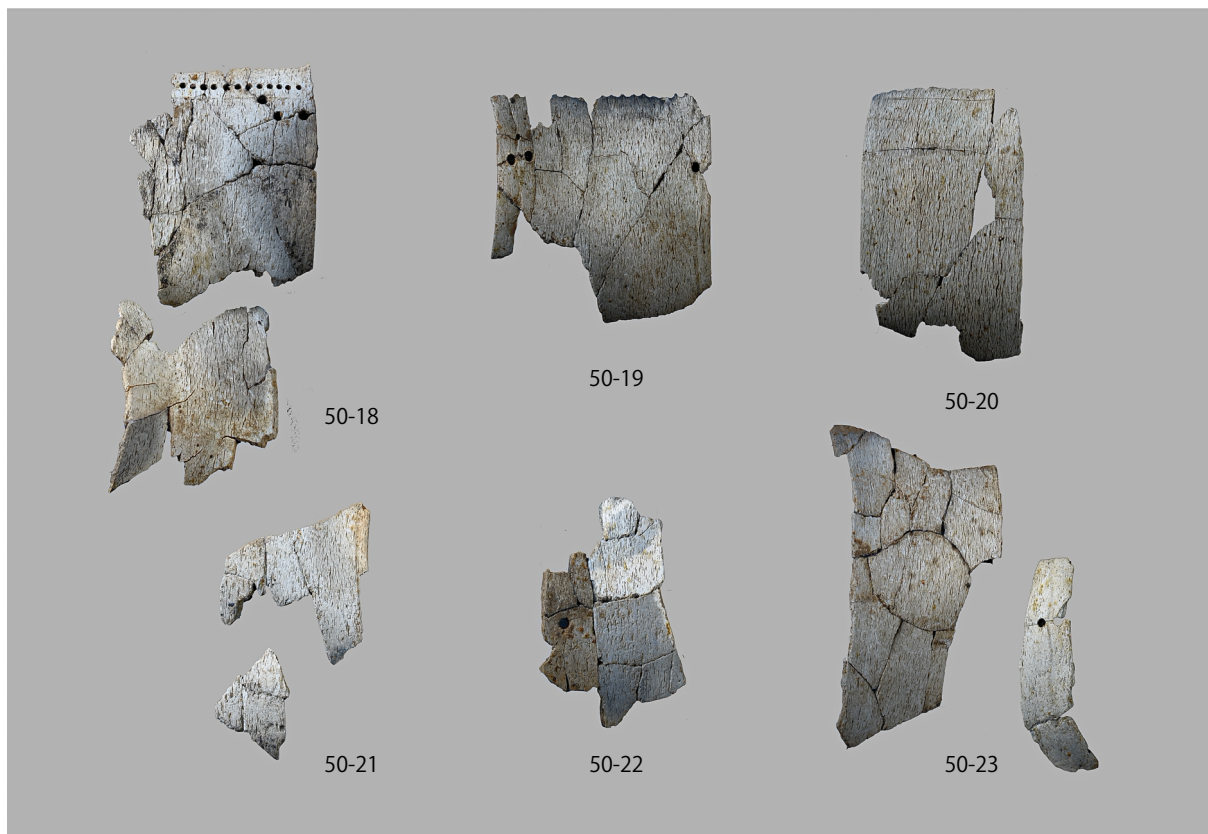


10号竖穴出土骨角器 (1/2)



8号竖穴出土骨角器 (1/2)

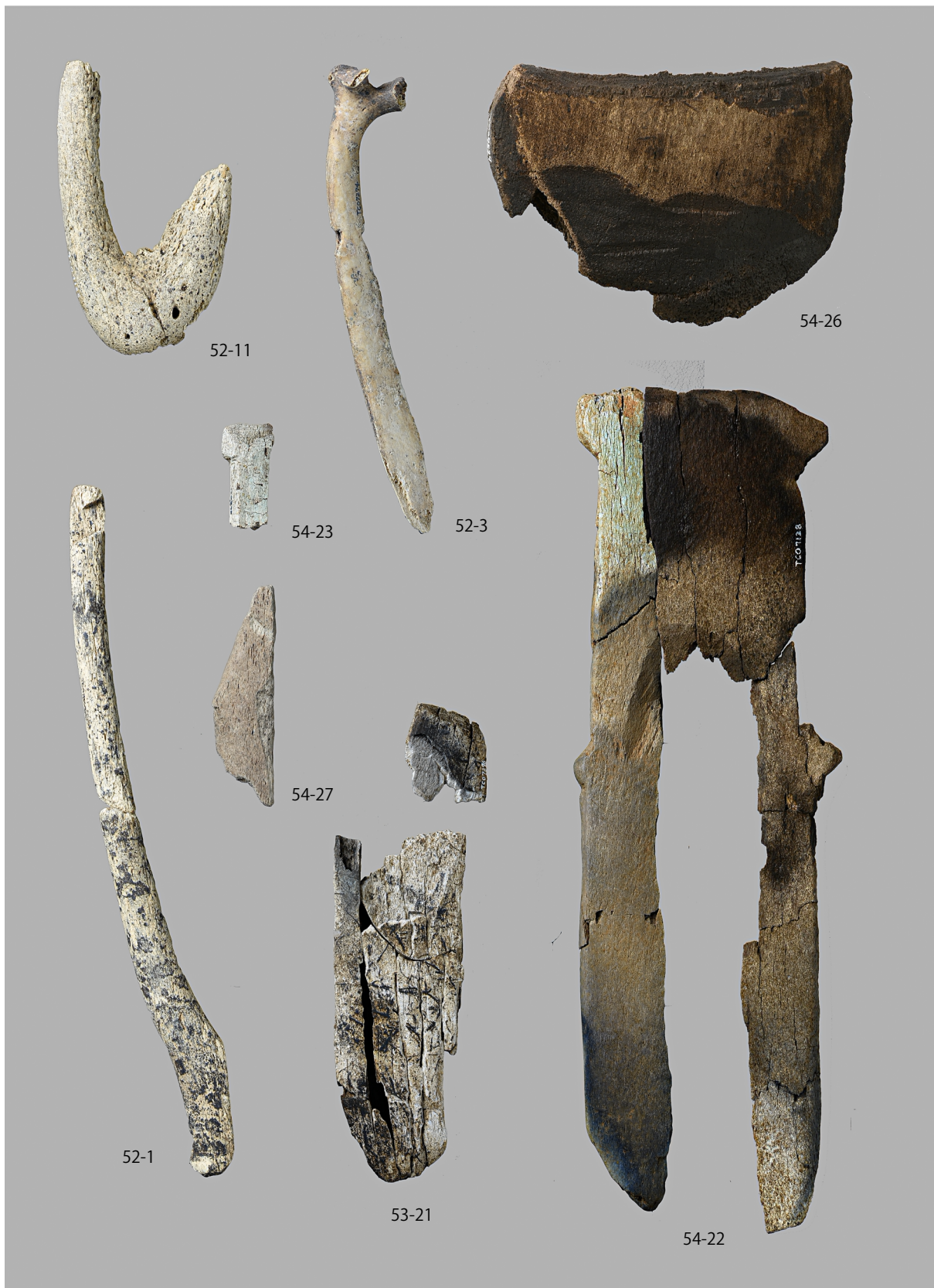




8号竖穴出土骨角器 (1/2)



9号竖穴出土骨角器 (1/2)



9号竖穴出土骨角器 (1/2)



報告書抄録

ふりがな	ところちやしあといせき おほ一つくちてん 2 しゅつどいぶつのつかほうこく							
書名	トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点（2） -出土遺物の追加報告-							
副書名								
巻次								
シリーズ名	常呂実習施設研究報告 第15集							
シリーズ番号								
著者名	熊木俊朗 高橋健 夏木大吾							
編集機関	東京大学人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設							
所在地	北海道北見市常呂町字栄浦376 〒093-0216 TEL 0152-54-2387							
発行年月日	2020/3/16							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
史跡常呂遺跡 （トコロチャシ跡 遺跡群）	北海道北見市常呂町 字常呂112番地1、 111番地1	012084	I-02-335	44° 07' 09"	144° 04' 39"	1998/8/20～ 2005/9/13	681㎡	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記
史跡常呂遺跡 （トコロチャシ跡 遺跡群）	集落跡	縄文時代				土器（早期・前期・中 期・後期・晩期）		未報告であった 遺物の追加報告  遺構とそれに伴う 遺物の大半は2012 年に報告済み
		続縄文時代				土器		
		オホーツク文化期				土器・土製品・ 石器・骨角器		
		擦文時代				土器		
		アイヌ文化期				骨角器		

---

---

東京大学常呂実習施設研究報告 第15集  
トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (2)  
—出土遺物の追加報告—

---

2020年3月16日

編集 熊木 俊朗  
発行 東京大学大学院人文社会系研究科  
附属北海文化研究常呂実習施設  
北海道北見市常呂町字栄浦 376  
印刷 株式会社イセブ  
茨城県つくば市天久保 2-11-20

---

---